

昭和 43 年 度

地力保全基本調査成績書

[陸別地域 足寄町]



北海道立中央農業試験場

140

序

現状における土地生産力は諸種の土壌的阻害要因によつて十分にその地力を発揚できない場合が少くないのみならず、一方では剝脱要因もあつてその地力は消耗低下しつゝある。従つてこれら阻害要因を排除して合理的かつ適切な地力保全の対策を推進し、もつて当面の農業構造改善の基盤整備に資するため、昭和34年より農林省農政局の助成を得て基本的土壌調査分類を実施している。

本調査成積書は昭和43年度に行つた12地域20市町村をとりまとめたもので、こゝにこれを公表し営農安定の資に供する次第である。

現地調査の遂行に際して御協力を得た関係市町村、農業協同組合ならびに農業改良普及所の関係各位に対して、深く感謝の意を表す。

昭和44年3月

北海道立中央農業試験場

和田 忠 雄

調査並びに取まとめ方法

本調査は、凡そ100ha以上の集団になつている農耕地および付帯地を調査対象とし、調査および取まとめに当つては、夫々下記の資料に基づいた。

1. 土壤断面調査および現地での営農状況は地力保全対策資料第6号（昭和36年9月、農林省振興局農産課）によつた。
2. 土壤統および区の設定並びに土壤生産力可能性等級基準は、地力保全対策資料第12号（昭和40年3月、農林省農政局農産課）及び水田土壤統設定第1次案（昭和38年12月、農技研化学部土壤第3課）による。

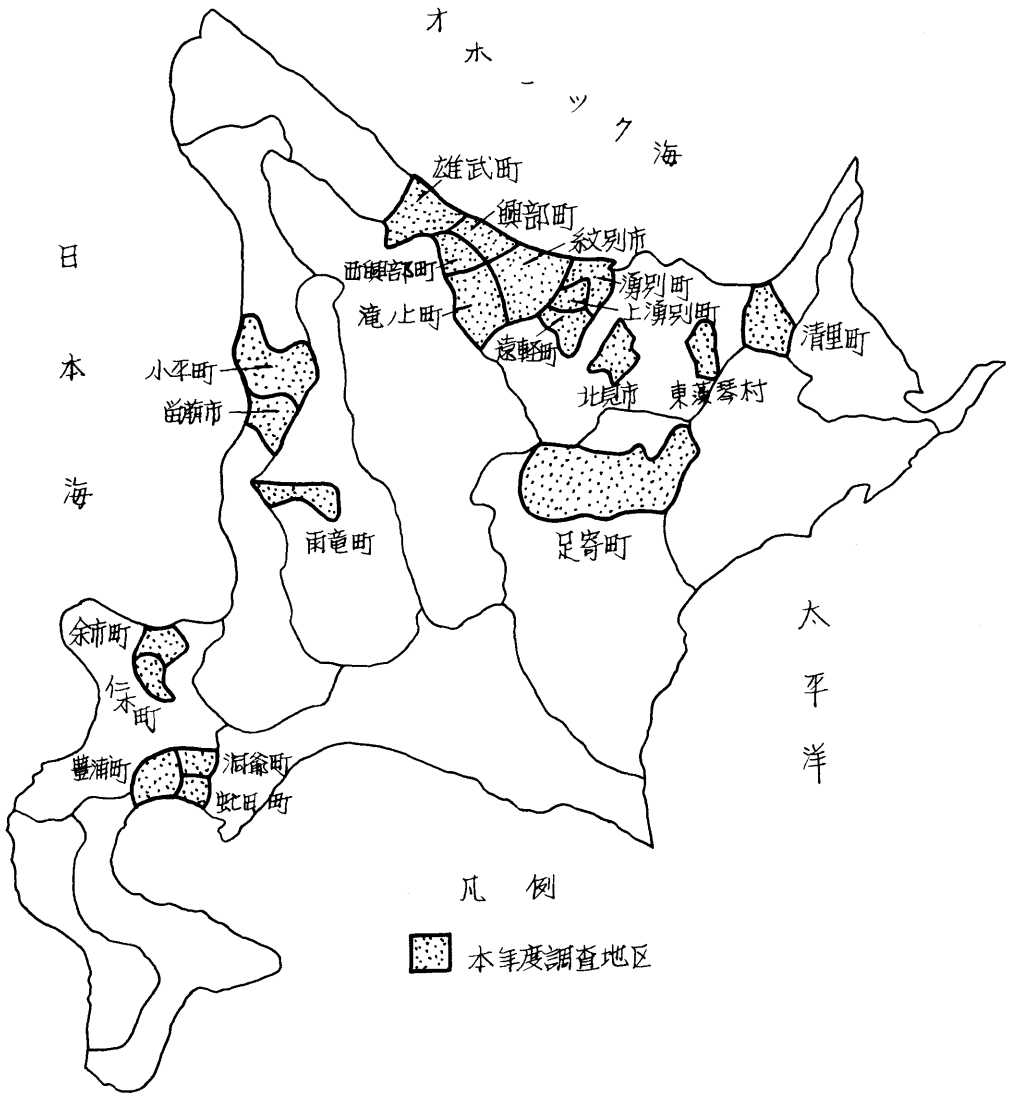
土壤統および土壤区の設定に当つては、北海道農業試験場農芸化学部土壤第1研究室の土性図を参照した。

化 学 部	部 長	長 谷 部 俊 雄
土 壤 改 良 科	科 長	後 藤 計 二
”	第 1 係 長	小 林 荘 司
”	研 究 職 員	水 元 秀 彰
	”	伊 東 輝 行
	”	木 村 清
	”	松 原 一 実
	”	坂 本 宜 崇
		（ 現 在 ・ 天 北 農 試 ）
	第 2 係 長	大 垣 昭 一
	研 究 職 員	小 林 茂
	”	宮 脇 忠
	”	山 本 晴 雄
	”	高 橋 市 十 郎
	”	上 坂 晶 司
	第 3 係 長	高 尾 欽 弥
十 勝 農 試		
土 壤 肥 料 科	研 究 職 員	菊 地 晃 二
	”	関 谷 長 昭
北 見 農 試		
土 壤 肥 料 科	研 究 職 員	秋 山 喜 三 郎

1. 調査地域一覽

調査地域名	該 当 郡 市 町 村 名	農 地 面 積 (調査対象面積) (ha)		既 調 査 面 積 (ha)		本 年 度 調 査 面 積 (ha)	
		水 田	畑	水 田	畑	水 田	畑
北 見	北 見 市	2,497	9,935	-	-	2,497	9,935
丸瀬布・遠 軽	遠 軽 町	460	3,172	-	-	460	3,172
	湧 別 町	329	5,083	-	-	329	5,083
	上湧別町	480	2,962	-	-	480	2,962
紋 別	紋 別 市	68	6,468	-	-	68	6,468
	興 部 町	2	2,943	-	-	2	2,943
	西興部町	-	1,487	-	-	-	1,487
枝幸・雄武	雄 武 町	-	2,794	-	-	-	2,794
滝ノ上	滝ノ上町	522	3,960	-	-	522	3,960
斜 里	清 里 町	1	7,028	-	-	1	7,028
網走湖畔	東藻琴村	138	4,291	-	-	138	4,291
陸 別	足 寄 町	22	10,308	-	-	22	10,308
洞爺湖畔	豊 浦 町	225	2,324	-	1,000	-	1,324
	洞 爺 町	245	2,321	-	-	245	2,321
	虻 田 町	68	1,411	-	-	68	1,411
樺 戸	雨 竜 町	2,482	760	-	-	2,482	760
留 萌	留 萌 市	1,067	792	-	-	1,067	792
	小 平 町	1,505	925	-	-	1,505	925
後志北部	余 市 町	698	2,060	-	-	698	2,060
	仁 木 町	885	1,053	-	-	885	1,053
合 計		11,685	72,077	-	1,000	11,685	71,077

調査地区位置図



陸 別 地 域 足 寄 町

1 地区の概況

1) 位置及び調査面積

(1) 位 置 北海道足寄郡足寄町

(2) 調査面積

都市町村名	農地総面積 (ha)			調査対象面積 (ha)		
	水田	畑	計	水田	畑	計
足寄郡足寄町	22	10,308	10,330	22	10,308	10,330

2) 気 象

内陸性気候を呈し、夏季の気温は少々高いが、気温較差が大きく、冬季の乾燥極植が著しい特徴がある。気温は9月下旬から急に下がる。年平均気温は5.6℃である。降水量は837mmで10月に降は少ない。北西の季節風により秋晴れの日が続くが、同時に気温が低下し、一般に初霜が早い。冬季は低温が著しく、かつ積雪量が少ないために土壌が深くまで凍結し、春季の融雪、融凍時には水蝕が発生する。また5月～6月にかけては季節風による土壌の飛散が甚しく、農作業の播種期、発芽期は多大の被害を与えている。

最寄りの足寄測候所の観測成績は次の通りである。

項目	月別									
	4	5	6	7	8	9	10	11		
気 平 均	4.8	10.6	14.7	19.2	20.3	15.9	8.5	1.4		
温 最 高 平 均	11.3	17.6	20.8	24.1	24.9	21.2	15.5	7.3		
(C) 最 低 平 均	-1.7	3.5	8.5	14.3	15.6	10.5	2.3	-4.5		
月 降 水 量 (mm)	51	85	79	114	113	134	77	43		
日 最 大 降 水 量 (mm)	40	42	49	41	74	116	49	36		

3) 土地条件

(1) 地 形

地区の東部及び南部は起伏のある標高200～400m内外の丘陵におゝわれている。西部は標高400cmの平坦な丘陵地を形成している。また河川に沿って河成洪積の段丘が2段からなる階段状で平坦かもしくは緩傾斜を呈する。各河川の低地は沖積地となり一部泥炭地扇状地が形成されている。

(2) 地 質

各河川の流域は河川的作用による沖積地が分布し、台地に接するところや台地の凹地は泥炭地が形成されている。段丘上の表層は新しい雌阿寒岳を主体とする火山灰に覆われている。その下部は洪積世堆積物からなっている。また一部に三紀層も存在する。

(3) 侵蝕状況

5月、6月頃一般に乾燥し、季節風によつて、表土の軽しようなこととあいまつて、風蝕が発生し時により著しく被害をうけることがある。また冬季間積雪量が少ないため土壌凍結が甚しく、春先の融凍時には水蝕の発生が多い。

(4) 交通

道々が完備され、これより町道、農道、開拓道路が通じているので一部を徐げば交通は不便ではない。しかしまだ大部分が砂利敷が不完全のために春先の融凍時には不通となっている。

4) 土地利用及び営農状況

a) 経営面積

畑1戸当平均面積10.0ha

b) 主要農作物の作付面積の変動

	昭和30年	昭和35年	昭和40年	昭和43年
小麦	113	57	201	77
馬鈴薯	427	341	286	214
てん菜	134	263	420	363
大豆	2,207	2,464	1,201	729
小豆	385	741	418	835
菜豆	1,688	2,198	1,916	1,640
えん麦	635	765	558	460
牧草	426	952	2,402	3,610

c) 主要農作物の作付面積及び収穫量及び施肥基準

作物	作付面積	収穫量 Kg/10a	施肥基準 Kg/10a			
			N	P	K	堆肥
水稲	12 ha	300	5.5 (5.5)	6.0 (6.0)	4.0 (4.0)	1,500 (2,000)
小麦	77	270	4.5 (4.5)	9.0 (9.0)	5.5 (5.5)	1,000 (2,000)
馬鈴薯	214	1,800	4.5 (7.0)	7.0 (10.0)	7.0 (10.0)	500 (2,000)
大豆	729	165	8.0 (10.0)	6.0 (8.0)	3.0 (4.0)	1,000 (2,000)
小豆	835	108	2.0 (2.0)	8.0 (8.0)	4.0 (4.0)	1,000 (2,000)
菜豆	1,640	162	3.0 (3.0)	8.0 (8.0)	4.0 (4.0)	1,500 (2,000)
えん麦	460	172	3.0 (4.0)	4.0 (6.0)	3.0 (3.5)	500 (2,000)
てん菜	363	3,800	1.4 (1.4)	23.0 (23.0)	13.0 (13.0)	1,500 (3,000)
牧草	3,610	3,150	3.0 (3.0)	5.0 (5.0)	5.0 (5.0)	500 (2,000)
家畜用根菜	70	3,600	8.0 (1.4)	16.0 (23.0)	8.0 (13.0)	500 (2,000)

* () 町指導要素量

d) 家畜の種類及び頭数(全町)

	乳牛	馬	豚	綿羊	にわとり
飼育戸数	517	987	32	41	125
飼育頭数	4,926	2,300	350	295	21,500
1戸平均飼養頭数	9.53	2.3	10.9	7.1	1720

e) 農機具及び施設(全町)

種 類	数 量
トラクタ	17
耕耘機	8
動力噴霧機	7
ポテトハーベスター	—
ビートハーベスター	—
バインダー	—
ペーラ	—
小型四輪車	108
乗用車(農家)	63
堆肥場	68
尿散布機	5
サイロ	405

f) 経営規模別農家数

経営面積(ha)	戸 数	
	昭和41年2月	昭和44年2月
1未満	30	24
1～2ha	52	16
2～3		42
3～5	166	144
5～10	619	531
10～20	207	258
20ha以上	6	10

g) 乳牛飼養頭数別戸数

飼 養 頭 数	戸 数
1頭	17
2 "	40
3 "	30
4～5 "	98
6～9 "	130
10～15 "	136
16～20 "	55
21～	10

h) 労働の関係(1戸当人数)

家 族	労働換算		常 雇		臨 時 雇
	男	女	男	女	
5	1	0.8	—	—	20

i) 農家戸数の変動

	戸 数
昭和30年	1,375
" 35 "	1,422
" 40 "	1,080
" 43 "	1,047

当町は十勝管内の東北部に位置し、最近までは豆類を主体とする穀菽経営が営まれていた。一般に耕地面積は広い方で北海道畑作の代表的地帯である。戦後、乳牛の導入が推進され、穀菽単作経営から乳牛を加味した混同経営あるいは主畜経営に転換する傾向にはあつたが思うようには進んでいなかつたが最近におけるそのテンポは早く着実に進まわれつつある。昭和43年度当町における今後の農業の方針と現在の重点課題は次の通りである。

(基本構想)

当町の各種条件に順応した乳牛を基幹とし肉牛、てん菜、麦類、馬鈴薯、とうもろこし、豆類を配し、第1次農業改善計画(目標年次昭和47年)における所得85万円、第2次農業改善計画(目標年次昭和52年度)の130万円を目標とする安定経営を指標とし、寒地農業の確立を図る。(現在の進めていること)

現在当町において寒地農業の確立を図るためてん菜の作付奨励、省力用、深耕用機械の導入等農家経営経済の安定に努めている。

2 土壌の類型区分及び説明

1) 土壌統一覧及び土壌区一覧

(1) 土壌統一覧

土壌統名	色層序	腐植層序	礫砂層を混在する砂層	酸化沈積物	土性		母材堆積様式	
					表土	次層		
上ラワン	Y/Y	表層腐植層なし	あり	あり	強粘質	強粘質	非固結火成岩 半固結水成岩	風積残積
植坂山	YR/YR	表層多腐植層	あり	なし	粘質	壤質	非固結火成岩	風積残積
茂キトウシ	"	"	あり	なし	"	"	非固結火成岩 非固結水成岩	風積水積
キトウシ	"	"	あり	なし	"	礫質	"	"
東芽登	"	"	あり	なし	"	壤質	"	"
足寄太	"	表層腐植層	あり	あり	"	粘質	"	"
塩幌	"	"	"	"	"	壤質	"	"
ワシウブ	"	"	"	なし	"	"	"	"
足寄北	"	表層多腐植層	"	"	"	"	"	"
上利別	"	表層腐植層	"	"	強粘質	"	"	"
愛冠	"	"	"	"	粘質	"	"	"
トブシ	"	全層多腐植層	なし	"	強粘質	"	"	"
足寄太西	"	表層腐植層	あり	あり	粘質	"	"	"
ラワン中央	"	"	なし	なし	"	粘質	"	"
植坂	"	"	あり	"	"	壤質	"	"
上芽登	"	"	"	あり	"	粘質	"	"
静岡中央	"	"	なし	"	強粘質	"	"	"

土 壤 統 名	色 層 序	腐 植 層 序	礫、砂礫層 礫を混在 する砂層	酸 化 沈 積 物	土 性		母 材 堆 積 様 式	
					表 土	次 層		
長 野	YR/YR	表層腐植層	なし	あり	粘 質	壤 質	非固結火成岩 非固結水成岩	風積 水積
足 寄	"	"	"	"	"	粘 質	"	"
下 愛 冠	"	"	"	なし	"	壤 質	"	"
柏 倉	"	全層多腐植層	"	"	強粘質	"	"	"
利 別 川	"	表層腐植層	あり	"	"	"	"	"
東キトウシ	"	表層多腐植層	"	"	粘 質	"	"	"
塩 幌 北	"	"	"	あり	"	"	"	"
中 足 寄	"	表層腐植層	"	"	"	粘 質	"	"
足寄太中央	"	表層腐植層 なし	"	なし	"	壤 質	非固結水成岩	水積
西 1 線	"	"	"	"	壤 質	砂 質	"	"
稲 牛	Y / Y	"	"	"	粘 質	粘 質	"	"
奥 足 寄	YR/YR	"	"	"	"	壤 質	"	"
下 白 愛	"	"	"	"	"	粘 質	"	"
上 足 寄	"	表層腐植層	"	"	"	礫 質	非固結火成岩 非固結水成岩	風積 水積
ラ ワ ン	"	表層腐植層 なし	"	"	"	"	"	"
菅 地	"	"	"	あり	壤 質	"	"	"
愛冠中央	"	全層多腐植層	なし	あり	粘 質	ヨ シ ハンノキ	非固結火成岩 ヨシ、ハンノキ	風積 集積

2) 土 壤 区 一 覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式	土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
上ラワンー上ラワン	dps twfae	足 寄 太ー足 寄 太	pwfn
植 坂 山ー植 坂 出	(w)fnse	塩 幌 一塩 幌	s d p f n i a e
茂キトウシー茂キトウシ	pwfn	ワ シ ッ プーワ シ ッ プ	p n i
キトウシーキトウシ	d p w f n i a s e	足 寄 北ー足 寄 北	f p w n s
東 芽 登ー東 芽 登	f n	上 利 別ー上 利 別	s d p n i a e

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式	土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
愛 冠 一 愛 冠	ll f	東キトウシ 一 東キトウシ	ll(w)ll(w)f
ト ブ シ 一 ト ブ シ	ll f ll pw	塩 幌 北 一 塩 幌 北	ll w ll p f n a
足 寄 太 西 一 足 寄 太 西	ll pw s e	中 足 寄 一 中 足 寄	ll w ll t p f
ラワン中央 一 ラワン中央	ll p n s e	足 寄 太 中 央 一 足 寄 中 央	ll t d p ll t d p a
植 坂 一 植 坂	ll w ll d p f n a s e	西 1 線 一 西 1 線	ll(w)ll t f a
上 芽 登 一 上 芽 登	ll w f ll d p n	稲 牛 一 稲 牛	ll t p f ll t p f a
静岡中央 一 静岡中央	ll d w ll p n i a	奥 足 寄 一 奥 足 寄	ll s e ll t f n
長 野 一 長 野	ll d w s ll t p f n i	下 白 愛 一 下 白 愛	ll s ll t p w f a
足 寄 一 足 寄	ll w f ll t p n a	上 足 寄 一 上 足 寄	ll d i ll t g p s
下 愛 冠 一 下 愛 冠	ll p	ラ ワ ン 一 ラ ワ ン	ll d i ll t g p s
柏 倉 一 柏 倉	ll p w f	菅 地 一 菅 地	ll w ll d g f s
利 別 川 一 利 別 川	ll d p w	愛 冠 中 央 一 愛 冠 中 央	ll w f ll t d p n a

3 土 壤 統 別 説 明

上 ラ ワ ン 統

(1) 土 壤 統 の 概 説

A 土 壤 統 の 特 徴

A-1 断 面 の 特 徴

第1層は厚さ16cm内外、土性はSiCである。腐植含量3.7%内外、色は2.5Yで明度4、彩度2である。半風化の小、中の角礫あり、弱度の細粒状構造あり、細孔あり。ち密度13で疎、pH(H₂O)6.1、下層との境界は判然である。

第2層は厚さ15cm内外、土性はLiCである。腐植を欠く。色は2.5Yで明度5彩度2である。半風化の小、中の角礫含む。発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし、ち密度16で疎、pH(H₂O)4.7、下層との境界は漸変する。

第3層は30cmで、土性はHCである。腐植欠き、色は2.5Yで明度7、彩度2である。半風化、未風化角礫に富む、発達弱度の塊状構造、柱状構造あり、孔隙なし、ち密度20で中、pH(H₂O)4.6である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地)北海道足寄郡足寄町 試坑 №123

第1層	0~16cm	腐植含む、暗灰黄(2.5Y4/2)でSiC、半風化の小、中角礫あり、弱度の細粒状構造あり、細孔あり、ち密度13で疎、pH(H ₂ O)6.1、調査時の湿り半乾、層界判然
第2層	16~30cm	腐植欠く、暗灰黄(2.5Y5/2)でLiC、半風化の小中角礫あり、弱度の塊状構造あり、孔隙なし、ち密度16で疎、pH(H ₂ O)4.7、調査時の湿り半乾、層界漸変
第3層	30cm~	腐植欠く、灰黄(2.5Y7/2)でHC、半風化、未風化の角礫に富む、弱度の塊状構造あり、孔隙なし、明褐の斑紋あり、ち密度20で中、pH(H ₂ O)4.6、調査時の湿り半乾

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容 積重%	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~16	6.8	2.6	0.4	22.5	46.4	30.7	SiC	-	-	2.17	0.18	12	3.7
2	16~30	7.5	14.0	0.5	18.5	45.1	35.9	SiC	-	-	-	-	-	-
3	30~	8.7	22.0	0.3	15.7	24.6	59.5	HC	-	-	-	-	-	-

層位	P H		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石灰飽和 度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.12	5.32	0.38	30.1	23.6	3.6	0.9	76.1	1020	336
2	4.73	3.77	22.55	28.8	13.2	6.8	0.5	45.8	840	8.8
3	4.60	3.69	34.07	30.4	15.8	3.6	0.3	52.0	1230	1.2

A-2 他の土壌統との関係

本統は三紀頁岩よりなる残積土壌である。残積として他に植坂山統があるが母材が異なるので本統とは区分される。

A-3 母 材 非固結火成岩/半固結水成岩

A-4 堆積様式 風積/残積

B-地形 傾斜~緩傾斜地

C 気候 年平均気温 5.6℃ 年降水量 837mm

D 植生および利用状況

牧草、えん麦などの飼料作物が主に作付けられている。

E 農業上の留意事項

酸度矯正、緑作帯設置、有機物の施用、漸次深耕

F 分布 北海道足寄郡足寄町

調査および記載責任者 菊地晃二・関谷長昭(北海道立十勝農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
上 ラ ワ ン	dps twfae

第1層は厚さ16cm内外、土性はCLである。腐植含量13.6%、色は7.5 YRで明度2、彩度1である。礫なく発達弱度の細粒状構造あり、細孔あり、ち密度15で疎、pH(H₂O)5.6、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ12cm内外、土性はCLである。腐植含量6.9%内外、色は7.5 YRで明度4、彩度4である。半風化礫あり、発達弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度15で疎、pH(H₂O)5.6、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ17cm内外、土性はLである。腐植欠く、色は7.5 YRで明度5、彩度8である。半風化の細、小角礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度15で疎、pH(H₂O)5.7、下層との境界は漸変する。

第4層は厚さは15cm内外、土性はLである。腐植欠き、色は10 YRで明度6、彩度6である。半風化の小中角礫含む～富む。発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度15で疎、pH(H₂O)5.7、下層との境界は漸変する。

第5層は60cmである。土性はLである。腐植欠き、色は10 YRで明度7、彩度4である。半風化の小中浮石礫に富む。発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度15で疎、pH(H₂O)5.7である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地)北海道足寄郡足寄町 試坑 №186

第1層	0 ~ 16 cm	腐植すこぶる富む、黒(7.5 YR 2/1)のCL、礫なく、発達弱度の細粒状構造あり、細孔あり、ち密度15で疎、pH(H ₂ O)5.6、調査時の湿り乾、層界明瞭
第2層	16 ~ 28 cm	腐植富む、褐(7.5 YR 4/4)のCL、半風化小中角礫あり、発達弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度15で疎、pH(H ₂ O)5.6、調査時の湿り半乾、層界判然
第3層	28 ~ 45 cm	腐植欠く、明褐(7.5 YR 5/8)のL、半風化小中角礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度15で疎、pH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り半乾、層界漸変
第4層	45 ~ 60 cm	腐植欠く、明黄褐(10 YR 6/6)のL、半風化の小中角礫に富む。発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度15で疎、pH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り半乾、層界漸変
第5層	60 cm ~	腐植欠く、にぶい黄橙(10 YR 7/4)のL、半風化の小中浮石礫に富む。発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度15で疎、pH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り半乾

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 経 組 成 %				土性	現地容 積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~16	6.4	0	6.2	40.5	32.5	20.8	CL	—	—	7.87	0.57	14	13.6
2	16~28	8.0	5.0	8.4	40.2	33.7	17.7	CL	—	—	4.03	0.32	13	7.0
3	28~45	8.6	7.4	9.0	45.7	32.9	12.6	L	—	—	—	—	—	—
4	45~60	7.0	18.0	13.3	43.1	32.4	11.2	L	—	—	—	—	—	—
5	60~	5.3	20.0	18.1	36.4	37.3	8.1	L	—	—	—	—	—	—

層位	P H		置換酸度 Y _t	塩基置換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石灰飽和 度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.62	4.50	2.10	28.2	1.24	0.8	0.12	44.0	1,440	2.4
2	5.60	4.40	5.51	20.6	3.8	1.4	0.08	18.4	540	0.8
3	5.72	4.50	2.11	15.6	2.4	1.2	0.08	15.4	540	tr
4	5.71	4.42	1.80	10.0	1.6	1.6	0.08	16.0	1,500	tr
5	5.73	4.17	6.76	9.6	2.8	2.6	0.08	29.2	990	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統は熔結凝灰岩からなる残積土壌である。残積土壌としては他に上螺湾統があるが母材が異なるので本統とは区分される。

A-3 母 材 非固結火成岩/非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積/残積

B 地 形 傾斜~緩傾斜地

C 気 候 年平均気温 5.6℃ 年降水量 837mm

D 植生および利用状況

牧草、えん麦などの飼料作物が主に作付けられている。

E 農業上の留意事項

緑作帯設置、塩基の補給、保全耕作

F 分 布 北海道足寄郡足寄町

調査および記載責任者 菊地晃二・関谷長昭(北海道立十勝農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
植 坂 山	II(w)fnse

② 土壤区別説明

植 坂 山 一 植 坂 山

示性分級式(畑)

土	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵																									
壤	効	表	表	表	透	保	湿	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	増	地	自	傾	人	侵	耐	耐												
生	土	土	耘	土	土	地	然	層	分	換	"	"	効	害	理	冠	す	斜	然	為	水	風														
産	土	土	土	土	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の												
力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の												
可	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の												
能	厚	深	含	難	土	着	の	乾	沃	基	灰	土	里	酸	要	の	害	危	危	傾	傾	蝕	蝕													
性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性												
等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等												
級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級												
さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ												
量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量												
易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易												
湿	湿	湿	湿	湿	湿	湿	湿	湿	湿	湿	湿	湿	湿	湿	湿	湿	湿	湿	湿	湿	湿	湿	湿	湿												
度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度												
否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否												
性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性												
性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性												
斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜												
蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕												
t	d	g	p	w	l	f	n	i	a	s	e																									
II	I	I	I	I	2	2	1	(II)	2	2	2	II	1	2	2	II	1	2	3	2	2	2	I	1	1	I	1	1	II	2	--	II	2	1	2	2
簡略分級式												II (w) fnse																								

A 土壤区の特徴

この土壤区は植坂山統に属する。作土の厚さは25cm以上で深い。有効土層は1m以上で深い。作土は粘質で耕起、砕土がやゝ困難である。保肥力大、固定力、土層の塩基状態中である。作土は置換性石灰多、苦土中、加里多、有効態磷酸中、酸度中である。下層土は熔結硬灰岩からなる残積土壌である。

特殊な障害性はない。緩傾斜を呈している。

B 植生及び利用状況

牧草、えん麦などの飼料作物が主に作付けられている。

C 地力保全上の問題点

傾斜を呈しているため保全耕作が必要である。土層の塩基状態が不良であるから塩基の補給が大切である。

D 分布 北海道足寄郡足寄町

記載責任者 菊地 晃 二 (北海道立十勝農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

茂キトウシ統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外、土性はCLである。腐植含量10.9%内外、色は7.5YRで明度2、彩度3である。礫なく発達弱度の細粒状構造あり、孔隙なし、ち密度15で疎、pH(H₂O)5.7、下層との境界は判然である。

第2層は厚さ13cm内外、土性はCLである。腐植含量6.1%内外、色は7.5YRで明度3、彩度4である。半風化の細、小の角礫含む、発達弱度の粒状構造あり、細孔、小孔含む、ち密度15で疎、pH(H₂O)5.9、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ20cm内外である。土性はLである。腐植欠く、色は7.5YRで明度5、彩度6である。半風化の細礫含む、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度18で疎、pH(H₂O)5.9、下層との境界は漸変する。

第4層は50cm以下である。土性はSLである。腐植欠く、色は7.5YRで明度5、彩度6である。半風化、未風化の細小の角礫含む、発達弱度の塊状構造あり。細孔あり、ち密度21で中、pH(H₂O)5.8である。

代表的断面形態

(所在地)北海道足寄郡足寄町 試坑16190

第1層	0~15cm	腐植すこぶる富む、黒褐(7.5YR2/3)のCL、礫なく発達弱度の細粒状構造あり、孔隙なし、ち密度15で疎、pH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り半乾、層界判然
第2層	15~28cm	腐植富む、暗褐(7.5YR3/4)のCL、半風化の細小角礫あり、発達弱度の粒状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度15で疎、pH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り半乾、層界判然
第3層	28~50cm	腐植欠く、明褐(7.5YR5/6)のL、半風化細小角礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度18で疎、pH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り半乾、層界漸変
第4層	50cm~	腐植欠く、明褐(7.5YR5/6)のSL、半風化、未風化の細小角礫含む、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度21で中、pH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り半乾

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成%				土性	現地容 積重	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15	5.9	0	5.5	35.1	36.6	22.8	CL	—	—	6.30	0.43	15	10.9
2	15~28	7.1	2.6	5.7	41.5	35.4	17.4	CL	—	—	3.51	0.25	14	6.1
3	28~50	7.2	5.0	14.9	46.2	28.3	10.7	L	—	—	—	—	—	—
4	50~	8.6	5.0	15.1	55.4	22.5	7.0	SL	—	—	—	—	—	—

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度%	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.69	4.71	1.27	26.0	13.2	1.8	0.55	50.8	1,260	8.0
2	5.88	4.70	1.57	17.4	6.4	2.6	0.59	36.8	1,710	tr
3	5.89	4.60	2.08	13.0	3.2	2.2	1.27	24.6	1,650	tr
4	5.78	4.66	1.47	11.6	1.2	2.0	0.59	10.3	1,680	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統にキトウシ統があるが母材、堆積様式は同じであるが礫層の出現位置により区分した。

A-3 母材 非固結火成岩/非固結水成岩

A-4 堆積様式 風積/水積

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 5.6℃ 年降水量 837mm

D 植生および利用状況

大豆、馬鈴薯も栽培されているが主に牧草などの飼料作物が作付けられている。

E 農業上の留意事項

有機物の施用、深耕

F 分布 北海道足寄郡足寄町

調査および記載責任者 菊地晃二・関谷長昭(北海道立十勝農業試験場)
年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
茂キトウシ	llpwfn

② 土壌区別説明

茂キトウシ - 茂キトウシ

示性分級式(畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵			
壤効土土	表表表	透保湿	保固土	置	有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐	
生土土	耘土土	地	然	層分換	" "	効	害理冠す	然斜為	水風	
産土の	土の風	の	の	の性	態量	物	害質害	の	蝕	
力の層	のの乾	水水潤	肥定基	の石苦加	磷	害質	障	の危危	蝕蝕	
可の礫	粘土	乾	沃	状	豊含	要	の害	傾傾	蝕蝕	
能厚	難土着	乾	沃	状	豊含	要	有	傾傾	蝕蝕	
性深	含	硬	沃	状	豊含	要	有	傾傾	蝕蝕	
等	性性	さ	性性	度	力力	態	量	素度	無性	度度
級さ	さ量	易	湿	度	否	性	性	斜	蝕	蝕
t d g p	w	f	n	i	a	s	e			
llllll	llllll	llllll	llllll	llllll	llllll	llllll	llllll	llllll	llllll	
簡略分級式 llpwfn										

A 土壤区の特徴

この土壤区は茂キトウシ統に属する。表土の厚さは25cm以上で深い。有効土層は1m以上で深い。表土の土性は粘質で耕起、砕土はやゝ困難にある。保肥力大、固定力、土層の塩基状態中である。作土の置換性石灰、苦土、加里多、有効態磷酸中、酸度中である。特殊な障害性はない、地形は平坦で水蝕のおそれはない。

B 植生及び利用状況

大豆、馬鈴薯、てん菜等も栽培されているが主体は牧草などの飼料作物である。

C 地力保全上の問題点

作土は火山灰土で地力が減耗し易いから堆厩肥、塩基の施用が必要である。

下層土は鉍質土壤であるから積極的に深耕すべきである。

D 分布 北海道足寄郡足寄町

記載責任者 菊地 晃 二 (北海道立十勝農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

キ ト ウ シ 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ13cm内外、土性はCLである。腐植含量10.6%、色は7.5YRで明度2、彩度3である。礫なく発達弱度の細粒状構造あり、細孔あり、ち密度18で疎、pH(H₂O)5.3、下層との境界は判然である。

第2層は厚さ15cm内外、土性はLである。腐植含量4.5%、色は7.5YRで明度4、彩度3である。半風化の小角礫あり、発達中度の粒状構造あり、細孔、小孔含む、ち密度18で疎、pH(H₂O)5.6、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ7cm内外、土性はCLである。腐植欠く、色は7.5YRで明度4、彩度4である。半風化の小中の角礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度20で中、pH(H₂O)5.3、下層との境界は漸変する。

第4層は35cm以下である。土性はSiCLである。腐植欠き、色は10YRで明度4、彩度6である。半風化、未風化の細小中の角礫に富む、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度22で中、pH(H₂O)5.2である。

代表的断面形態

(所在地)北海道足寄郡足寄町 試坑 No.192

第1層	0 ~ 13cm	腐植すこぶる富む、黒褐(7.5YR2/3)のCL、礫なく、発達弱度の細粒状構造あり、細孔あり、ち密度18で疎、pH(H ₂ O)5.3、調査時の湿り半乾、層界判然
第2層	13 ~ 28cm	腐植含む、褐(7.5YR4/3)のL、半風化の細小角礫あり、発達中度の粒状構造あり、細、小孔あり、ち密度18で疎、pH(H ₂ O)5.6、調査時の湿り半乾、層界判然
第3層	28 ~ 35cm	腐植欠く、褐(7.5YR4/4)のCL、半風化の細、小、中の角礫富む、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度20で中、pH(H ₂ O)5.3、調査時の湿り半乾、層界漸変

第4層	35 cm ~	腐植欠く、褐(10YR4/6)のSiCL、半風化、未風化の細、小、中の角礫富む、発達弱の塊状構造あり、細孔ありち密度2.2で中、pH(H ₂ O) 5.2 調査時の湿り半乾
-----	---------	---

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重 ρ	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~13	6.4	0	9.2	30.0	38.6	22.2	CL	-	-	6.16	0.43	14	10.6
2	13~28	7.1	5.0	7.9	44.0	36.5	11.6	L	-	-	2.60	0.21	12	4.5
3	28~35	6.6	5.0	3.8	44.0	36.2	16.0	CL	-	-	-	-	-	-
4	35~	5.8	7.4	3.5	26.1	46.4	24.0	SiCL	-	-	-	-	-	-

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.33	4.28	4.23	20.4	5.6	8.0	0.33	27.5	1.440	3.6
2	5.66	4.37	3.28	9.2	1.4	4.0	0.17	15.2	1.620	tr
3	5.35	4.18	6.46	14.2	2.8	1.2	0.21	19.7	1.500	tr
4	5.23	3.98	14.79	14.4	2.8	2.8	0.17	19.4	1.080	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統は茂キトゥン統であるが母材、堆積様式は同じであるが礫の出現位置が異なるので区分される。

A-3 母材 非固結火成岩/非固結水成岩

A-4 堆積様式 風積/水積

B 地形 平坦~緩傾斜

C 気候 年平均気温 5.6℃ 年降水量 837mm

D 植生および利用状況 牧草などの飼料作物が主に作付けられている。

E 農業上の留意事項

保全耕作、有機物の施用、塩基の補給

E 分布 北海道足寄郡足寄町

調査および記載責任者 菊地晃二・関谷長昭(北海道立十勝農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
キ ト ウ シ	ll dpwfniasc

② 土壤区別説明

キ ト ウ シ ー キ ト ウ シ

示性分級式(畑)

土	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵									
壤	効	土	表	表	透	保	固	置	有	微	有	増	地	自	傾	人	侵	耐	耐	
生	土	耘	土	土	然	層	換	"	効	害	理	冠	す	斜	然	為	水	風		
産	土	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	
力	の	層	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	
可	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	
能	厚	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	
性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	
等	深	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	
級	さ	さ	量	易	湿	度	否	性	性	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e									
	II	I	II	I	II	2	2	2	II	2	2	2	II	1	2	2	II	2	2	2
	簡略分級式 II dpw f n i a s e																			

A 土壤区の特徴

この土壤区はキトウシ統に属する。作土の厚さは25cm以上で深い、有効土層は50cm内外でやゝ浅い。作土の土性は粘質で耕起、碎土がやゝ困難である。保肥力大、固定力、土層の塩基状態中である。作土の置換性石灰、苦土中、加里は多い。有効態磷酸中、酸度中である。特殊な障害性はない。地形は平坦～緩傾斜で水蝕のおそれはある。

B 植生及び利用状況

牧草、えん麦などの飼料作物が主に作付けられている。

C 地力保全上の問題点

緩傾斜を呈し地力が減耗し易いから保全耕作、緑作帯の設置が必要である。土層の塩基状態が悪いから有機物、塩基の補給が大切である。

D 分布 北海道足寄郡足寄町

記載責任者 菊地 晃 二 (北海道立十勝農業試験場)

日付 昭和44年3月31日

東 芽 登 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外、土性はCLである。腐植含量10.7%、色は7.5YRで明度2、彩度3である。礫なく、発達弱度の細粒状、細塊状構造あり、細孔あり、ち密度12で疎、pH(H₂O)5.8、下層との境界は判然である。

第2層は厚さ25cm内外、土性はLである。腐植含量5.1%、色は10YRで明度3、彩度4で

ある。半風化の細角礫あり、発達中度の粒状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度1.8で疎、pH(H₂O)5.8、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ1.5cm内外、土性はLである。色は7.5 YRで明度5、彩度8である。半風化の細角礫あり、発達弱度の粒状、細粒状構造あり、ち密度1.7で疎、pH(H₂O)6.0、下層との境界は漸変する。

第4層は6.5cm内外以下である。土性はLである。腐植欠く色は1.0 YRで明度5、彩度4である。半、未風化の角礫含む、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔、中孔含む、ち密度2.4で中、pH(H₂O)5.9である。

代表的断面形態

(所在地)北海道足寄郡足寄町 試坑 No.160

第1層	0 ~ 21 cm	腐植にすこぶる富む、極暗褐(7.5 YR 2/3)のCL、礫なく発達弱度の細粒状、細塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.2で疎、pH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り半乾、層界判然
第2層	21 ~ 47 cm	腐植とむ、暗褐(1.0 YR 3/4)のL、半風化の細角礫あり、発達中度の粒状構造あり、細孔、小孔含む、ち密度1.8で疎、pH(H ₂ O)5.8 調査時の湿り半乾、層界判然
第3層	47 ~ 65 cm	腐植欠く、明褐(7.5 YR 5/8)のL、半風化の細角礫あり、発達弱度の粒状、細塊状構造あり、ち密度1.7で疎、pH(H ₂ O)6.0 調査時の湿り半乾、層界漸変
第4層	65 cm ~	腐植欠く、にぶい黄褐(1.0 YR 5/4)のL、半、未風化の細、小の角礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔、中孔あり、ち密度2.4で中、pH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り半乾~湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重 ρ	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~21	5.5	0	6.0	42.2	34.4	17.4	CL	-	-	6.22	0.48	13	10.7
2	21~47	8.6	5.0	7.3	52.4	32.2	8.2	L	-	-	2.97	0.28	11	5.1
3	47~65	9.2	7.4	6.6	59.6	27.0	6.9	SL	-	-	-	-	-	-
4	65~	9.2	10.0	4.2	54.9	29.9	10	L	-	-	-	-	-	-

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	K ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.77	5.08	0.63	24.0	17.2	1.8	0.3	71.7	1,560	7.2
2	5.75	5.00	0.71	14.4	5.2	1.4	0.5	36.1	1,890	0.4
3	5.95	5.14	0.49	9.6	3.4	1.8	0.3	35.4	1,890	tr
4	5.88	5.12	0.51	11.2	2.6	2.2	0.2	23.2	1,620	5.6

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては茂キトウソウ統があるが母材が異なるので本統とは区分される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 5.6℃ 年降水量 837mm

D 植生および利用状況

馬鈴薯、てん菜、豆類が主に作付けられている。

E 農業上の留意事項

磷酸の増肥、有機物の施用、深耕、塩基の補給

F 分布 北海道足寄郡足寄町

調査および記載責任者 菊地晃二、関谷長昭(北海道立十勝農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
東 芽 登	Ⅱ f Ⅱ n

② 土壌区別説明

東 芽 登 — 東 芽 登

示性分級式(畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵
壤効土土	表表表	透保湿	保固土	置	有微酸	有物	増地
生土土	耘土土	然	層分換	" "	効	害理	冠す
産土の	土の風		の性	態量	物的	水	斜
力の層	のの	乾の水水	潤肥定塩	の石苦加	磷	害質	害の
可の礫	粘土		基灰土里	酸要	障	の	の
能厚の	含難	土着の乾	沃	状豊含	" " "	有	險
性等深	性性	硬					
等	性性	さ	性性	度	力力	態量	素度
級さ	さ	量易	湿	度	否	性	性
	t d g p	w	f	n	i	a	s e
Ⅱ	Ⅰ Ⅰ Ⅰ Ⅰ	2 2 Ⅰ	Ⅱ 2 2 Ⅰ	Ⅱ 1 3 2	Ⅱ 1 1 2 2 2 2	Ⅰ Ⅰ	Ⅰ Ⅰ Ⅰ Ⅰ - - Ⅰ Ⅰ Ⅰ
簡略分級式	Ⅱ f Ⅱ n						

A 土壌区の特徴

この土壌区は東芽登統に属する。作土の厚さは25cm以上で深い。有効土層も1m以上で深い。作土の土性は粘質で耕起、砕土はやゝ困難である。保肥力大、固定力中、中層の塩基状態は不良である。作土の置換性石灰、苦土多、加里中、有効態磷酸中、酸度弱である。特殊な障害性はない。地形は平坦で水蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況

馬鈴薯、てん菜、豆類が主として作付けられている。

C 地力保全上の問題点

燐酸の固定力が強く燐酸の増肥がのぞまれる。生産力は高い方であるが更に地力を増し生産を上げるために有機物を施用しつつ漸次深し作土層を深めるべきだろう。また火山性土のため地力が減耗し易いから塩基の補給も忘れてはならない。

D 分布 北海道足寄郡足寄町

記載責任者 菊地 晃 二 (北海道立十勝農業試験場)

日 附 昭和44年3月31日

足 寄 太 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外、土性はCLである。腐植含量9.7%、色は7.5 YRで明度2、彩度3である。礫なく発達弱度の細粒状構造あり、孔隙なし、ち密度1.2で疎、pH(H₂O)6.0、下層との境界は判然である。

第2層は厚さ6cm内外、土性はCLである。腐植含量7.8%、色は7.5 YRで明度2、彩度2である。礫なく、板状構造呈し、孔隙ない。ち密度1.6で疎である。pH(H₂O)5.8、下層との境界は明瞭である。

第3層は厚さ20cm内外、土性はLである。腐植含量5.1%、色は7.5 YRで明度3、彩度4である。礫なく発達中度の粒状構造あり。細孔あり、ち密度1.3で疎、pH(H₂O)5.6、下層との境界は判然である。

第4層は厚さ22cm内外、土性はLである。腐植欠き、色は7.5 YRで明度5、彩度4である。半風化の小角礫含む、発達弱度の粒状、塊状構造あり。細、小、中孔あり。ち密度1.5で疎、pH(H₂O)5.6、下層との境界は漸変する。

第5層は67cm以下である。土性はL、腐植欠き、色は7.5 YRで明度5、彩度3である。半風化の小角礫含む、褐色の斑紋あり、発達弱度の塊状構造あり、細、小、中孔に富む、ち密度2.2で中である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地)北海道足寄郡足寄町 試坑No.65

第1層	0~20cm	腐植とむ、極暗褐(7.5 YR 2/3)のCL、礫なく発達弱度の細粒状構造あり、孔隙なし、ち密度1.2で疎、pH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り、半乾、層界判然
第2層	20~26cm	腐植とむ、黒褐(7.5 YR 2/2)のCL、礫なく板状構造あり、孔隙なし、ち密度1.6で疎、pH(H ₂ O)5.8、調査時湿り半乾、層界明瞭
第3層	26~45cm	腐植とむ、暗褐(7.5 YR 3/4)のL、礫なく発達中度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O)5.6、調査時の湿り半乾、層界判然
第4層	45~67cm	腐植欠く、明褐(7.5 YR 5/4)のL、半風化の小角礫あり、発達弱度の粒状塊状構造あり、細、小、中孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O)5.6、調査時の湿り半乾、層界判然

第5層	67 cm ~	腐植欠く、灰褐(7.5 Y R 5 / 3)のL、半風化の小角礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細、小、中孔あり、褐色の斑紋あり、ち密度2.2中で調査時の湿り半湿
-----	---------	--

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	5.6	0	4.3	34.5	41.0	20.2	CL	-	-	5.60	0.55	10	9.7
2	20~26	6.7	0	4.1	37.7	37.9	20.4	CL	-	-	4.52	0.39	12	7.8
3	26~45	7.7	0	4.1	51.8	32.8	11.3	L	-	-	2.96	0.21	14	5.1
4	45~67	7.4	7.4	6.8	53.8	30.7	8.7	L	-	-	-	-	-	-

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 ME/100g	置換性塩基 me/100g			石灰蝕和度 %	磷酸吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.01	4.80	0.69	28.0	13.2	3.2	0.72	47.1	1,500	5.6
2	5.78	4.42	2.03	28.0	11.6	2.0	0.17	41.4	1,950	tr
3	5.64	4.10	8.27	19.6	11.2	1.4	0.19	57.1	1,920	tr
4	5.65	4.21	4.98	12.2	3.6	1.0	0.43	29.5	1,740	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては塩幌統、ワシツブ統らがあるが塩幌統とは礫の出現位置、並びに腐植層序が異なるので区分される。またワシツブ統とは腐植層序並びに下層の土性が異なるので本統とそれぞれ区分される。

A-3 母材 非固結火成岩/非固結水成岩

A-4 堆積様式 風積/水積

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 5.6℃ 年降水量 837mm

D 植生および利用状況

菜豆、てん菜、馬鈴薯らが主に栽培されている。収量は高い。

E 農業上の留意事項

深耕、有機物施用、塩基の補給

F 分布 北海道足寄郡足寄町

調査および記載責任者 菊地晃二・関谷長昭(北海道立十勝農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
足 寄 太	II p w f n

② 土壤区別説明

足 寄 太 一 足 寄 太

示性分級式(畑)

土	表	有	表	耕	土	目	養	障	災	傾	侵																
壤	効	土	表	表	透	保	湿	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	増	地	自	傾	人	侵	耐	耐			
生	土	土	耘	土	土	地	然	層	分	換	"	"	効	害	理	冠	す	斜	為	水	風						
産	土	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の			
力	の	層	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の			
可	の	磔	の	粘	土	土	乾	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	質	障	害	の	の	の			
能	の	の	土	着	乾	沃	状	豊	含	"	"	"	基	灰	土	里	酸	要	の	危	危	傾	方	傾	蝕	蝕	
性	厚	深	含	難	硬	性	性	さ	性	性	度	力	力	態	量	素	度	無	性	度	度	斜	向	斜	度	性	性
等	級	さ	量	易	湿	度	否	性	性	斜	蝕																
級	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																
Ⅱ	I	I	I	Ⅱ	2	2	2	Ⅱ	2	2	2	Ⅱ	1	1	2	2	Ⅱ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
簡略分級式												Ⅱ p w f n															

A 土壤区の特徴

この土壤区は足寄太統に属する。作土の厚さは25cm以上で深い。有効土層は1m以上で深い。作土の土性は粘質で耕起、砕土はやゝ困難である。保肥力大、固定力、土層の塩基状態中である。作土の置換性石灰、苦土、加里多、有効力態磷酸中、酸度中である。心土の固定かは大きい。特殊な障害性はない。地形は平坦で蝕侵のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況

てん菜、馬鈴薯、菜豆が主に作付けられている。収量は高い。

C 地力保全上の問題点

収量は高い方である。更に地力増進のために有機物を施用しつつ漸次深耕すべきである。また作土は火山性土で地力が減耗し易いから塩基の補給も忘れてはならない。

D 分布

北海道足寄郡足寄町
 記載責任者 菊地 晃 二 (北海道立十勝農業試験場)
 日付 昭和44年3月31日

塩 幌 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ13cm内外、土性はCLである。腐植含量9.9%、色は10YRで明度2、彩度2である。磔なく発達弱度の粒状、細塊状構造あり、細孔あり、ち密度12で疎、PH(H₂O)5.6下層との境界は判然である。

第2層は厚さ23cm内外、土性はLである。腐植含量7.5%、色は10YRで明度2、彩度3で

ある。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔、中孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H₂O) 5.9、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ20cm内外、土性はSLである。腐植欠き、色は10YRで明度4、彩度3である。礫なく発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H₂O) 5.9、下層への境界は判然である。

第4層は5.5cm以下である。腐植を欠き、土性はSである。色は10YRで明度3、彩度4である。半風化の小、中、大の円角礫に富む。

代表的断面形態

(所在地) 北海道足寄郡足寄町 試坑No.61

第1層	0~13cm	腐植に富む、黒褐(10YR2/2)のCL、礫なく、発達弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.2で疎、pH(H ₂ O) 5.6、調査時の湿り半乾、層界判然
第2層	13~36cm	腐植に富む黒褐(10YR2/3)のCL、礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔、中孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O) 5.9、調査時の湿り半乾、層界判然
第3層	36~55cm	腐植なし、にぶい黄褐(10YR4/3)のSL、礫なく、発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O) 5.9調査時の湿り半乾、層界判然
第4層	5.5cm~	腐植なし、暗褐(10YR3/4)のS、半風化の大、中、小からなる円角礫に富む。調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成%				土性	現地容積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~13	4.6	0	14.4	39.8	29.2	16.7	CL	—	—	5.73	0.36	16	9.9
2	13~36	4.9	0	19.1	43.5	28.8	8.5	L	—	—	4.32	0.15	29	7.5
3	36~55	3.0	0	25.6	43.6	22.7	8.2	SL	—	—	—	—	—	—

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度%	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.64	4.53	1.79	2.18	1.06	1.2	0.08	4.86	1.440	4.4
2	5.93	4.33	2.82	3.18	4.0	1.2	0.55	1.26	1.380	tr
3	5.95	4.37	2.41	8.0	2.0	1.6	0.12	2.50	1.320	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては足寄太統があるが傾斜の関係、腐植層序、並びに礫層の有無により区分される。

A-3 母材 非固結火成岩/非固結水成岩

A-4 堆積様式 風積/水積

B 地形 傾斜地

C 気候 年平均気温 5.6℃ 年降水量 837mm

D 植生および利用状況

牧草が主に作付けられている。

E 農業上の留意事項

保全耕作、塩基の補給

F 分布 北海道足寄郡足寄町

調査および記載責任者 菊地晃二・関谷長昭（北海道立十勝農業試験場）

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
塩 幌	ⅡS l d p f n i a e

② 土壌区別説明

塩 幌 — 塩 幌

示性分級式(畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵		
壤効土	表表透	保固土	置有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐		
生土	土耘	土土の地	然層分換	" "	効害理	冠す	斜為	水風	
産土	土の	の風	の性	態量	物的	水べ	然為	の蝕	
力の層	のの乾	の水水潤肥	肥定塩	の石苦加	燐害質	害の	の蝕		
可の磔	粘土		基灰土里	酸要	の障	危傾	傾蝕		
能厚の	含難	土着の乾	沃状	豊含	" "	有害	險		
性等深		性性	性性度	力力態	量素度	無性	度度	斜向斜	度性性
級さ	量易	湿	度	否	性	性	斜	蝕	
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e	
Ⅱ	Ⅱ Ⅱ Ⅱ	Ⅱ 2 2 2	Ⅱ 2 2 1	Ⅱ 1 2 2	Ⅱ 1 2 3 3 2 2	Ⅱ 1 2	Ⅱ 1 2	Ⅱ 3 - -	Ⅱ 2 2 1
簡略分級式	Ⅱ s l d p f n i a e								

A 土壌区の特徴

この土壌区は塩幌統に属する。作土の厚さは25cm以上で深い。有効土層は60cm内外でやゝ深い。作土は粘質で耕起、碎土はやゝ困難である。保肥力大、固定力、土層の塩基状態は中である。作土の置換性石灰多、苦土中、加里小である。有効態燐酸は少なく、酸度中は中である。特殊な障害性はない。傾斜を呈し、水蝕のおそれがある。

B 植生及び利用状況

牧草が主に作付けられている。

C 地力保全上の問題点

傾斜を呈しているから保全耕作が必要である。また地力も減耕し易いから塩基の補給も忘れては

ならない。

D 分布 北海道足寄郡足寄町
記載責任者 菊地 晃二 (北海道立十勝農業試験場)
日付 昭和44年3月31日

ワ シ ツ ブ 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外、土性はCLである。腐植含量9.5%、色は10YRで明度2、彩度2である。礫なく、発達弱度の粒状構造あり、孔隙なし、ち密度1.2で疎、pH(H₂O)5.7、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外、土性はCLである。腐植含量2.6%、色は10YRで明度3、彩度4である。半風化の細礫に富む、発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度1.5で疎PH(H₂O)5.5、下層との境界は判然である。

第3層は40cm以下である。土性はSL、腐植欠き、色は10YRで明度4、彩度6である。半風化の細、小、中礫に富む、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.7で疎、pH(H₂O)5.9である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地)北海道足寄郡足寄町 試坑No71

第1層	0~20cm	腐植に富む、黒褐(10YR2/2)のCL、礫なく発達弱度の粒状構造あり、孔隙なし、ち密度1.2で疎、PH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り半乾、層界明瞭
第2層	20~40cm	腐植含む、暗褐(10YR3/4)のCL、半風化の細、小礫に富む、発達弱度の粒状塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り半乾、層界判然
第3層	40cm~	腐植欠く、褐(10YR4/6)のSL、半風化の中、小細の礫に富む、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.7で疎、pH(H ₂ O)5.9調査時の湿り半乾

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重 ρ	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~22	4.0	0	14.8	36.3	33.6	15.2	CL	—	—	5.55	0.37	15	9.6
2	22~40	4.7	14.0	33.4	29.1	18.7	18.7	SCL	—	—	1.48	0.13	11	2.6
3	40~	4.9	18.0	28.1	42.9	20.5	8.5	SL	—	—	—	—	—	—

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.73	4.78	1.00	23.2	16.0	1.6	0.29	69.0	1.320	5.6
2	5.50	4.10	5.36	14.0	4.8	1.4	0.17	34.3	1.350	tr
3	5.68	4.33	2.88	8.2	1.4	0.6	0.19	17.1	1.410	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては足寄太統があるが腐植層序と下層の土性が異なるので本統と区分される。

A-3 母材 非固結火成岩/非固結水成岩

A-4 堆積様式 風積/水積

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 5.6℃ 年降水量 837 mm

D 植生および利用状況

てん菜、馬鈴薯、菜豆らが主に作付けられている。収量は高い。

E 農業上の留意事項

深耕、有機物施用、塩基の補給

F 分布 北海道足寄郡足寄町

調査および記載責任者 菊地晃二・関谷長昭(北海道立十勝農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
ワ シ ッ プ	II p ni

② 土壌区別説明

ワ シ ッ プ - ワ シ ッ プ

示性分級式(畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵																								
壤	表表表	透保湿	保固土	置	有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐耐																						
生土	効土	耘	土土	地	然	層分換	" "	効	害理	冠す																					
産土	土の	土の	風		の	性	態量		物的	水べ	斜	然	為	水風																	
力の層	の	の	乾	水	水潤肥	定塩	の石	苦加	磷	害質	害の	の	蝕																		
可	の	礫	粘土				基	灰土	里酸	要	の障	危危	傾方	蝕蝕																	
能	厚	含	難	土着	の乾	沃	状	豊含	" "	" "	有害	險	險																		
性	深			硬																											
等				性	性	度	力	力	態	量	素	度	無	性	度	斜	向	斜	度	性	性										
級	さ	さ	量	易	湿	度	否																								
II	I	I	I	II	2	2	2	I	1	1	2	I	1	2	2	2	1	2	II	1	2	I	1	1	I	1	--	I	1	1	2
簡略分級式		II p ni																													

A 土壤区の特徴

この土壤区はワシツブ統に属する。作土の厚さは25cm以上で深い。有効土層は1m以上で深い、作土は粘質で耕起、砕土がやゝ困難である。保肥力大、土層の塩基状態良好、固定力中である。作土の置換性石灰多、苦土、加里中、有効態磷酸度中である。特殊な障害性はない。地形平坦で水蝕のおそれはない。

B 植生及び利用状況

てん菜、馬鈴薯、菜豆らが主に作付けられている。

C 地力保全上の問題点

生産力は高い方であるが更に生産を上げるために積極的に有機物を施しつつ漸次深耕し作土層を深くすべきである。また作土は火山性のため地力が減耗し易いから塩基の補給を忘れてはならない。

D 分布

北海道足寄郡足寄町
記載責任者 菊地 晃 二 (北海道立十勝農業試験場)
日 付 昭和44年3月31日

足 寄 北 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外、土性はCLである。腐植含量10.6%、色は7.5 Y Rで明度2、彩度2である。礫なく、発達弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.3で疎、pH(H₂O)5.6、下層との層界は判然である。

第2層は厚さ13cm内外、土性はCLである。腐植含量11.4%、色は7.5 Y Rで明度2、彩度1である。礫なく発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H₂O)5.5、下層との境界は明瞭である。

第3層は厚さ20cm内外、土性はLである。腐植含量4.2%、色は7.5 Y Rで明度4、彩度4である。礫なく発達弱度の細粒状、細塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.6で疎、pH(H₂O)5.8、下層との境界は判然である。

第4層は厚さ15cm内外、土性はLである。腐植欠く、色は7.5 Y Rで明度5、彩度8である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔、中孔含む、ち密度1.8で疎、pH(H₂O)5.9、下層との境界は判然である。

第5層は55cm以下である。土性はLである。腐植欠く、色は7.5 Y Rで明度5、彩度6である。半風化の細、小角礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度2.1で中、pH(H₂O)6.1である。

代表的断面形態

(所在地)北海道足寄郡足寄町 試坑No.2

第1層	0 ~ 15cm	腐植すこぶる富む、黒褐(7.5 Y R 2/2)のCL、礫なく発達弱度の粒状、粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.3で疎、pH(H ₂ O)5.6、調査時の湿り半乾、層界判然
第2層	15 ~ 28cm	腐植すこぶる富む黒(7.5 Y R 2/1)のCL、礫なく発達弱度の細粒状塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り半乾、層界明瞭

第3層	28~40cm	腐植含む、褐(7.5 YR 4/4)のL、礫なく発達弱度の粒状、細塊状構造あり、細孔あり、ち密度16で疎、pH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り半乾、層界判然
第4層	40~55cm	腐植欠く、明褐(7.5 YR 5/8)のL、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔、中孔あり、ち密度18で疎、pH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り半乾、層界判然
第5層	55cm~	腐植欠く、明褐(7.5 YR 5/6)のL、半風化の細、小の角礫含む、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度21で中、pH(H ₂ O)6.1、調査時の湿り半乾

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積重 ρ	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15	6.4	0	8.1	42.3	32.5	17.1	CL	—	—	6.16	0.49	13	106
2	15~28	5.9	0	7.9	39.1	32.2	20.8	CL	—	—	6.63	0.53	13	114
3	28~40	8.9	0	8.8	43.7	38.8	8.7	L	—	—	2.43	0.24	10	42
4	40~55	9.1	0	12.1	41.5	37.1	9.3	L	—	—	—	—	—	—
5	55~	6.8	5.0	16.3	39.7	34.3	9.7	L	—	—	—	—	—	—

層位	P H		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100 ρ	置 換 性 塩 基 me / 100 ρ			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100 ρ
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.60	4.53	1.41	31.6	15.0	1.8	0.84	47.4	1,800	4.4
2	5.55	4.65	1.29	33.2	16.8	2.0	0.59	50.6	1,620	11.6
3	5.85	4.76	0.96	20.8	5.2	1.4	0.89	25.0	2,190	0.4
4	5.97	4.83	0.78	17.6	4.0	2.0	0.50	22.7	1,980	2.4
5	6.12	4.60	0.92	—	—	—	—	—	1,560	0.4

A-2 他の土壌統との関係

本統は類似する統としてはワシツブ統があるが腐植層序並びに下層の母材が異なり、磷酸の固定力が異なるので本統と区分される。

A-3 母材 非固結火成岩 / 非固結水成岩

A-4 堆積様式 風積 / 水積

B 地形 平坦~緩傾斜地

C 気候 年平均気温 5.6℃ 年降水量 837mm

D 植生および利用状況

大豆、菜豆、てん菜、馬鈴薯が主として作付けられている。

E 農業上の留意事項

磷酸肥料の増肥、塩基の補給、有機物の施用、保全耕作

F 分布 北海道足寄郡足寄町

調査および記載責任者 菊地晃二・関谷長昭(北海道立十勝農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
足 寄 北	Ⅱ f Ⅱ p w n s

② 土壤区別説明

足 寄 北 — 足 寄 北

示性分級式(畑)

土表有表耕	土	目	養	障	災	傾	伸
壤 効土 耘	表表表	透保湿	保固土	置	有微酸	有物 増地	自傾人 侵耐
生土 産 土の	土土の	然	層分換	効	害理 冠す	斜	水風
力 可 能 性 等	の 層 礫 厚 含 深	の 乾 粘 土 着 硬	の 水 潤 肥 定 塩 基 灰 土 里 酸 要	の 石 苦 加 磷	害 質 害 障 害	の 水 り 傾 傾	然 為 水 風 蝕 蝕
級	さ さ 量 易	湿	度	否	性 性	斜 蝕	
	t d g p	w	f	n	i a s	e	
Ⅱ	Ⅰ Ⅰ Ⅰ Ⅱ	2 2 2	Ⅱ 2 2 2	Ⅲ 1 3 2	Ⅱ 1 1 1 2 2 2	Ⅰ 1 1 Ⅰ Ⅰ Ⅱ	2 - - Ⅰ 1 1 1
簡略分級式		Ⅱ f Ⅱ p w n s					

A 土壤区の特徴

この土壤区は足寄北統に属する。作土の厚さは25cm以上で深い。有効土層は1m以上で深い。作土は粘質で耕起、砕土はやゝ困難である。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態不良である。作土の置換性石灰、苦土、加里多、有効態磷酸中、酸度中である。特殊な障害性はない。緩傾斜を呈し水蝕のおそれがある。

B 植生及び利用状況

大豆、菜豆、てん菜、馬鈴薯ら主として作付けられている。

C 地力保全上の問題点

下層の固定力が大きいから深耕時には磷酸の多施用が必要である。また作土は火山性土で地力が減耗し易いから有機物や塩基の補給を忘れてならない。

D 分布 北海道足寄郡足寄町

記載責任者 菊 地 晃 二 (北海道立十勝農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

上 利 別 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ13cm内外、土性はLiCである。腐植含量7.9%、色は10YRで明度2、彩度3である。礫なく、発達弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度10ですこぶる疎、PH(H₂O)

6.2、下層との境界は判然である。

第2層は厚さ12cm内外、土性はLである。腐植含量2.4%、色は10YRで明度3、彩度4である。半風化の細、小の円、角礫含む、発達弱度の粒状構造、細塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H₂O)6.0、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ23cm内外、土性はLである。腐植欠き、色は10YRで明度4、彩度4である。半風化の細、小の円角礫含む、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H₂O)5.5、下層との境界は漸変する。

第4層は48cm以下である。大、中、小の円、角礫層である。

代表的断面形態

(所在地)北海道足寄郡足寄町 試坑No.16

第1層	0 ~ 13 cm	腐植にとむ、黒褐(10YR2/3)のLiC、礫なく発達弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.0ですこぶる疎、pH(H ₂ O)6.2、調査時の湿り乾、層界判然
第2層	13 ~ 25 cm	腐植含む、暗褐(10YR3/4)のL、半風化の小円礫含む発達弱度の粒状構造細塊状構造あり、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り半乾、層界判然
第3層	25 ~ 48 cm	腐植欠く、褐(10YR4/4)のL、半風化の小円角礫含む、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り半乾、層界漸変
第4層	48 cm ~	半風化、未風化円、角礫層からなる。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重 ρ	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~13	5.5	0	15.1	25.3	30.6	29.1	LiC	-	-	4.57	0.35	1.3	7.9
2	13~25	7.1	5.0	22.3	42.7	21.6	13.4	SL	-	-	1.38	0.13	1.1	2.4
3	25~48	6.6	7.4	29.1	34.1	23.6	13.2	L	-	-	-	-	-	-

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.23	5.46	0.61	23.4	17.2	1.0	0.50	73.5	1,260	9.6
2	6.04	4.91	0.80	-	-	-	-	-	1,530	tr
3	5.52	4.60	3.13	13.0	5.4	1.4	0.25	41.5	1,560	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては足寄太統、ワシツブ統らがあるが傾斜並びに礫層の出現位置が異なるので本統と区分される。

A-3 母材 非固結火成岩/非固結水成岩

A-4 堆積様式 風積/水積

B 地形 傾斜地

C 気候 年平均気温 5.6℃ 年降水量 837mm

D 植生および利用状況

未墾のまま残されているところもあるが大半は耕作され主に飼料作物が作付けられている。

E 農業上の留意事項

保全耕作、有機物の補給、塩基の補給

F 分布 北海道足寄郡足寄町

調査および記載責任者 菊地晃二・関谷長昭(北海道立十勝農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
上 利 別	Ⅱs I d p n i a e

② 土壌区別説明

上 利 別 一 上 利 別

示性分級式(畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵																							
壤	表表表	透保湿	保固土	置	有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐																					
生土	効土	耘	土	地	然	層分換	"	効	害理	冠す	斜																			
産土	の	の	の	風	の	の	性	態量	物的	水べ	然	斜	為	水風																
力の層	の	の	乾	の水	水潤然	肥定塩	の石	苦加	磷	害質	害の	の	の	蝕																
可	層	礫	粘土				基	灰土	里酸	要	の	害	危危	傾方	蝕蝕															
能厚	の	含難	土着	の	硬	乾	沃	状豊	含		有	害	險																	
性等	深	性	性	さ	性	性	度	力	力	態	量	"	"	"	素度	無性	度	度	斜向	斜	度	性	性							
級さ	さ	量	易	湿	度	否	性	性	斜	蝕																				
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																			
	Ⅱ	I	Ⅱ	I	Ⅱ	3	2	2	I	2	2	1	I	1	2	1	Ⅱ	1	2	1	Ⅱ	1	2	Ⅱ	3	--	Ⅱ	2	2	1
	簡略分級式 Ⅱs I d p n i a e																													

A 土壌区の特徴

この土壌区は上利別統に属する。作土の厚さは25cm内外で深い。有効土層は50cm内外でやゝ浅い。作土の土性は強粘質で耕起、碎土がやゝ困難である。保肥力大、固定力小、土層の塩基状態良である。作土の置換性石灰、加里多、苦土中、有効態磷酸中、酸度弱である。特殊な障害性はない。地形は傾斜地で水蝕のおそれは大きい。

B 植生及び利用状況

牧草らの飼料作物が主に作付けられている。

C 地力保全上の問題点

傾斜を呈しているから地力の減耗が甚しいので保全耕作、緑作帯の設置が必要である。同時に地力を維持するために堆厩肥、塩基の補給も忘れてはならない。

D 分布 北海道足寄郡足寄町

記載責任者 菊地 晃 二 (北海道立十勝農業試験場)
 日 付 昭和44年3月31日

受 冠 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18cm内外、土性はCLである。腐植含量8.6%、色は10YRで明度2、彩度2である。礫なく発達弱度の細粒状構造あり、細孔あり、ち密度12で疎、pH(H₂O)6.0、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ4cm内外、土性はCLである。腐植含量4.7%内外、色は10YRで明度1、彩度1である。礫なく発達中度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度16で疎、pH(H₂O)6.1、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ10cm内外、土性はCLである。腐植含量4.7%内外、色は10YRで明度2、彩度3である。半風化の細角礫含む。発達弱度の粒状、細塊状構造あり、細孔あり、ち密度17で疎、pH(H₂O)6.1、下層との境界は判然である。

第4層は厚さ13cm内外、土性はSLである。腐植欠き、色は10YRで明度3、彩度4である。半風化の細小角礫含む、発達弱度の塊状構造あり、ち密度16で疎、pH(H₂O)6.2、下層との境界は漸変する。

第5層は厚さ20cm内外である。土性はLである。腐植欠き、色は10YRで明度6、彩度6である。半風化の細、小の角礫含む、細孔、小孔、中孔あり、ち密度18で疎、pH(H₂O)6.2、下層との境界は判然である。

第6層は60cm内外以下である。腐植欠き、色は10YRで明度7、彩度4である。半風化、未風化の細、小角礫含む、細孔、小孔、中孔含む、ち密度21で中、pH(H₂O)6.0前後である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地)北海道足寄郡足寄町 試坑No.56

第1層	0 ~ 18 cm	腐植とむ、黒褐(10YR2/2)のCL、礫なく発達弱度の細粒状構造あり、細孔あり、ち密度12で疎、pH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り半乾、層界明瞭
第2層	18 ~ 22 cm	腐植すこぶる富む、黒(10YR1/1)のCL、礫なく発達強~中度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度16で疎、pH(H ₂ O)6.1、調査時の湿り半乾、層界判然
第3層	22 ~ 32 cm	腐植含む、黒褐(10YR2/3)のCL、半風化の細、小の角礫あり、発達弱度の粒状塊状構造あり、細孔あり、ち密度17で疎、pH(H ₂ O)6.2、調査時の湿り半乾、層界判然
第4層	32 ~ 45 cm	腐植欠く、暗褐(10YR3/4)のSL、半風化の細、小の角礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度16で疎、pH(H ₂ O)6.2、調査時の湿り半乾、層界漸変

第5層	45~63cm	腐植欠く、明黄褐(10YR6/6)のL、半風化の細、小の角礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔、中孔あり、ち密度18で疎、pH(H ₂ O)6.2、調査時の湿り半乾、層界判然
第6層	63cm~	腐植欠く、にぶい黄橙(10YR7/4)半風化の細小の角礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔、中孔あり、ち密度21で中である。調査時の湿り半乾

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容 積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~18	5.3	0	8.5	39.0	31.0	21.5	CL	-	-	5.01	0.40	13	8.6
2	18~32	7.4	2.6	12.9	42.0	29.3	15.9	CL	-	-	2.70	0.26	10	4.7
3	32~45	7.0	5.0	19.4	49.1	24.6	6.8	SL	-	-	-	-	-	-
4	45~63	4.2	5.0	3.5	46.1	40.7	9.7	L	-	-	-	-	-	-

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度%	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.02	4.80	0.70	2.42	18.4	3.6	0.63	76.0	2.010	18.4
2	6.10	4.61	1.12	2.00	11.2	3.2	0.67	56.0	1.710	tr
3	6.21	4.70	0.81	1.56	8.0	2.2	0.72	51.3	1.950	tr
4	6.18	4.61	0.66	1.18	7.6	3.4	0.50	64.4	1.140	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては愛冠中央統があるが母材堆積様式が異なるので本統と区分される。

A-3 母材 非固結火成岩/非固結水成岩

A-4 堆積様式 風積/水積

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 5.6℃ 年降水量 837mm

D 植生および利用状況

てん菜、豆類、馬鈴薯らが主に作られている。

E 農業上の留意事項

深耕、有機物施用

F 分布 北海道足寄郡足寄町

調査および記載責任者 菊地晃二・関谷長昭(北海道立十勝農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
愛 冠	I f

② 土壤区別説明

愛 冠 一 愛 冠

示性分級式(畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵	
壤	効土	表表表	透保湿	保固土	置	有微酸	有物	増地
生土	土	土	然	層分換	" "	効	害理	冠す
産土	の	の風		の性	態量	物的	水	斜
力の層	の	の乾	水水潤肥	定塩	の石苦加	磷	害質	害の
可	の	粘土		基	灰土里酸	要	障	の
能	厚	含難	土着		沃	状豊富	" "	有
性	深		硬乾	沃	状豊富	" "	有	險
等		性性さ	性性度	力力態	量	素度	無性	度度
級	さ	量易	湿	度	否	性	性	斜
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e
	II	I I I I	2 2 1	I 2 2 1	III 1 3 1	I 1 1 1 1 2 1	I 1 1 1 1 1 1 1 1	I 1 1 1 1 1 1 1 1
簡略分級式 II f								

A 土壤区の特徴

この土壤区は愛冠統に属する。作土は25cm以上で深い。有効土層は1m以上で深い。作土の土性は粘質で耕起、砕土はやゝ困難である。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態不良。作土の置換性石灰、苦土、加里全て多い。有効態磷酸多、酸度弱である。特殊な障害性はない。表地平坦で水蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況

てん菜、馬鈴薯、豆類が主に作付けられている。

C 地力保全上の問題点

生産力は高い土壤であるが更に地力を増すために有機物を施用し漸次深耕すべきである。磷酸固定力が大きいから磷酸資材の施用も必要である。

D 分布 北海道足寄郡足寄町

記載責任者 菊地 晃二 (北海道立十勝農業試験場)

日付 昭和44年3月31日

ト プ シ 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外、土性はLiCである。腐植含量12.8%内外、色は7.5 YRで明度2彩度3である。礫なく発達弱度の細粒状、塊状構造あり、孔隙なし、ち密度12で疎、PH(H₂O) 5.9、下層との境界は判然である。

第2層は厚さ18cm内外、土性はLiCである。腐植含量12.7%、色は7.5 YRで明度2、彩度1である。礫なく発達強～中度の粒状構造あり、細孔、小孔含む、ち密度20で中、PH(H₂O)

5.8、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ17cm内外、土性はLである。腐植含量8.9%、色は10YRで明度3、彩度4である。礫なく、発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔、小孔、中孔含む、ち密度1.6で疎、pH(H₂O)5.8、下層との境界は判然である。

第4層は50cm以下である。腐植欠く、色は7.5YRで明度5、彩度4である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔ありち密度1.7で疎、pH(H₂O)5.8である。

代表的断面形態

(所在地)北海道足寄郡足寄町 試坑 No.22

第1層	0 ~ 15 cm	腐植すこぶる富む極暗褐(7.5YR ₂ /1)のLiC、礫なく、発達弱度の粒状構造あり、孔隙なし、ち密度1.2で疎、pH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り半乾、層界判然
第2層	15 ~ 33 cm	腐植すこぶる富む、黒(7.5YR ₂ /1)のLiC、礫なく、発達強~中程度の粒状構造あり、細孔、小孔、中孔あり、ち密度2.0で中、pH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り半乾、層界判然
第3層	33 ~ 50 cm	腐植富む、暗褐(10YR ₃ /4)のL、礫なく発達弱度の粒状構造あり、細孔、小孔、中孔あり、ち密度1.6で疎、pH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り半乾~湿、層界判然
第4層	50 cm ~	腐植欠く、褐(7.5YR ₅ /4)のL、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.7で疎、pH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15	7.8	0	8.9	25.1	37.7	28.3	LiC	—	—	7.41	0.59	1.3	12.8
2	15~33	10.7	0	1.4	21.1	40.6	27.0	LiC	—	—	7.37	0.63	1.2	12.7
3	33~50	9.1	0	10.1	35.8	40.2	14.0	L	—	—	5.14	0.46	1.1	8.9
4	50~	10.6	0	10.0	52.5	30.0	7.5	L	—	—	—	—	—	—

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.85	5.05	0.53	3.50	2.58	2.4	0.55	7.37	1.620	13.2
2	5.80	4.75	1.02	3.86	22.2	2.6	0.29	5.75	1.950	tr
3	5.80	4.70	1.03	3.14	14.0	1.6	0.29	4.45	2.070	tr
4	5.82	4.88	0.64	18.4	5.6	1.2	0.25	3.04	2.250	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統として足寄太統、ワシツブ統らがあるが、腐植層序が異なるので本統と区分される。また隣接する統としては愛冠中央統があるが母材、堆積様式が異なるので本統とは区分される。

A-3 母材 非固結火成岩 / 非固結水成岩

A-4 堆積様式 風積 / 水積

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 5.6℃ 年降水量 837 mm

D 植生および利用状況

てん菜、豆類、馬鈴薯が主に作付けられている。

E 農業上の留意事項

深耕、有機物の施用、磷酸資材の施用

F 分布 北海道足寄郡足寄町

調査および記載責任者 菊地晃二・関谷長昭（北海道立十勝農業試験場）

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
ト ブ シ	■ f llpw

② 土壌区別説明

ト ブ シ ー ト ブ シ

示性分級式(畑)

土 表 有 表 耕	土	自	養	障	災	傾	侵		
壤 効 土 表 表 表	透 保 湿	保 固 土	置	有 微 酸	有 物	増 地	自 傾 人	侵 耐 耐	
生 土 土 耘 土 土	の 然	層 分 換	" 効	害 理	冠 す	斜 為	水 風		
産 土 の 土 の 風	の 乾	の 水 水 潤 肥 定 塩	の 石 苦 加 磷	害 質 害	障	の 傾 方	傾 蝕 蝕		
力 の 層 磔 粘 土		基 灰 土 里 酸 要	の 素 度 無 性 度 度	有 害 險		斜 向 斜	度 性 性		
可 能 厚 の 含 難 土 着 の 硬 乾 沃 状 豐 含 " " "									
性 深 性 性 さ 性 性 度 力 力 態 量 " " "									
等 級 さ さ 量 易 湿 度 否 性 性 斜 蝕									
t d g p	w	f	n	i	a	s	e		
■	3 2 2	2 2 2	1 3 1	1 1 1 1 2 1	1 1 1 1 1 1 1 - -	1 1 1			
簡 略 分 級 式 ■ f llpw									

A 土壌区の特徴

この土壌区はトブシ統に属する。作土の厚さは25cm以上で深い。有効土層は1m以上で深い。作土の土性は強粘質で耕起、碎土はやゝ困難である。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態不良、作土の置換性石灰、苦土、加里多、有効態磷酸多、酸度弱。心土の固定力は大である。特殊な障害性はない。地形平坦で水蝕のおそれはない。

B 植生及び利用状況

てん菜、馬鈴薯、豆類が主に作付けられている。

C 地力保全上の問題点

生産力が高いが更に地力を増すために有機物を施用しつつ漸次深耕すべきである。

また磷酸の固定が大きいためから磷酸の増肥も大切である。

D 分 布 北海道足寄郡足寄町

記載責任者 菊 地 晃 二 (北海道立十勝農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

足 寄 太 西 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外、土性はCLである。腐植含量6.03%内外、色は7.5 YRで明度2、彩度3である。礫なく、発達弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.3で疎、pH(H₂O)5.87、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ8cm内外、土性はLである。腐植欠く、色は7.5 YRで明度4、彩度3である。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔、中孔含む、ち密度1.4で疎、pH(H₂O)5.38 下層との境界は明瞭である。

第3層は厚さ17cm内外、土性はSLである。腐植含量2.41%内外、色は7.5 YRで明度3、彩度4である。礫なく、発達弱度の粒状、細塊状構造あり、細孔、小孔、小孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H₂O)5.30、下層との境界は判然である。

第4層は厚さ13cm内外、土性はCLである。腐植欠く、色は7.5 YRで明度4、彩度3である。半風化角礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔、中孔に富む、ち密度1.7で疎、pH(H₂O)5.72、下層との境界は判然である。

第5層は厚さ22cm内外、土性はCLである。腐植欠く、色は10 YRで明度4、彩度4である。半風化角礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔含む、褐の斑紋あり、ち密度1.7で疎、pH(H₂O)5.80、下層との境界は漸変する。

第6層は75cm以下である。土性はCLである。腐植欠く、色は10 YRで明度5、彩度4である。半風化の角礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、褐の斑紋あり、ち密度1.5で疎である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地)北海道足寄郡足寄町 試坑 №115

第1層	0 ~ 15 cm	腐植含む、極暗褐(7.5 YR 2/3)のCL、礫なく発達弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.3で疎、pH(H ₂ O)5.87、湿り半乾、層界明瞭
第2層	15 ~ 23 cm	腐植欠く、褐(7.5 YR 4/3)のL、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔小孔あり、ち密度1.4で疎、pH(H ₂ O)5.38、湿り半乾、層界明瞭
第3層	23 ~ 40 cm	腐植含む、暗褐(7.5 YR 3/4)のCL、礫なく、発達弱度の細粒状、細塊状構造あり、細孔、小孔、中孔あり、ち密度1.8で疎、pH(H ₂ O)5.30、湿り半乾~湿、層界判然
第4層	40 ~ 53 cm	腐植欠く、褐(7.5 YR 4/3)のSL、半風化角礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔、中孔に富む、ち密度1.7で疎、pH(H ₂ O)5.72、湿り湿、層界判然
第5層	53 ~ 75 cm	腐植欠く、褐(10 YR 4/4)のCL、半風化角礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔に富む褐の斑紋あり、ち密度1.7で疎、pH(H ₂ O)5.80、湿り湿、層界漸変

第6層	75cm ~	腐植欠く、にぶい黄褐(10YR5/4)のCL、半風化角礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、暗褐の斑紋あり、ち密度15で疎、湿り湿
-----	--------	---

代表的断面の分析成績

層位	採取部位	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重 ρ	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15	4.8	0	12.40	39.84	30.70	17.05	CL	—	2.8	3.50	0.32	1.1	6.03
2	15~23	5.8	0	18.18	39.42	28.92	13.47	L	—	2.7	—	—	—	—
3	23~40	6.9	0	17.88	37.05	22.80	22.27	CL	—	—	1.40	0.14	1.0	2.41
4	40~53	4.4	0	23.11	45.55	20.27	11.07	SL	—	2.8	—	—	—	—
5	53~75	5.9	0	19.15	42.22	23.63	15.00	CL	—	—	—	—	—	—

層位	PH		置換酸度 Y_1	塩基置換容量 $me/100g$	置換性塩基 $me/100g$			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 $mg/100g$
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.87	4.98	0.67	2.14	16.0	2.4	0.29	74.8	1.140	1.80
2	5.38	4.32	2.65	1.80	6.0	7.4	0.17	30.0	1.200	tr
3	5.30	4.19	3.43	17.8	5.6	2.0	0.67	31.5	1.230	tr
4	5.72	4.40	1.10	1.18	5.6	2.8	0.50	47.5	840	tr
5	5.80	4.46	1.07	13.2	6.8	4.0	0.76	51.5	1.140	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に接する統としては、足寄統があるが地形、盤層の浅深などが異なるので本統と区分される。

A-3 母材 非固結火成岩 / 非固結水成岩

A-4 堆積様式 風積 / 水積

B 地形 平坦 ~ 緩傾斜

C 気候 年平均気温 5.6℃ 年降水量 837 mm

D 植生および利用状況

豆類、てん菜、馬鈴薯が主として作付けられている。

E 農業上の留意事項

暗渠排水、深耕、有機物の施用、保全耕作

F 分布 北海道足寄郡足寄町

調査および記載責任者 菊地晃二・関谷長昭(北海道立十勝農業試験場)
年 月 日 昭和44年3月3日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
足寄太西	Ilpwse

② 土壤区別説明

足 寄 太 西 — 足 寄 太 西

示性分級式(畑)

土表有表耕	土	目	養	障	災	傾	侵																													
壤効土	表表表	透保湿	保固土	置	有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐																											
生土	土	然	層分換	"	効	害理	冠す	斜	為																											
産土	の	の風	の性	態量	物的	水	り	然	為																											
力の層	の	の粘	の水水	潤肥定塩	の石苦加	害質	害の	の	蝕																											
可の礫	の	粘土	基	灰土里酸	要	の	危危	傾方	蝕蝕																											
能厚性	含難	土着	の乾	沃	状豊含	"	"	有	險																											
等深	性性	さ	性性	力力	態量	素度	無性	度度	斜向斜																											
級さ	さ	量易	湿	度	否	性	性	斜	蝕																											
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																									
II	I	I	I	II	2	2	2	II	2	2	3	I	1	2	2	I	1	1	2	1	2	1	I	1	1	I	1	1	II	2	-	-	II	2	2	1
簡略分級式 II p w s e																																				

A 土壤区の特徴

この土壤区は 足寄太西 統に属する。表土の厚さは25 cm 以上で深い。有効土層は1 m 以上で深い。表土の土性は粘質で耕起、砕土はやゝ困難である。保肥力大 固定力小 土層の塩基状態で肥沃度は高い。置換性石灰、苦土多、加里中、有効態磷酸多、酸度弱で養分は多い。緩傾斜を呈し水蝕のおそれがある。特殊な障害性はない。

B 植生及び利用状況

豆類、てん菜、馬鈴薯が主として作付けられている。

C 地力保全上の問題点

弱湿性を呈するから暗渠の施工が必要である。また緩傾斜を呈し水蝕があるから保全耕作も忘れてはならない。また水蝕のため作土の養分が流れているから有機物の施用も忘れてはならない。

D 分布 北海道足寄郡 足寄町

記載責任者 菊地 晃 二 (北海道立十勝農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

ラ ワ ン 中 央 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15 cm内外、土性はCLである。腐植含量7.33%内外、色は7.5 YRで明度2、彩度2である。礫なく発達弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.3で疎、PH(H₂O)6.15 下層との境界は明瞭である。

第2層は12 cm内外、土性はCLである。腐植含量4.43%内外、色は7.5 YRで明度2、彩度

3である。礫なく、発達中程度の細粒状構造含む、細孔あり、ち密度15で疎、 $pH(H_2O)$ 5.98
下層との境界は明瞭である。

第3層は厚さ20cm内外、土性はCLである。腐植含量2.27%内外、色は7.5YRで明度4、
彩度3である。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔含む、ち密度18で疎、 $pH(H_2O)$
6.18、下層との境界は判然である。

第4層は厚さ15cm内外、土性はCLである。腐植欠く、色は7.5YRで明度5、彩度4である。
半風化細小の角礫含む、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度20で中 $pH(H_2O)$ 6.12
下層との境界は明瞭である。

第5層は60cm以下である。土性はCLである。腐植欠く、色は10YRで明度6、彩度3であ
る。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度23中である。

代表的断面形態

(所在地)北海道足寄郡足寄町 試坑 $\#$ 132

第1層	0 ~ 15cm	腐植富む、黒褐(7.5YR2/2)のCL、礫なく、発達弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度13で疎、 $pH(H_2O)$ 6.15、湿り半乾、層界明瞭
第2層	15 ~ 27cm	腐植含む、極暗褐(7.5YR2/3)のCL、礫なく、発達中~強度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度15で疎、 $pH(H_2O)$ 5.98、湿り半乾~湿、層界明瞭
第3層	27 ~ 45cm	腐植あり、褐(7.5YR4/3)のCL、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度18で疎、 $pH(H_2O)$ 6.18、湿り半乾~湿、層界判然
第4層	45 ~ 60cm	腐植欠く、 てぶい 褐(7.5YR5/4)のCL、半風化角礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度20で疎、 $pH(H_2O)$ 6.12、湿り湿、層界明瞭
第5層	60cm ~	腐植欠く、 てぶい 黄橙(10YR6/3)のCL、礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度23で中、湿り湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 ρ	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0 ~ 15	6.5	0	6.11	34.42	36.24	23.22	CL	—	2.6	4.26	0.39	11	7.33
2	15 ~ 27	8.8	0	9.83	37.51	31.19	21.48	CL	—	—	2.57	0.20	13	4.43
3	27 ~ 45	9.4	0	11.31	38.39	34.72	15.58	CL	—	—	1.32	0.13	11	2.27
4	45 ~ 60	7.6	0	2.48	30.51	43.93	23.08	CL	—	—	—	—	—	—

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100 ρ	置 換 性 塩 基 me/100 ρ			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態燐酸 $mg/100\phi$
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.15	5.20	0.49	33.0	26.0	4.0	0.25	78.8	750	7.6
2	5.98	4.50	1.10	28.4	20.4	4.0	0.12	71.8	1,080	0.8
3	6.18	4.39	1.05	24.4	18.8	4.0	0.17	77.0	1,140	tr
4	6.12	4.31	1.62	26.0	22.8	1.2	0.29	87.7	1,440	tr

肥沃度は高い。置換性石灰、苦土多、加里少、有効態磷酸中、酸度弱で養分は中である。

緩傾斜を呈し水蝕のおそれがある。特殊な障害性はない。

B 植生及び利用状況

牧草、えん麦らの飼料作物が主に作付けられている。

C 地力保全上の問題点

緩傾斜を呈し水蝕のおそれがあるから保全耕作が必要である。また水蝕により作土の養分が流亡するから有機物の補給は忘れてはならない。

D 分布 北海道足寄郡足寄町

記載責任者 菊地 晃 二 (北海道立十勝農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

植 坂 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18cm内外、土性はOLである。腐植含量8.1%、色は10YRで明度3、彩度3である。礫なく、発達弱度の細粒状構造あり、細孔あり、ち密度15で疎、pH(H₂O)6.4、下層との境界は判然である。

第2層は厚さ10cm内外、土性はLである。腐植含量6.0%、色は10YRで明度3、彩度4である。半風化の細角礫あり、発達弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度16で疎、pH(H₂O)5.8、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ22cm内外、土性はLである。腐植欠く、色は10YRで明度4、彩度4である。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度18で疎、pH(H₂O)5.7、下層との境界は漸変する。

第4層は厚さ10cm内外、土性はLである。腐植欠く、色は7.5YRで明度5、彩度6である。明褐の斑紋あり、半風化の細、小の角礫あり、発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし、ち密度23で中、pH(H₂O)5.4、下層との境界は漸変する。

第5層は60cm以下である。腐植欠き、色は10YRで明度7、彩度6である。暗赤褐の斑紋あり、未、半風化の細、小、中の角礫含む、均質連結状構造、孔隙なし、ち密度30で堅密である。

代 表 的 断 面 形 態

北海道足寄郡足寄町 試坑184

第1層	0 ~ 18 cm	腐植富む、暗褐(10YR3/3)のOL、礫なく発達弱度の細粒状構造あり、細孔あり、ち密度15で疎、pH(H ₂ O)6.4、調査時の湿り半乾、層界判然
第2層	18 ~ 28 cm	腐植富む、暗褐(10YR3/4)のL、細角礫あり、発達弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度16で疎、pH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り半乾~湿、層界判然
第3層	28 ~ 50 cm	腐植欠く、褐(10YR4/4)のL、礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度18で疎、pH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り湿、層界漸変

第4層	50 ~ 60 cm	腐植欠く、明褐(7.5 YR 5/6)のL、半風化の細、小の角礫あり、発達弱度の粒状構造あり、赤褐の斑紋あり、ち密度23で中、pH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り湿層界漸変
第5層	60 cm ~	腐植欠く、明黄褐(1.0 YR 7/6)のL、未、半風化の細、小、中の角礫含む、均質連結状構造あり、暗赤褐の斑紋あり、ち密度30で堅密、調査時の湿り半乾

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0 ~ 18	5.2	0	9.5	35.5	35.2	19.8	CL	-	-	5.59	0.40	14	9.6
2	18 ~ 28	5.2	5.0	8.0	26.2	31.3	34.5	LiC	-	-	3.13	0.24	13	5.4
3	28 ~ 50	4.8	0	8.9	24.6	38.9	27.6	LiC	-	-	-	-	-	-
4	50 ~ 60	4.9	5.0	8.5	24.2	38.4	28.9	LiC	-	-	-	-	-	-

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態燐 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.64	4.53	1.99	23.6	11.0	1.6	0.2	46.6	1.290	32.8
2	5.85	4.50	1.75	20.2	10.0	2.4	0.3	49.5	1.140	tr
3	5.70	4.32	3.16	14.2	7.4	3.0	0.6	52.1	1.080	tr
4	5.53	4.27	3.60	13.2	6.8	3.6	0.5	51.5	840	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては植坂山統があるが、堆積様式が異なるので本統と区分される。

A-3 母材 非固結火成岩/非固結水成岩

A-4 堆積様式

B 地形 傾斜地

C 気候 年平均気温 5.6℃ 年降水量 837mm

D 植生および利用状況

主として牧草、えん麦らの飼料作物が作付けられている。

E 農業上の留意事項

保全耕作、有機物の施用、塩基の補給、暗渠排水、心土破碎

F 分布 北海道足寄郡足寄町

調査および記載責任者 菊地 晃二・関谷長昭(北海道立十勝農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
植坂	■wldpfnase

② 土壤区別説明

植 坂 ー 植 坂

示性分級式(畑)

土	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵																						
壤	効	土	表	表	透	保	湿	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	増	地	自	傾	人	侵	耐	耐									
生	土	土	転	土	地	然	層	分	換	"	"	効	害	理	冠	す	斜	為	水	風													
産	土	の	土	の	の	風	の	性	態	量	物	的	水	り	斜	為	水	風															
力	の	層	の	の	乾	の	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	障	害	の	の	蝕										
可	の	磔	粘	土	粘	土	粘	土	粘	土	粘	土	粘	土	粘	土	粘	土	粘	土	粘	土	粘	土	粘								
能	厚	の	含	難	土	着	乾	沃	状	豊	含	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"								
性	深	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性									
等	深	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性									
級	さ	さ	量	易	湿	度	否	性	性	斜	蝕																						
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																						
Ⅲ	I	Ⅱ	I	Ⅱ	2	2	2	Ⅲ	3	3	3	Ⅲ	1	2	2	Ⅲ	1	1	2	2	Ⅲ	1	1	Ⅲ	1	2	Ⅲ	2	1	Ⅲ	2	2	1
簡略分級式												Ⅲ w Ⅱ d p f n a s e																					

A 土壤区の特徴

この土壤区は植坂統に属する。作土の厚さは25cmで深い。有効土層は60cm内外でやゝ深い。作土の土性は粘質で耕起、碎土はやゝ困難である。保肥力大、固定力小、土層の塩基状態中である。作土は置換性石灰、苦土多、加里中、有効態磷酸多、酸度中である。特殊な障害性はない。傾斜地のため水蝕のおそれがある。

B 植生及び利用状況

牧草、えん麦らの飼料作物が主として作付けられている。

C 地力保全上の問題点

傾斜を早し作土の流亡が大きいから保全耕作、緑作帯の設置が必要である。また60cm以下堅密層となり一時的に排水不良となっているので暗渠排水、心土破砕が必要である。また養分の溶脱も大いので有機物、塩基の補給も忘れてはならない。

D 分布 北海道足寄郡足寄町

記載責任者 菊地 晃 二 (北海道立十勝農業試験場)
日 付 昭和44年3月31日

上 芽 登 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外、土性はCLである。腐植含量12.3%内外、色は7.5YRで明度2、彩度1である。磔なく、発達弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.5で疎、PH(H₂O) 5.3、下層との境界は判然である。

第2層は厚さ15cm内外、土性はCLである。腐植含量7.3%内外、色は7.5YRで明度4、彩

度2である。未風化細角礫あり、発達強度の粒状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度20で中、 $\text{pH}(\text{H}_2\text{O})$ 5.4、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ20cm内外、土性はLである。腐植欠く、色は7.5 YRで明度4、彩度4である。未風化細角礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔、中孔含む、ち密度20で中、 $\text{pH}(\text{H}_2\text{O})$ 5.6、下層との境界は漸変する。

第4層は厚さ15cm内外、土性はCLである。腐植欠く、色は7.5 YRで明度5、彩度6である。未風化細角礫含む、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度21で中、 $\text{pH}(\text{H}_2\text{O})$ 5.4、下層との境界は漸変する。

第5層は65cm以下である。土性はCLである。腐植欠く、色は10 YRで明度7、彩度6である。灰褐の斑紋あり、半、未風化の細角礫含む、均質連結状構造、細孔あり、ち密度28で密、 $\text{pH}(\text{H}_2\text{O})$ 5.4である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 北海道足寄郡足寄町 試坑 170

第1層	0 ~ 15 cm	腐植にすこぶる富む、黒(7.5 YR 2/1)のCL、礫なく、発達弱度の細粒状構造あり、細孔あり、ち密度15で疎、 $\text{pH}(\text{H}_2\text{O})$ 5.3、調査時の湿り半乾、層界判然
第2層	15 ~ 30 cm	腐植とむ、灰褐(7.5 YR 4/2)のL、細角礫あり、発達強度の粒状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度20で中、 $\text{pH}(\text{H}_2\text{O})$ 5.4、調査時の湿り半乾~湿、層界判然
第3層	30 ~ 50 cm	腐植欠く、褐(7.5 YR 4/4)のL、細角礫含む、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔、中孔あり、ち密度20で中、 $\text{pH}(\text{H}_2\text{O})$ 5.6 調査時の湿り半乾~湿、層界漸変
第4層	50 ~ 65 cm	腐植欠く、明褐(7.5 YR 5/6)のCL、細、小角礫含む、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度21で中、 $\text{pH}(\text{H}_2\text{O})$ 5.4 調査時の湿り湿、層界漸変
第5層	65 cm ~	腐植欠く、明黄褐(10 YR 7/6)のCL、細、小角礫含む、均質連結状構造、孔隙なし、灰褐の斑紋あり、ち密度28で密、 $\text{pH}(\text{H}_2\text{O})$ 5.6、調査時の湿り湿

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 ρ	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0 ~ 15	6.1	0	6.3	38.2	31.4	24.2	CL	—	—	7.15	0.55	13	12.3
2	15 ~ 30	7.1	5.0	8.6	34.7	36.3	20.4	CL	—	—	4.24	0.35	12	7.3
3	30 ~ 50	7.2	5.0	9.2	40.4	37.4	13.0	L	—	—	—	—	—	—
4	50 ~ 65	6.1	7.4	10.1	31.6	36.3	22.0	CL	—	—	—	—	—	—
5	65 ~	5.9	7.4	10.1	33.1	33.5	23.4	CL	—	—	—	—	—	—

A 土壌区の特徴

この土壌区は上芽登統に属する。作土の厚さは25cmで深い。有効土層は65cm内外でやや深い。作土の土性は粘質で耕起、砕土がやゝ困難である。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態は不良である。作土の置換性塩基は加里多、石灰、苦土中、有効態磷酸中、酸度は強である。特殊な障害性はない。地形は平坦で水蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況

主に牧草、えん麦らの飼料作物が作付けられている。

C 地力保全上の問題点

酸性を呈しているからその矯正が必要である。また土層の塩基状態も不良であるから塩基の補給も大切である。下層65cm以下から堅密層となり排水不良となつているから暗渠排水、心土破碎が必要である。

D 分布 北海道足寄郡足寄町

記載責任者 菊地 晃 二 (北海道立十勝農業試験場)

日付 昭和44年3月31日

静 岡 中 央 統

(I) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外、土性はLiCである。腐植含量8.5%内外、色は7.5YRで明度2、彩度2である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.0ですこぶる疎。PH(H₂O)5.7、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ13cm内外、土性はHCである。腐植含量3.3%内外、色は7.5YRで明度4、彩度4である。半風化の細小の角礫あり、細孔、小孔あり、発達弱度の粒状、細塊状構造あり、ち密度1.5で疎、PH(H₂O)5.4、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ7cm内外、土性はLiCである。腐植欠く、色は1.0YRで明度7、彩度6である。半風化の細、小角礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔、中孔含む、明黄褐の斑紋あり、ち密度2.0で中、PH(H₂O)5.2、下層との境界は明瞭である。

第4層は40cm内外以下である。土性はCLである。腐植欠く、色は2.5Yで明度7、彩度2である。未、半風化の細小の角礫含む均質連結状構造、明黄褐の斑紋あり、孔隙なし、ち密度2.7で堅密、PH(H₂O)5.9である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地)北海道足寄町足寄町 試坑No.12

第1層	0 ~ 20 cm	腐植に富む黒褐(7.5YR2/2)のLiC、礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.0ですこぶる疎、PH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り半乾~湿、層界明瞭
第2層	20 ~ 33 cm	腐植含む褐(7.5YR4/4)のHC、未風化細小角礫あり、発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔、小孔、中孔含む、ち密度1.5で疎、PH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り湿、層界判然

第3層	33～40 cm	腐植欠く、明黄褐(10YR7/6)のLiC、未、半風化の細小角礫含む、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度2.0で中、PH(H ₂ O) 5.2、調査時の湿り湿、層界明瞭
第4層	40 cm ～	腐植欠く、灰褐(2.5Y7/2)のCL、未、半風化の細小角礫含む、均質連結状構造、孔隙なし、ち密度2.7で密、pH(H ₂ O) 5.9、調査時の湿り半乾

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～20	8.0	0	7.1	28.1	37.3	27.5	LiC	—	—	4.91	0.43	11	8.5
2	20～33	9.8	2.6	9.3	19.1	25.2	46.5	HC	—	—	1.90	0.17	11	3.3
3	33～40	6.9	5.0	12.4	24.8	30.0	28.7	LiC	—	—	—	—	—	—
4	40～	4.5	5.0	14.8	33.7	34.9	16.7	CL	—	—	—	—	—	—

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.68	4.35	3.33	26.6	5.2	2.0	0.38	19.5	1.740	5.2
2	5.46	4.03	11.23	20.6	2.4	2.0	0.67	11.6	1.950	2.0
3	5.28	4.12	9.89	15.2	1.4	2.0	0.21	9.2	1.320	2.8
4	5.95	4.10	3.75	—	—	—	—	—	1.020	2.4

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては長野統があるが同じ堅密度の盤層を有するが地形的に大きく異なるので排水の良否が明らかに異なっているのでそれぞれ区分される。

A-3 母材 非固結火成岩/非固結水成岩

A-4 堆積様式 風積/水積

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 5.6℃ 年降水量 837 mm

D 植生および利用状況

牧草を中心に飼料作物が作付けられている。

E 農業上の留意事項

暗渠排水、心土破碎、酸度矯正

F 分布 北海道足寄郡足寄町

調査および記載責任者 菊地晃二・関谷長昭（北海道立十勝農業試験場）

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 分	簡 略 分 級 式
静 岡 中 央	Ⅲ dwf Ⅱ p n i a

② 土壌区別説明

静 岡 中 央 - 静 岡 中 央

示性分級式(畑)

土表有表耕 土 自 養 障 災 傾 侵
 壤 効 土 表 表 透 保 湿 保 固 土 置 有 微 酸 有 物 増 地 自 傾 人 侵 耐 耐
 生 土 土 耘 土 土 地 然 層 分 換 効 害 理 冠 斜 為 水 風
 産 土 土 の 土 土 の 風 の 性 態 量 物 的 水 べ 然 為 水 風
 力 の 層 の の 乾 の 水 水 潤 肥 肥 定 塩 の 石 苦 加 磷 害 質 害 の 傾 傾 蝕
 可 の 礫 の 粘 土 の 基 灰 土 里 酸 要 の 障 危 傾 方 蝕
 能 厚 深 含 難 土 着 硬 乾 沃 状 豊 含 素 度 無 性 度 度 斜 向 斜 度 性 性
 等 性 性 さ 性 性 度 力 力 態 量 素 度 無 性 度 度 斜 向 斜 度 性 性
 級 さ さ 量 易 湿 度 否 性 性 斜 蝕
 t d g p w f n i a s e
 Ⅲ I Ⅲ I Ⅱ 3 2 2 Ⅲ 3 2 3 Ⅲ 1 3 2 Ⅱ 2 1 1 2 2 2 Ⅱ 1 2 Ⅱ 2 1 I 1 - - I 1 1 1

簡略分級式 Ⅲ dwf Ⅱ p n i a

A 土壌区の特徴

この土壌区は静岡中央統に属する。作土の厚さは25cm以上で深い。有効土層は40cm内外で浅い。作土の土性は強粘質で耕起、碎土はやゝ困難である。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態は中である。作土の置換性苦土、加里多、石灰中、有効態磷酸中、酸度中である。特殊な障害性はない。地形は平坦で水蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況

牧草、えん麦らの飼料作物が作付けられている。

C 地力保全上の問題点

40 cm内外から盤層となつているため排水不良であるから暗渠排水と心土破砕の併用が必要である。また酸性が強くその矯正が必要である。

D 分布 北海道足寄郡足寄町

記載責任者 菊地 晃 二 (北海道立十勝農業試験場)

日付 昭和44年3月31日

長 野 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15 cm内外、土性はCLである。腐植含量6.2%、色は10 Y Rで明度3、彩度4である。礫なく発達弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.3で疎、pH(H₂O)5.6、下層との境界は判然である。

第2層は厚さ10 cm内外、土性はCLである。腐植欠く、色は10 Y Rで明度4、彩度4である。明褐の斑紋あり、未風化細角礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.5で疎、PH(H₂O)5.6、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ15 cm内外、土性はLである。腐植欠く、色は10 Y Rで明度5、彩度4である。明褐の斑紋あり、未、半風化の細小角礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度2.1で中、PH(H₂O)5.7、下層との境界は明瞭である。

第4層は40 cm内外以下である。土性はLである。腐植欠く、色は10 Y Rで明度6、彩度6である。明赤褐の斑紋あり、未、半風化の細、小角礫あり、均質連結状構造あり、孔隙なし、ち密度3.0で堅密、PH(H₂O)6.0である。

代表的断面形態

(所在地)北海道足寄郡足寄町 試坑699

第1層	0 ~ 15 cm	腐植に富む暗褐(10 Y R 3/4)のCL、礫なく発達弱度の細粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.3で疎、pH(H ₂ O)5.6、調査時の湿り半乾、層界判然
-----	-----------	--

第2層	15 ~ 25 cm	腐植欠く、褐(10YR4/4)のCL、未風化細角礫あり、発達弱度の塊状構造あり、明褐の斑紋あり、細孔、小孔あり、ち密度1.5で疎、PH(H ₂ O)5.6、調査時の湿り半乾~湿、層界判然
第3層	25 ~ 40 cm	腐植欠くにぶい黄褐(10YR5/4)のL、未風化細小角礫あり、明褐の斑紋あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度2.1で中、PH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り半乾~湿、層界明瞭
第4層	40 cm ~	腐植欠く、明黄褐(10YR6/6)のL、未風化細小角礫含む、明赤褐の斑紋あり、均質連結状構造、孔隙なし、ち密度3.0で堅密、pH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り半乾

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0 ~ 15	4.1	0	6.9	31.8	44.2	17.2	CL	—	—	3.57	0.27	13	6.2
2	15 ~ 25	4.2	2.6	18.3	36.6	26.6	18.5	CL	—	—	—	—	—	—
3	25 ~ 40	3.5	2.6	21.5	39.2	24.8	14.5	L	—	—	—	—	—	—
4	40 ~	3.2	5.0	17.9	44.2	27.1	10.8	L	—	—	—	—	—	—

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCℓ			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.63	4.56	1.31	19.6	11.2	1.2	0.17	57.1	750	10.8
2	5.64	4.18	3.87	14.6	7.2	3.2	0.25	49.3	1,200	2.4
3	5.70	4.21	2.59	12.2	6.0	4.0	0.38	49.2	690	tr
4	5.97	4.30	1.51	—	4.0	4.0	0.50	—	540	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統としては静岡中央統があるが同じ堅密度の盤層も有するが地形により排水の良否が変つておりそれぞれ区分される。

A-3 母材 非固結火成岩/非固結水成岩

A-4 堆積様式 風積/水積

B 地形 傾斜

C 気候 年平均気温 5.6℃ 年降水量 837mm

D 植生および利用状況 牧草、えん麦らが主として作付けられている。

E 農業上の留意事項 保全耕作、塩基の補給

F 分布 北海道足寄郡足寄町

調査および記載責任者 菊地晃二・関谷長昭 (北海道立十勝農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡略分級式
長 野	Ⅲdws Ⅱtpfniae

② 土壌区別説明

長 野 - 長 野

示性分級式(畑)

<p>土表有表耕 土 自 養 障 災 傾 侵</p> <p>壤 効 表表表 透保湿 保固土 置 有微酸 有物 増地 自傾人 侵耐耐</p> <p>生土 土 土 土 然 層分換 " " 効 害理 冠す</p> <p>産土 土 土 の の 性 態量 物 水 り 然 為 水風</p> <p>力 の の の 風 の 乾 の 水 潤 肥 肥 塩 の 石 苦 加 磷 害 質 害 の の 蝕</p> <p>可 の 層 の の 乾 の 水 潤 肥 肥 塩 の 石 苦 加 磷 害 質 害 の の 蝕</p> <p>能 の 礫 粘土 基 灰土里酸要 の 障 危 危 傾 傾 蝕蝕</p> <p>性厚 難 土 着 乾 沃 状 豊 含 " " " 有害 險 險 方</p> <p>等 深 含 性 性 さ 性 性 度 力 力 態 量 " " " 素 度 無 性 度 度 斜 向 斜 度 性 性</p> <p>級 さ さ 量 易 湿 度 否 性 性 斜 蝕</p> <p style="text-align: center;">t d g p w f n i a s e</p> <p style="text-align: center;">Ⅲ Ⅱ Ⅲ Ⅰ Ⅱ 2 2 2 Ⅲ 3 2 2 Ⅱ 2 2 2 Ⅱ 1 2 2 1 2 2 Ⅱ 1 2 Ⅱ 1 2 Ⅲ 3 - - Ⅱ 2 2 1</p> <p>簡略分級式 Ⅲdws Ⅱtpfniae</p>
--

A 土壤区の特徴

この土壤区は長野統に属する。作土の厚さは15cm内外でやゝ浅い。有効土層は40cm内外でやゝ浅い。作土の土性は粘質で耕起、碎土はやゝ困難である。保肥力中、固定力小、土層の塩基状態中である。作土の置換性石灰多、苦土、加里中、有効態磷酸多、酸度中である。特殊な障害性はない。地形は傾斜～緩傾斜を呈し水蝕のおそれは大きい。

B 植生及び利用状況

牧草、えん麦が主として作付けられている。

C 地力保全上の問題点

傾斜を呈しているため水蝕のおそれが大きいから保全耕作、緑作帯の設置が必要である。

また養分の流亡、溶脱もはげしいので有機物、塩基の補給を忘れてはならない。

D 分布

北海道足寄郡足寄町 記載責任者 菊地 晃 二 (北海道立十勝農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

足 寄 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外、土性はCLである。腐植含量6.9%内外、色は7.5YRで明度2、彩度3である。未風化細小角礫あり、発達弱度の細粒状構造、板状構造あり、細孔あり、ち密度13で疎、pH(H₂O) 5.6、下層との境界は判然である。

第2層は厚さ25cm内外、土性はCLである。腐植含量1.6%、色は10YRで明度4、彩度6である。暗褐の斑紋あり、未、半風化の細小角礫含む、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度18で疎、pH(H₂O) 5.7、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ10cm内外、土性はCLである。腐植欠く、色は10YRで明度7、彩度3である。黄褐の斑紋あり、未、半風化の細小角礫含む、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔、中孔あり、ち密度22で中、pH(H₂O) 5.5、下層との境界は判然である。

第4層は厚さ10cm内外、土性はCLである。腐植欠く、色は10YRで明度7、彩度3である。黄褐の斑紋あり、未、半風化の細小角礫含む、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔、中孔に富む、ち密度24で中、pH(H₂O) 5.1、下層との境界は判然である。

第5層は60cm以下である。土性はSLである。腐植欠く、色は10YRで明度6、彩度4である。黄褐の斑紋あり、未、半風化の細、小、中の角礫に富む、発達弱度の塊状構造あり、ち密度15で疎、pH(H₂O) 5.4である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 北海道足寄郡足寄町 試坑No95

第1層	0～15cm	腐植に富む極暗褐(7.5YR _{2/3})のCL、未風化細角礫あり、発達弱度の細粒状、板状構造あり、細孔あり、ち密度13で疎、pH(H ₂ O) 5.6、調査時の湿り半乾、層界判然。
-----	--------	--

第2層	15～40cm	腐植あり、褐(10YR $\frac{4}{6}$)のCL、未、半風化の細小角礫含む、発達弱度の塊状構造あり、褐の斑紋あり、細孔、小孔、中孔あり、ち密度1.8で疎、pH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り半乾～湿、層界判然。
第3層	40～50cm	腐植欠く、 <u>泥</u> 黄橙(10YR $\frac{4}{6}$)のCL、未、半風化の細小角礫含む発達弱度の塊状構造あり、黄褐の斑紋あり、細孔、小孔、中孔あり、ち密度2.2で中、pH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り湿、層界判然。
第4層	50～60cm	腐植欠く、 <u>泥</u> 黄橙(10YR $\frac{4}{6}$)のCL、未、半風化の細小角礫含む発達弱度の塊状構造あり、黄褐の斑紋あり、細孔、小孔、中孔に富む、ち密度2.4で中、pH(H ₂ O)5.1、調査時の湿り湿、層界判然。
第5層	60～cm	腐植欠く、 <u>泥</u> 黄橙(10YR $\frac{6}{4}$)のSL、未、半風化の細小角礫含む発達弱度の塊状構造あり、黄褐の斑紋あり、細孔、小孔、中孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容 積重%	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～15	4.8	2.6	6.2	36.6	34.8	22.4	CL	—	—	4.03	0.31	13	7.0
2	15～40	4.4	5.0	9.8	42.2	27.3	20.7	CL	—	—	0.93	0.13	7	1.6
3	40～50	3.9	5.0	8.2	43.2	32.5	16.1	CL	—	—	—	—	—	—
4	50～60	7.4	7.4	3.9	30.5	39.9	25.7	LiC	—	—	—	—	—	—
5	60～	3.9	7.4	30.4	41.8	16.2	11.7	SL	—	—	—	—	—	—

層位	P H		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100	置換性塩基 me/100			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態磷 mg/100
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.56	4.32	2.60	17.4	8.0	1.6	0.25	46.0	1,560	8.4
2	5.71	4.20	2.97	12.2	6.0	2.4	0.33	49.2	990	tr
3	5.50	3.93	5.64	12.0	6.0	3.6	0.38	50.0	1,290	tr
4	5.15	3.67	15.27	20.0	14.8	7.2	0.72	74.0	1,140	tr
5	5.47	3.89	6.29	13.4	7.6	3.6	0.55	56.7	630	tr

A-2 他の土壌統との関係

この土壌統と隣接する統としては中足寄統があるが地下水位の高低、母材、堆積様式が異なるので本統と区分される。

A-3 母 材 非固結火成岩/非固結水成岩

A-4 堆積様式 風積/水積

B 地 形 平坦

C 気 候 年平均気温 5.6℃ 年降水量 837mm

D 植生および利用状況 豆類、てん菜が主に作付けられている。

E 農業上の留意事項 暗渠排水、明渠排水、酸度矯正、有機物の施用

F 分 布 北海道足寄郡足寄町

調査および記載責任者 菊地晃二・関谷長昭 (北海道立十勝農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
足 寄	Ⅱwf Ⅱtpna

② 土壤区別説明

足 寄 - 足 寄

示性分級式(畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵	
壤効表表表	透保湿	保固土	置	有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐耐
生土土耘土土	然	層分換	〃〃効	害理	冠す	斜	為	水風
産土のの風	の性	態量	物的	水べ	然	為	水風	蝕
力の層のの乾	の水水潤肥肥定塩	の石苦加磷	害質	害の	の	蝕		
可能の礫	粘土	基	灰土里酸要	の障	危危	傾傾	蝕蝕	
性厚の難土着	乾	沃	状豊含	有害	險			
等深含	性性さ	性性度	力力態	量	〃〃	素度	無性	度度
級ささ量易	湿	度	否	性	性	斜	蝕	
t d g p	w	f	n	i	a	s	e	
ⅡⅡⅡⅡⅡ	2 2 2	Ⅲ 3 3 3	Ⅲ 2 3 2	Ⅱ 1 1 2 2 2 2	Ⅱ 1 1	Ⅱ 2 1	Ⅱ 1 - -	Ⅱ 1 1 1
簡略分級式	Ⅱwf Ⅱtpna							

A 土壤区の特徴

この土壤区は足寄統に属する。作土の厚さは15cmでやゝ浅い。有効土層は1m以上で深い。作土の土性は粘質で耕起、碎土はやゝ困難である。保肥力中、固定力中、土層の塩基状態中である。作土の置換性石灰、苦土多、加里中、有効態磷酸中、酸度中である。特殊な障害性はない。地形は平坦である。

B 植生及び利用状況

豆類、てん菜が主として作付けられている。

C 地力保全上の問題点

地下水位が高く排水不良となつているから明渠、暗渠排水が必要である。酸性を呈しているからその矯正が必要である。また作土がうすいから有機物を施用しつつ漸次深めるべきである。

D 分布 北海道足寄郡足寄町

記載責任者 菊地 晃 二 (北海道立十勝農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

下 愛 冠 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ14cm内外、土性はCLである。腐植含量9.0%、色は7.5YRで明度2、彩度2である。礫なく発達弱度の粒状、細塊状構造あり、細孔あり、ち密度6ですこぶる疎、pH(H₂O)6.0、下層との境界は判然である。

第2層は厚さ8cm内外、土性はCLである。腐植含量9.8%、色は7.5YRで明度2、彩度2である。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、孔隙なく、ち密度8ですこぶる疎、pH(H₂O)5.9、下層との境界は明瞭である。

第3層は厚さ8cm内外、土性はCLである。腐植含量5.9%内外、色は7.5YRで明度2、彩度2である。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度13で疎、pH(H₂O)5.7、下層との境界は判然である。

第4層は厚さ8cm内外、土性はCLである。腐植欠く、色は7.5YRで明度4、彩度6である。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔、中孔あり、ち密度14で疎、pH(H₂O)5.8、下層との境界は漸変する。

第5層は38cm内外以下である。土性はSLである。腐植欠く、色は7.5YRで明度5、彩度8である。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔、中孔あり、ち密度18で疎、pH(H₂O)5.9である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 北海道足寄郡足寄町 試坑458

第1層	0～14cm	腐植に富む黒褐(7.5YR _{2/2})のCL、礫なく、発達弱度の粒状、細塊状構造あり、ち密度6ですこぶる疎、pH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り半乾層界判然。
第2層	14～22cm	腐植に富む黒褐(7.5YR _{2/2})のCL、礫なく、発達弱度の細塊状構造あり、孔隙なし、ち密度8ですこぶる疎、pH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り半乾～湿、層界明瞭。
第3層	22～30cm	腐植に富む極暗褐(7.5YR _{3/4})のCL、礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度13で疎、pH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り半乾～湿、層界判然。
第4層	30～38cm	腐植欠く、褐(7.5YR _{4/4})のCL、礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔、中孔あり、ち密度14で疎、pH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り半乾～湿、湿層界漸変。
第5層	38～cm	腐植欠く、明褐(7.5YR _{5/4})のSL、礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔、中孔あり、ち密度18で疎、pH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り半乾～湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容 積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~14	5.0	0	4.8	43.7	32.1	19.5	CL	—	—	5.23	0.42	13	9.0
2	14~22	5.0	0	4.4	32.2	43.2	20.2	CL	—	—	5.70	0.41	14	9.8
3	22~30	5.6	0	3.8	45.1	30.1	21.0	CL	—	—	2.88	0.25	12	5.0
4	30~38	4.6	0	0.8	55.7	26.1	17.5	CL	—	—	—	—	—	—
5	38~	3.5	0	2.0	67.3	20.5	10.2	SL	—	—	—	—	—	—

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態磷 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.02	4.93	0.49	27.6	21.6	3.6	0.72	78.3	1,290	18.0
2	5.92	4.90	0.65	27.2	21.2	3.0	0.33	77.9	1,350	12.8
3	5.75	4.45	1.37	26.0	16.0	3.2	0.25	61.5	1,350	2.0
4	5.78	4.18	2.08	20.0	14.2	4.4	0.25	71.0	1,380	tr
5	5.94	4.23	1.15	22.0	10.2	4.4	0.33	46.4	1,020	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては愛冠中央統がある母材、堆積様式が異なるので本統と区分される。

また類似する統としては足寄中央統があるが作土の母材、堆積様式が異なるので本統と区分される。

A-3 母 材 非固結火成岩 / 非固結水成岩

B-4 堆積様式 風積 / 水積

B 地 形 平坦

C 気 候

年平均気温 5.6℃ 年降水量 837mm

D 植生および利用状況

豆類、てん菜、馬鈴薯が主として作付けられている。

E 農業上の留意事項

深耕、有機物の施用

F 分 布 北海道足寄郡足寄町

調査および記載責任者

菊地晃二・関谷長昭 (北海道立十勝農業試験場)

年 月 日

和 44年 3月 31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
下 愛 冠	II p

度1である。礫なく発達弱度の細粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.3で疎、PH(H₂O)5.3、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ10cm内外、土性はCLである。腐植含量13.9%、色は7.5YRで明度2、彩度2である。礫なく発達強度の細粒状、粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.5で疎、PH(H₂O)4.7、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ9cm内外、土性はCLである。腐植含量13.9%、色は7.5YRで明度3、彩度4である。礫なく発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度1.5で疎、PH(H₂O)4.7、下層との境界は明瞭である。

第4層は厚さ10cm内外、土性はLである。腐植含量7.2%、色は7.5YRで明度3、彩度4である。礫なく発達弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.5で疎、PH(H₂O)4.9、下層との境界は明瞭である。

第5層は厚さ25cm内外、土性はSである。腐植欠く、色は7.5YRで明度4、彩度6である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし、ち密度1.5で疎、PH(H₂O)4.9、下層との境界は明瞭である。

第6層は70cm以下である。土性はSLである。腐植欠く、色は7.5YRで明度4、彩度3である。細孔あり、ち密度1.5で疎である。

代表的断面形態

(所在地) 北海道足寄郡足寄町 試坑No.189

第1層	0~15cm	腐植にすこぶる富む黒(7.5YR ₁ ²)のLi c、礫なく発達弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.3で疎、pH(H ₂ O)5.3、調査時の湿り半乾~湿、層界明瞭。
第2層	15~25cm	腐植にすこぶる富む黒褐(7.5YR ₂ ⁵)のCL、礫なく、発達強度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O)4.7、調査時の湿り半乾~湿、層界判然。
第3層	25~34cm	腐植にとむ暗褐(7.5YR ₃ ⁴)のCL、礫なく、発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O)4.7、調査時の湿り半乾~湿、層界明瞭。
第4層	34~44cm	腐植にとむ、暗褐(7.5YR ₄ ³)のL、礫なく、発達弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O)4.9、調査時の湿り、半乾~湿、層界明瞭。
第5層	44~70cm	腐植欠く、褐(7.5YR ₅ ²)のSL、礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O)4.9、調査時の湿り、半乾~湿、層界明瞭。
第6層	70~cm	腐植欠く、褐(7.5YR ₆ ¹)のSL、礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.5で疎、調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重 ρ	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15	6.4	0	5.4	31.6	37.5	25.6	LiC	—	—	7.91	0.59	13	13.6
2	15~34	9.6	0	4.7	35.1	37.5	22.8	CL	—	—	8.05	0.61	13	13.9
3	34~44	11.6	0	7.0	54.6	29.6	8.8	L	—	—	4.16	0.37	11	7.2
4	44~70	9.7	0	6.5	61.7	25.5	6.3	SL	—	—	—	—	—	—

層位	PH		置換酸度 Y_1	塩基置換容量 $\frac{me}{100g}$	置換性塩基 $me/100g$			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 $\frac{mg}{100g}$
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.32	4.45	3.11	28.8	10.8	2.0	1.10	37.5	1,290	23.2
2	4.72	4.15	8.68	33.8	4.4	1.4	0.89	13.0	1,980	tr
3	4.98	4.48	2.51	20.2	2.8	1.2	1.18	13.9	2,130	tr
4	4.95	4.53	2.14	16.8	2.0	0.6	1.25	11.9	2,010	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては下愛冠統があるが堆積様式は同じであるが腐植層序が異なるので本統と区分される。

A-3 母材 非固結火成岩/非固結水成岩

A-4 堆積様式 風積/水積

B 地形 平坦

C 気候

年平均気温 5.6℃ 年降水量 837mm

D 植生および利用状況

てん菜、馬鈴薯、豆類が主として作付けられている。

E 農業上の留意事項

深耕、酸度矯正、磷酸の増肥

F 分布 北海道足寄郡足寄町

調査および記載責任者

菊地晃二・関谷長昭 (北海道立十勝農業試験場)

年月日

昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
柏倉	llpwf

彩度 2 である。礫なく発達弱度の粒状、細塊状構造あり、細孔あり、ち密度 15 で疎、pH (H₂O) 5.56 である。下層との境界は明瞭である。

第 2 層は厚さ 10 cm 内外、土性は CL である。腐植含量 2.27 % 内外、色は 7.5 YR で明度 4、彩度 2 である。礫なく発達弱度の粒状、細塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度 17 で疎である。pH (H₂O) 5.40 である。下層との境界は判然である。

第 3 層は厚さ 16 cm 内外、土性は SL である。腐植欠く。色は 7.5 YR で明度 4、彩度 3 である。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度 14 で疎、pH (H₂O) 5.35 である。下層との境界は漸変する。

第 4 層は厚さ 30 cm 内外、土性は LS である。腐植欠く、色は 7.5 YR で明度 4、彩度 4 である。礫なく単粒状構造あり、孔隙なし、ち密度 13 で疎である。下層との境界は波状明瞭である。

第 5 層は 70 cm 以下で円礫層である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 北海道足寄郡足寄町 試坑 № 24

第 1 層	0 ~ 16 cm	腐植富む黒褐 (7.5 YR 2/2) の LiC、礫なく発達弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度 15 で疎、pH (H ₂ O) 5.56、調査時の湿り、半乾、層界明瞭。
第 2 層	16 ~ 26 cm	腐植あり、灰褐 (7.5 YR 2/2) の CL、礫なく、発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔あり、ち密度 17 で疎、pH (H ₂ O) 5.40、調査時の湿り半乾、層界判然。
第 3 層	26 ~ 40 cm	腐植欠く、褐 (7.5 YR 3/2) の SL、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度 14 で疎、pH (H ₂ O) 5.35、湿り半乾、層界漸変。
第 4 層	40 ~ 70 cm	腐植欠く、褐 (7.5 YR 4/2) の LS、礫なく単粒構造あり、孔隙なし、ち密度 13 で疎である。湿り半乾、層界波状明瞭。
第 5 層	70 cm ~	未風化、円礫層。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容 積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0 ~ 16	5.8	0	13.36	33.82	26.13	26.70	LiC	—	—	4.83	0.43	11	8.23
2	16 ~ 26	5.6	0	8.30	51.43	20.11	20.16	CL	—	—	1.32	0.13	10	2.27
3	26 ~ 40	4.5	0	22.41	51.42	13.11	13.06	SL	—	—	—	—	—	—

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.56	4.68	0.80	31.8	23.6	2.4	0.72	74.0	1,380	8.4
2	5.40	4.08	8.73	23.6	14.0	3.2	0.29	59.3	1,500	2.4
3	5.35	4.04	14.28	18.4	9.6	2.8	0.29	52.2	1,080	3.2

A 土壤区の特徴

この土壤区は利別川統に属する。表土の厚さは25cm以上で深い。有効土層は70cm内外でやゝ深い。表土の土性は強粘質で耕起、砕土はやゝ困難である。保肥力大、固定力小、土層の塩基状態中で肥沃度は中である。置換性石灰、苦土、加里多、有効態磷酸中、酸度弱で養分は多い、特殊を障害性はない。

B 植生及び利用状況

豆類、てん菜、馬鈴薯が主に作付けられている。

C 地力保全上の問題点

生産力が高いが更に地力を高め生産を上げるために有機物を施用しつつ漸次深耕すべきである。

D 分布 北海道足寄郡足寄町

記載責任者 菊地晃二（北海道立十勝農業試験場）

日 附 昭和44年3月31日

東キトウシ統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18cm内外、土性はCLである。腐植含量10.6%、色は10YRで明度2、彩度3である。礫なく発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.3で疎、pH(H₂O)5.9、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ18cm内外、土性はLである。腐植含量7.2%、色は10YRで明度3、彩度4である。未風化細、小、中円礫含む、発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H₂O)5.8、下層との境界は判然である。

第3層は36cm以下である。土性はLである。腐植欠く、色は10YRで明度4、彩度4、未風化細、小、大の円礫含む、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、小孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H₂O)5.9である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 北海道足寄郡足寄町 試坑No182

第1層	0~18cm	腐植にすこぶる富む、黒褐(10YR _{3/3})のCL、礫なく、発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.3で疎、pH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り半乾、層界明瞭。
第2層	18~36cm	腐植に富む、暗褐(10YR _{4/4})のL、未風化の細、小、中の円礫含む、発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り半乾、層界判然。
第3層	36cm~	腐植欠く、褐(10YR _{4/4})のL、未風化の細、小、中、大の円礫含む、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~18	5.2	0	10.5	39.3	35.4	14.8	CL	—	—	6.15	0.46	13	10.6
2	18~36	6.7	5.0	12.1	44.6	31.5	11.8	L	—	—	4.17	0.35	12	7.2
3	36~	6.5	5.0	10.9	43.8	38.3	7.0	L	—	—	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.90	4.19	1.20	23.4	13.0	1.4	0.7	55.6	1,260	10.8
2	5.78	4.98	0.89	16.8	6.4	0.8	0.4	38.1	1,800	tr
3	5.86	4.92	0.77	14.6	10.0	1.4	0.2	68.5	1,830	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似としては足寄中央統があるが礫層の有無、腐植層序のちがいににより本統と区分される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積

B 地形 平坦

C 気候

年平均気温 5.6℃ 年降水量 837mm

D 植生および利用状況

小豆、菜豆、てん菜、馬鈴薯らが主として作付けられている。

E 農業上の留意事項

深耕、有機物の施用

F 分布 北海道足寄郡足寄町

調査および記載責任者

菊地晃二・関谷長昭 (北海道立十勝農業試験場)

年月日

昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
東キトウシ	II(w)f

② 土壤区別説明

東キトウシ-東キトウシ

示性分級式 (畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵
壤	効土	表表表	透保湿	保固土	置	有微酸	有物増地
生土	耘土	土地	然	層分換	〃〃効	害理冠す	自傾人
産土	の	の風		の性	態量	物的水	べ然斜為
力	の層	の乾	の水水	潤肥定	塩の石	苦加磷	害質害
可	磔	粘土		基	灰土里	酸要	障
能	の	土着	の乾	沃	状豊含		の危危
性厚	深	難	硬				傾傾
等		性性	さ	性性	度	力力	態量
級	さ	量易	湿	度	否	〃〃	素度
						性性	無性
							度度
							斜向斜
							度性性
							斜
							蝕
t d g p	w	f	n	i	a	s	e
II I I I I	2 1 1 (II)	2 1 1 II	1 2 2 I	1 1 1 1 1 2	I 1 1 I	1 1 I	1 - - I 1 1 1
簡略分級式		II (w) f					

A 土壤区の特徴

この土壤区は東キトウシ統に属する。作土の厚さは25cm以上で深い。有効土層は1m以上で深い。作土の土性は粘質で耕起、碎土はやゝ困難である。保肥力大、固定力小、土層の塩基状態中である。作土の置換性塩基は石灰、苦土、加里多、有効態磷酸多、酸度中である。特殊な障害性はない。地形は平坦である。

B 植生及び利用状況

小豆、菜豆、てん菜、馬鈴薯が主として作付けられている。

C 地力保全上の問題点

生産力は高い方であるが更に生産力を高めるために有機物を施用しつつ漸次作土層を深めるべきだろう。

D 分布 北海道足寄郡足寄町

記載責任者 菊地 晃 二 (北海道立十勝農業試験場)
日付 昭和44年3月31日

塩 幌 北 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ17cm内外、土性はCLである。腐植含量10.2%、色は7.5YRで明度2、彩度

2である。礫なく、発達弱度の細塊状構造あり、細孔あり、ち密度16で疎、pH(H₂O)5.7、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ7cm内外、土性はLである。腐植含量1.3%、色は10YRで明度5、彩度3である。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度22で中、pH(H₂O)5.6、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ7cm内外、土性はCLである。腐植欠く、色は10YRで明度5、彩度2である。褐の斑紋あり、礫なく発達弱度の細塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度24で中、pH(H₂O)5.6、下層との境界は判然である。

第4層は厚さ20cm、土性はSLである。腐植欠く、色は10YRで明度6、彩度2である。褐の斑紋あり、小角礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度22で中である。下層との境界は漸変である。

第5層は53cm内外以下である。土性はSLである。腐植欠く、色は10YRで明度7、彩度2である。褐の斑紋あり、礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度16で疎である。

代表的断面形態

(所在地) 北海道足寄郡足寄町 試坑No.37

第1層	0~17cm	腐植すこぶる富む、黒褐(7.5YR $\frac{5}{2}$)のCL、礫なく発達弱度の細塊状構造あり、細孔あり、ち密度16で疎、pH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り半乾、層界明瞭。
第2層	17~24cm	腐植あり、にぶい黄褐(10YR $\frac{5}{2}$)のL、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度22で疎、pH(H ₂ O)2.2、調査時の湿り半乾~湿、層界判然。
第3層	24~33cm	腐植欠く、灰黄褐(10YR $\frac{5}{2}$)のCL、礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔あり、褐の斑紋あり、ち密度24で中、pH(H ₂ O)5.6、調査時の湿り半乾~湿、層界判然。
第4層	33~53cm	腐植欠く、灰黄褐(10YR $\frac{5}{2}$)のSL、未風化細礫あり、褐の斑紋あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度22で中、調査時の湿り湿、界漸変。
第5層	53cm~	腐植欠く、にぶい黄橙(10YR $\frac{5}{2}$)のSL、礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、褐の斑紋あり、ち密度16で疎である。調査時の湿り半乾~湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重 ρ	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~17	7.2	0	10.1	31.1	38.5	20.3	CL			5.93	0.45	13	10.2
2	17~24	3.9	0	25.6	38.0	23.7	12.7	L			0.73	0.08	9	1.3
3	24~33	4.0	0	14.9	35.3	34.7	17.0	CL						

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H O	KC l			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.73	4.52	1.13	26.2	3.0	1.8	0.38	11.5	1,500	14.0
2	5.65	4.17	7.03	10.0	4.2	2.6	0.29	42.0	960	2.8
3	5.55	3.83	7.92	12.0	7.2	1.6	0.25	60.0	1,500	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては愛冠中央統があるが下層の母材、堆積様式が異なるので本統と区分される。

A-3 母材 非固結火成岩/非固結水成岩

A-4 堆積様式 風積/水積

B 地形 平坦

C 気候

年平均気温 5.6℃ 年降水量 837mm

D 植生および利用状況

てん菜、大豆らが主に作付けられている。

E 農業上の留意事項

明渠排水、暗渠排水、酸度矯正、深耕

F 分布 北海道足寄郡足寄町

調査および記載責任者

菊地晃二・関谷長昭（北海道立十勝農業試験場）

年月日

昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
塩幌北	■w l p f n a

② 土壌区別説明

塩幌北 - 塩幌北

示性分級式（畑）

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵
壤効土	表表表	透保湿	保固土	置	有微酸	有物	増地
生土	土	然	層	換	効	害理	冠す
産土	土	の風	の性	態量	物的	害の	水り
力の層	の粘	の乾燥	の水分	潤肥	塩の石	苦加	燃
可能	の礫	土	基	灰土	里酸	要	の障
性厚	難	土着	沃	状	豊含	素度	無性
等深	含	性性	性性	力力	態量	素度	無性
級さ	量易	湿	度	否	性	性	斜
	t d g p	w	f	n	i	a	s
	■ l l l l l	2 2 2	3 3 3	1 2 2	3 1 1 1 1 2	1 1 1	2 1 1 1 - - 1 1 1 1
簡略分級式	■ w l p f n a						

A 土壤区の特徴

この土壤区は塩幌北統に属する。厚さは25cm以上で深い。有効土層は1m以上で深い。作土の土性は粘質で耕起、碎土はやゝ困難である。保肥力大、固定力小、土層の塩基状態中である。作土の置換性苦土、加里多、石灰少、有効態磷酸多、酸度中である。

特降な障害性はない。地形は平坦で水蝕のおそれはない。

B 植生及び利用状況

大豆、てん菜、牧草、えん麦らが主に作付けられている。

C 地力保全上の問題点

排水不良であるから明渠、暗渠排水が必要である。酸性を呈するからその矯正が必要である。

また作土がうすいから有機物を施用しつつ漸次深して作土層を深めるべきであろう。

D 分布 北海道足寄郡足寄町

記載責任者 菊地 晃 二 (北海道立十勝農業試験場)

日 附 昭和44年3月31日

中 足 寄 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外、土性はCLである。腐植含量4.3%、色は10YRで明度3、彩度3である。礫なく、発達弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度13で疎、pH(H₂O)5.4、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ10cm内外、土性はCLである。腐植含量1.6%、色は10YRで明度4、彩度2である。礫なく発達中度の細塊状構造含む、細孔、小孔含む、ち密度16で疎、pH(H₂O)5.8、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ15cm内外、土性はCLである。腐植欠く、色は10YRで明度4、彩度4である。褐の斑紋あり、礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔、中孔あり、ち密度15で疎、pH(H₂O)5.9、下層との境界は判然である。

第4層は厚さ25cm内外、土性はCLである。腐植欠く、色は10YRで明度5、彩度4である。褐の斑紋あり、礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度16で疎、下層との境界は判然である。

第5層は70cm内外以下である。土性はSである。腐植欠く、色は10YRで明度5、彩度4である。発達弱度の塊状構造あり、孔隙なし、ち密度15で疎である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 北海道足寄郡足寄町 試坑697

第1層	0~20cm	腐植含む暗褐(10YR _{3/3})のCL、礫なく、発達弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度13で疎、pH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り半乾、層界明瞭。
第2層	20~30cm	腐植あり、灰黄褐(10YR _{4/2})のCL、礫なく、発達中度の細塊状構造あり、細孔、小孔、中孔あり、ち密度16で疎、pH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り半乾~湿、層界判然。

第3層	30～45cm	腐植欠く、褐(10YR $\frac{5}{4}$)のCL、礫なく、発達弱度の塊状構造あり、褐の斑紋あり、細孔、小孔、中孔あり、ち密度15で疎、PH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り湿、層界判然。
第4層	45～70cm	腐植欠く、にぶい黄褐(10YR $\frac{5}{4}$)のCL、礫なく、発達弱度の塊状構造あり、褐の斑紋あり、細孔、小孔あり、ち密度16で疎、調査時の湿り湿、層界判然。
第5層	70cm～	腐植欠く、にぶい黄褐(10YR $\frac{5}{4}$)のS、礫なく、発達弱度の塊状、単粒状構造あり、孔隙なし、ち密度15で疎、調査時の湿り半乾～湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成%				土性	現地容 積重%	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～22	4.9	0	1.4	33.3	40.5	24.8	CL	—	—	2.52	0.25	10	4.4
2	22～30	5.3	0	2.2	34.5	42.4	20.9	CL	—	—	0.90	0.06	15	1.6
3	30～45	5.2	0	3.4	56.5	24.1	16.0	CL	—	—	—	—	—	—

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度%	磷酸吸 収係数	有効態磷 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.45	4.31	1.84	24.6	16.4	4.8	0.50	66.7	1,290	17.2
2	5.76	4.00	3.60	20.0	17.4	6.0	0.29	87.0	1,020	tr
3	5.97	4.15	2.51	6.0	16.4	6.8	0.43	27.3	810	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては下愛冠統があるが地下水位の高低が異なるので本統と区分される。
また隣接する統としては足寄中央統があるが表土の母材、堆積様式が異なるので本統と区分される。

A-3 母材 非固結火成岩/非固結水成岩

A-4 堆積様式 風積/水積

B 地形 平坦

C 気温

年平均気温 5.6℃ 年降水量 837mm

D 植生および利用状況

大豆、えん麦、牧草らが作付けられている。

E 農業上の留意事項

明渠排水、暗渠排水、酸度矯正、有機物の施用

F 分布 北海道足寄郡足寄町

調査および記載責任者 菊地晃二・関谷長昭 (北海道立十勝農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

足 寄 太 中 央 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ16cm内外、土性はCLである。腐植含量3.15%内外、色は7.5YRで明度3、彩度3である。礫なく発達弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H₂O)6.15である。下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ16cm内外、土性はSCLである。腐植欠き、色は7.5YRで明度4、彩度4である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.6で疎、pH(H₂O)6.43である。下層との境界は判然である。

第3層は厚さ50cm内外、土性はSLである。腐植欠き、色は7.5YRで明度4、彩度6である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.7で疎、pH(H₂O)6.53である。下層との境界は波状明瞭である。

第4層は未風化円礫層である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 北海道足寄郡足寄町 試坑No.6

第1層	0~16cm	腐植あり、暗褐(7.5YR _{3/3})のCL、礫なく、発達弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O)6.15、調査時の湿り半乾、層界明瞭。
第2層	16~32cm	腐植欠く、褐(7.5YR _{4/4})のSCL、礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.6で疎、pH(H ₂ O)6.43、調査時の湿り半乾、層界判然。
第3層	32~80cm	腐植欠く、褐(7.5YR _{6/6})のSL、礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.7で疎、pH(H ₂ O)6.53、調査時の湿り半乾、層界波状明瞭。
第4層	80cm~	未風化円礫層

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~16	4.3	0	9.34	51.83	21.76	17.07	CL	—	—	1.83	0.19	10	3.15
2	16~32	4.7	0	2.49	62.67	19.77	15.06	SCL	—	—	—	—	—	—
3	32~80	5.0	0	1.64	65.53	11.44	21.40	CL	—	—	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.15	4.90	0.49	26.6	21.4	4.2	0.59	80.4	1,020	36.8
2	6.43	4.91	0.43	26.2	20.8	5.2	0.59	79.3	1,260	27.6
3	6.53	4.91	0.31	29.0	20.0	6.4	0.84	68.9	1,200	22.0

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似、隣接する統としては利別川統が作土の母材、堆積が異なるので本統と区分される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積

B 地形 平坦

C 気候

年平均気温 5.6℃ 年降水量 837mm

D 植生および利用状況

豆類、てん菜、馬鈴薯が主に作付けられている。

E 農業上の留意事項

有機物の施用、深耕

F 分布 北海道足寄郡足寄町

調査および記載責任者 菊地晃二・関谷長昭 (北海道立十勝農業試験場)
年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
足寄太中央	II t d p a

② 土壌区別説明

足寄太中央 - 足寄太中央

示性分級式 (畑)

土表有表耕	土表表土	透保湿	保固土	置換性	有微酸	障有物	災增地	傾自傾人	侵耐耐	
壤効土	耘土土	然	層分換	" "	効	害理	冠す	然斜為	水風	
産土土	のの風	水水潤肥	定塩の	石苦加	燐	害質	害のの	のの	蝕蝕	
力の層	のの粘	土土乾	沃	状豊含	" "	障有	危危	傾傾	蝕蝕	
能厚	含難土着	硬乾	沃	状豊含	" "	害有	險險	方	蝕蝕	
性深	性性	性性	力力	態量	" "	素度	無性	斜向斜	度性性	
等深	性性	性性	力力	態量	" "	素度	無性	斜向斜	度性性	
級さ	さ量易	湿	度	否		性	性	斜	蝕	
	t d g p	w	f	n		i	a	s	e	
	II II I II 2 2 2	I 2 1 1	I 1 2 1	I 1 1 1 1 2 1	I 1 1	II 2 1	I 1	- -	I 1 1 1	
	簡略分級式	II t d p a								

A 土壌区の特徴

この土壌区は足寄太中央統に属する。作土の厚さは16cm内外でやゝ浅い。有効土層は80cm内外でやゝ深い。表土の土性は粘質で耕起、碎土はやゝ困難である。

保肥力大、固定力小、土層の塩基状態は良で肥沃度は高い。置換性石灰、苦土、加里多、有効態磷酸多、酸度中で養分は多い。河川に接するため多雨、増水時に増冠水の危険性がある。

特殊な障害性はない。地形は平坦である。

B 植生及び利用状況

菜豆、小豆、てん菜、馬鈴薯が主に栽培されている。

C 地力保全上の問題点

作土の腐植含量少なく、また作土層がうすいから有機物を施用しつつ、漸次深耕して作土の厚さを深めるべきである。

D 分布 北海道足寄郡足寄町

記載責任者 菊地 晃 二 (北海道立十勝農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

西 1 線 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ23cm内外、土性はSLである。腐植含量1.2%、色は10YRで明度4、彩度4である。礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度6ですこぶる疎、pH(H₂O)5.1、下層との境界は判然である。

第2層は23cm内外以下である。土性はLSである。腐植欠く、色は10YRで明度5、彩度1である。礫なく、単粒状構造、孔隙なし、ち密度13で疎、pH(H₂O)6.1である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 北海道足寄郡足寄町 試坑No51

第1層	0~23cm	腐植あり、褐(10YR ₄)のSL、礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度6ですこぶる疎、pH(H ₂ O)5.1、調査時の湿り乾、層界判然。
第2層	23cm~	腐植欠く、褐灰(10YR ₅)のLS、礫なく、単粒状構造あり、孔隙なし、ち密度13で疎、pH(H ₂ O)6.1、調査時の湿り乾。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 ρ	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~23	4.0	0	24.1	58.4	10.3	7.2	SL	—	—	0.68	0.09	8	1.2
2	23~	2.1	0	28.4	61.8	5.5	4.3	LS	—	—	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 ^{me} /100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 ^{mg} /100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.06	3.78	5.22	17.0	11.4	3.4	0.59	67.1	780	35.2
2	6.12	4.40	0.51	10.2	9.2	3.2	0.33	90.1	930	17.2

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては稲牛統があるが、土性が異なるので本統とは区分される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積

B 地形 平坦

C 気候

年平均気温 5.6℃ 年降水量 837mm

D 植生および利用状況

馬鈴薯、豆類が主として作付けられている。

E 農業上の留意事項

有機物の施用、粘土客土

F 分布 北海道足寄郡足寄町

調査および記載責任者 菊地晃二・関谷長昭 (北海道立十勝農業試験場)

年月日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
西 1 線	II(w) II t f a

② 土壌区別説明

西 1 線 - 西 1 線

示性分級式 (畑)

土表有表耕 壤効土表表透 生土土耘土土 産土の土の風 力の層のの乾 可能厚含難土 性等深性性 級ささま易	土自養 透保湿 保固土 然 層分換 の水の潤肥肥定 乾土水水潤肥 着硬 沃 沃 性性度 力力 湿 度 否	障災傾侵 有微酸 有物 增地 自傾人 侵耐 害理 冠す 然斜為 水風 物的 水りの 傾 傾 傾 害障 害危の 方 方 方 の有害 險險 斜向斜 度性性 無性 度度 斜向斜 度性性
t d g p II II II II 1 1 1	w f n (II) 1 1 1 II 2 2 2 I 1 1 1 1 1 2	i a s e I 1 1 II 2 1 I 1 - - I 1 1 1
簡略分級式 II(w) II t f a		

A 土壌区の特徴

この土壌区は西1線統に属する。作土の厚さは23cm内外でやゝ深い。有効土層は1m以上で深い。作土の土性は壤質で耕起、碎土は容易である。保肥力中、固定力小、土層の塩基状態中である。作土は置換性石灰、苦土、加里多、有効態酸多、酸度中である。特殊な障害性はない。

B 植生及び利用状況

馬鈴薯、豆類が作付けられている。

C 地方保全上の問題点

土性が粗く、保肥力が小さく、同時に養分の溶脱が大きいから有機物の施用、粘土の客土により保肥力を高めることが望ましい。

D 分布 北海道足寄郡足寄町

記載責任者 菊地 晃 二 (北海道立十勝農業試験場)

日付 昭和44年3月31日

稲 牛 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ13cm内外、土性はCLである。腐植含量3.3%内外、色は2.5Yで明度4、彩度2である。礫なく、発達弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.3で疎、pH(H₂O)5.5、下層との境界は判然である。

第2層は厚さ10cm内外、土性はCLである。腐植含量2.0%、色は2.5Yで明度3、彩度4である。礫なく、発達中度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.3で疎、pH(H₂O)6.2、下層との境界は判然である。

第3層は23cm以下である。土性はSCL、腐植欠く、色は2.5Yで明度4、彩度4である。未風化の細、小角礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.5で疎、pH(H₂O)5.9である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 北海道足寄郡足寄町 試坑No121

第1層	0~13cm	腐植含む、暗灰黄(2.5Y _{1/2})のCL、礫なく発達弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.3で疎、pH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り半乾、層界判然。
-----	--------	---

第2層	13~23cm	腐植含む、暗オリーブ褐(2.5Y $\frac{3}{8}$)のCL、礫なく発達強度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.3で疎、PH(H ₂ O)6.2、調査時の湿り半乾、層界判然
第3層	23cm~	腐植欠く、オリーブ褐(2.5Y $\frac{1}{4}$)のSCL、未風化の中角礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.5で疎、PH(H ₂ O)6.4、調査時の湿り半乾

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒径組成%				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~13	5.1	0	2.8	39.5	32.9	24.7	CL			1.93	0.20	10	3.3
2	13~23	5.1	0	6.2	49.6	24.7	19.6	CL			1.16	0.12	10	2.0
3	23~	4.8	5.0	4.2	60.1	19.5	16.2	SCL						

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石飽和度 %	灰度 %	磷酸 吸収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O				
1	5.50	4.62	0.67	27.2	19.6	4.0	2.2	72.1		810	29.6
2	6.15	4.72	0.64	24.6	18.2	4.0	2.1	74.0		1,230	27.2
3	6.43	4.61	0.83	24.4	16.2	7.0	1.6	66.4		840	22.8

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては足寄中央統があるが、作土の土性が異なるので本統と区分される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積

B 地形 平坦

C 気候

年平均気温 5.6℃ 年降水量 837mm

D 植生および利用状況

てん菜、馬鈴薯、小豆、菜豆が主として作付けられている。

E 農業上の留意事項

有機物の施用、深耕

F 分布 北海道足寄郡足寄町

調査および記載責任者

年 月 日

菊地晃二・関谷長昭 (北海道立十勝農業試験場)

昭和44年3月31日

C 地力保全上の問題点

作土の腐植含量が少ないから有機物の施用が大切である。また同時に漸次深耕して作土層を深めるべきであろう。

D 分布 北海道足寄郡足寄町

記載責任者 菊地 晃二 (北海道立十勝農業試験場)

日付 昭和44年3月31日

奥 足 寄 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外、土性はCLである。腐植含量4.43%内外、色は10YRで明度3、彩度3である。礫なく、発達弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度11で疎、pH(H₂O)5.47である。下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ15cm内外、土性はCLである。腐植含量1.51%内外、色は10YRで明度4、彩度6である。礫なく発達弱度の粒状、細塊状構造あり、細孔、小孔含む。ち密度17で疎である。pH(H₂O)5.18である。下層との境界は判然である。

第3層は厚さ10cm内外、土性はSLである。腐植欠く、色は10YRで明度6、彩度6である。未、半風化の細小角礫あり、細孔、小孔あり、ち密度17で疎、pH(H₂O)5.26、下層との境界は判然である。

第4層は厚さ7cm内外、土性はLSである。腐植欠く、色は10YRで明度7、彩度4である。半、未風化の細小角礫含む。細孔、小孔あり、ち密度20で中、pH(H₂O)、下層との境界は判然である。

第5層は53cm以下である。土性はSLである。腐植欠く、色は10YRで明度5、彩度4である。半、未風化の細小中からなる角礫含む。ち密度18で疎である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 北海道足寄郡名寄町 試坑692

第1層	0~20cm	腐植含む、暗褐(10YR _{5/2})のCL、礫なく、発達弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち度11で疎、pH(H ₂ O)5.47、湿り半乾、層界明瞭。
第2層	20~35cm	腐植あり、褐(10YR _{4/6})のCL、礫なく、発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度14で疎、pH(H ₂ O)5.18、湿り半乾~湿、層界判然。

第3層	35～46cm	腐植欠く、明黄褐(10YR%)SL、半風化角礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度17で疎、pH(H ₂ O)5.26、湿り半乾～湿、層界判然。
第4層	46～53cm	腐植欠く、にぶい黄橙(10YR $\frac{7}{4}$)のLS、半風化角礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度20で中、湿り半乾～湿、層界判然。
第5層	53cm～	腐植欠く、にぶい黄褐(10YR $\frac{7}{4}$)のSL、半風化角礫あり、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度18で疎、湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重 ρ	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～20	4.1	0	15.15	43.43	24.85	16.57	CL	—	—	2.57	0.20	13	4.43
2	20～35	4.2	0	17.16	42.03	22.81	18.00	CL	—	—	0.87	0.08	11	1.51
3	35～46	3.4	0	25.5	42.57	21.23	10.69	SL	—	—	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 ^{me} /100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 ^{mg} /100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.47	4.30	2.83	15.8	7.4	1.4	0.72	46.8	990	9.2
2	5.18	3.93	8.75	11.2	5.2	2.4	0.25	46.4	1,500	tr
3	5.26	4.02	4.33	9.0	4.8	2.8	0.97	53.3	1,050	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に接する統としては足寄統があるが堆積様式が異なるので本統と区分される。

A-3 母材 非固結火成岩/非固結水成岩

A-4 堆積様式 風積/水積

B 地形

傾斜～緩傾斜地

C 気候

年平均気温 5.6℃ 年降水量 837mm

D 植生および利用状況

豆類が主に作付けられている。

E 農業上の留意事項

保全耕作、有機物の補給

F 分布 北海道足寄郡足寄町

調査および記載責任者

年 月 日

菊地晃二・関谷長昭 (北海道立十勝農業試験場)

昭和44年3月31日

下 白 愛 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外、土性はCLである。腐植含量3.4%内外、色は10YRで明度4、彩度3である。礫なく、発達弱度の粒状、塊状構造あり、孔隙なし、ち密度1.0ですこぶる疎、pH(H₂O)6.0、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ30cm内外、土性はCLである。腐植欠く、色は10YRで明度4、彩度4である。未風化細、小、中、大の角礫あり、発達中度の粒状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度1.8で疎、pH(H₂O)6.1、下層との境界は漸変する。

第3層は50cm内外以下である。土性はCLである。腐植欠く、色は10YRで明度5、彩度6である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度1.8で疎、pH(H₂O)6.3である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 北海道足寄郡足寄町 試坑¹⁾143

層位	採取部 位 cm	説明
第1層	0~20cm	腐植含む、暗褐(10YR _{5/3})のCL、礫なく、発達弱度の粒状、塊状構造あり、孔隙なし、ち密度1.0ですこぶる疎、pH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り半乾、層界明瞭。
第2層	20~50cm	腐植欠く、褐(10YR _{4/4})のCL、未風化細、小、中、大の角礫含む、発達中度の粒状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度1.8で疎、pH(H ₂ O)6.1、調査時の湿り半乾、層界漸変。
第3層	50cm~	腐植欠く、黄褐(10YR _{5/6})のCL、礫なく、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度1.8で疎、pH(H ₂ O)6.3、調査時の湿り半乾。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容 積重 ^g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	4.5	0	7.4	42.5	30.8	19.4	CL	—	—	1.99	0.19	11	3.4
2	20~50	4.9	5.0	7.6	44.1	28.1	20.3	CL	—	—	—	—	—	—
3	50~	8.1	0	7.9	45.3	24.7	22.1	CL	—	—	—	—	—	—

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換容 量 ^{me} /100 ^g	置換性塩基 ^{me} /100 ^g			石灰飽 和度%	磷酸吸 収係数	有効態磷 酸 ^{mg} /100 ^g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.00	4.90	0.75	17.6	14.2	2.6	0.6	80.7	840	6.8
2	6.08	4.82	0.74	20.4	14.6	2.8	1.6	71.6	1,140	3.2
3	6.34	4.80	0.71	25.0	17.0	4.6	3.1	68.0	1,020	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統としては上足寄統があるが、母材が異なるので本統と区分される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 水積

B 地形 傾斜地

C 気候

年平均気温 5.6℃ 年降水量 837mm

D 植生および利用状況

えん麦、豆類が主として作付けられている。

E 農業上の留意事項

保全耕作、有機物の施用

F 分布 北海道足寄郡足寄町

調査および記載責任者

菊地晃二・関谷長昭 (北海道立十勝農業試験場)

年月日

昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
下 白 愛	■ s II tpwfa

② 土壌区別説明

下 白 愛 - 下 白 愛

示性分級式(畑)

土表有表耕 壤 効土 表表表 透保湿 保固土 置 有微酸 有物 増地 自傾人 侵耐耐 生土 耘土 土地 然 層分換 " " 効 害理 冠す 斜 為 水風 産土の の風 の性 態量 物的 水べり 然 為 水風 力 の層 のの 乾の水水潤肥肥定塩の石苦加磷 害質 害の の 蝕 可 礫 粘土 基 灰土里酸要 の 危危 傾 傾 蝕蝕 能 の 土着の 乾 沃 状豊含 " " " 有害 險險 性厚 含難 硬 性性さ 性性度 力力態 量 素度 無性 度度 斜向斜 度性性 等 深 性性さ 性性度 力力態 量 素度 無性 度度 斜向斜 度性性 級ささ量易 湿 度 否 性 性 斜 蝕
t d g p w f n i a s e ■ 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 2 ■ 3 - - 1 1 1
簡略分級式 ■ s II tpwfa

A 土壤区の特徴

この土壤区は下白愛統に属する。作土の厚さは20cmでやゝ深い。有効土層は1m以上で深い。作土の土性は粘質で耕起、碎土はやゝ困難である。保肥力中、固定力小、土層の塩基状態は良である。作土の置換性石灰、苦土、加里多、有効態磷酸中、酸度弱である。地形は傾斜で水蝕のおそれ大きい。特殊な障害性はない。

B 植生及び利用状況

豆類、えん麦らが作付けられている。

C 地力保全上の問題点

傾斜を呈し水蝕のおそれ大きいから保全耕作、緑作帯の設置が必要である。また作土の有機物含量が少ないから有機物の施用が望ましい。

D 分布 北海道足寄郡足寄町

記載責任者 菊地 晃二 (北海道立十勝農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

上 足 寄 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ14cm内外、土性はCLである。腐植含量5.6%、色は10YRで明度3、彩度4である。未、半風化の細、小角礫含む、発達弱度の細粒状、塊状構造あり、孔隙なし、ち密度15で疎、pH(H₂O)5.8、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ10cm内外、土性はCLである。腐植含量2.2%、色は10YRで明度4、彩度6である。未、半風化の細、小、中礫に富む、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔あり、pH(H₂O)5.9、下層との境界は不規則明瞭である。

第3層は24cm内外以下である。土性はCLである。腐植欠く、色は2.5Yで明度5、彩度4である。未、半風化細、小、中、角礫層である。pH(H₂O)5.5である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 北海道足寄郡足寄町 試坑No140

第1層	0~14cm	腐植に富む、暗褐(10YR $\frac{5}{4}$)のCL、未風化細、小角礫含む、発達弱度の塊状、粒状構造あり、孔隙なし、ち密度15で疎、pH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り乾、層界明瞭。
第2層	14~24cm	腐植含む、褐(10YR $\frac{5}{6}$)のCL、未風化細、小角礫に富む、発達弱度の塊状構造あり、細孔、小孔あり、pH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り半乾、層界不規則明瞭。
第3層	24~ cm	腐植欠く、黄褐(2.5Y $\frac{5}{4}$)のCL、未風化細、小、中の角礫層からなる。pH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重 ρ	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~14	5.0	5.0	2.4	41.8	36.4	19.4	CL	—	—	3.22	0.29	11	5.6
2	14~24	8.4	18.0	1.4	44.1	30.7	23.8	CL	—	—	1.29	0.14	9	2.2
3	24~	8.8	39.0	1.3	48.6	29.9	20.1	CL	—	—	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.82	4.86	1.05	21.0	17.2	2.0	0.7	81.9	690	7.2
2	5.86	4.45	1.51	26.6	18.0	4.0	4.1	67.7	810	0.8
3	5.54	4.95	8.63	25.6	15.2	4.4	3.8	59.4	930	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としてはラワン統があるが堆積様式は同じであるが母材が異なるので本統と区分される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積

B 地形

緩傾斜地

C 気候

年平均気温 5.6℃ 年降水量 837mm

D 植生および利用状況

主として牧草、えん麦らの飼料作物が作付けられている。

E 農業上の留意事項

有機物の施用、除礫

F 分布

北海道足寄郡足寄町

調査および記載責任者

菊地晃二・関谷長昭 (北海道立十勝農業試験場)

年月日

昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
上足寄	I di II t g p s

② 土壤区別説明

上 足 寄 - 上 足 寄

示性分級式(畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵
壤	効土	表表透	保保湿	保固土	置	有微酸	有物
生土	転土	土地	然	層分換	〃〃効	害理	冠す
産土	の土	の土		の性	態量	物的	水べ
力	の風	の乾	水水潤	肥肥定	塩の石	苦加	斜為
可	の層	のの	水水潤	肥肥定	塩の石	苦加	斜為
能	の磔	粘土		基	灰土里	酸要	の障
性	厚含	難着	乾	沃	状豊含	〃〃	有害
等	深	性性	さ	性性	度	力力	態量
級	さ	量易	湿	度	否	〃〃	素度
							無性
							度度
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜
							度性
							性性
							斜斜

(H₂O) 6.2、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ13cm内外、土性はSLである。腐植欠く、色は10YRで明度4、彩度4である。未風化細円礫層である。下層との境界は判然である。

第3層は厚さ20cm内外、土性はSLである。腐植欠く、色は10YRで明度4、彩度4である。未風化細、小円礫に富む、pH(H₂O) 6.3、下層との境界は判然である。

第4層は55cm以下である。色は10YRで明度4、彩度4である。未風化細、小円礫層である。

代表的断面形態

(所在地) 北海道足寄郡足寄町 試坑 № 101

第1層	0~22cm	腐植含む、暗褐(10YR $\frac{3}{4}$)のCL、未風化細、小円礫含む、発達弱度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度15で疎である。pH(H ₂ O) 6.0、調査時の湿り乾、層界明瞭。
第2層	22~35cm	腐植欠く、褐(10YR $\frac{3}{4}$)のSL、未風化細、小円礫層である。調査時の湿り乾、層界判然。
第3層	35~55cm	腐植欠く、褐(10YR $\frac{3}{4}$)のSL、未風化、細小円礫に富む、調査時の湿り半乾、層界判然。
第4層	55cm~	腐植欠く、褐(10YR $\frac{3}{4}$)、未風化細小円礫層である。調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~22	5.0	5.0	24.6	33.0	21.1	21.3	CL	—	—	2.38	0.23	10	4.1
2	22~35	4.2	30.0	46.4	33.3	8.4	11.9	SL	—	—	—	—	—	—
3	35~55	3.4	22.0	43.3	39.2	8.0	9.5	SL	—	—	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.00	4.89	0.39	22.2	17.4	5.0	0.97	78.4	750	15.6
2	6.20	4.59	0.78	16.0	11.2	4.4	0.50	70.0	900	3.2
3	6.25	4.52	0.67	14.6	9.2	5.6	0.59	63.0	630	4.4

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては、足寄太中央統があるが、堆積様式が異なるので本統と区分される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積

B 地形 緩傾斜地

B 気候

年平均気温 5.6℃ 年降水量 837mm

地力を維持するため有機物、塩基の補給が大切である。

D 分布 北海道足寄郡足寄町

記載責任者 菊地晃二（北海道立十時農業試験場）

日付 昭和44年3月31日

營 地 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外、土性はSLである。腐植含量2.0%、色は10YRで明度3、彩度4である。未風化細、小円礫含む、発達弱度の細粒状、細塊状構造あり、細孔あり、ち密度12で疎、 $pH(H_2O)$ 5.1、下層との境界は判然である。

第2層は厚さ10cm内外、土性はSLである。腐植含量1.8%、色は10YRで明度3、彩度4である。未風化細、小円礫含む、発達弱度の細塊状構造あり、細孔あり、ち密度16で疎、 $pH(H_2O)$ 5.2、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ20cm内外、土性はLSである。腐植欠く、色は2.5Yで明度4、彩度2である。褐の斑紋あり、未風化細小円礫あり、単粒状構造あり、孔隙なし、ち密度15で疎である。 $pH(H_2O)$ 5.7、下層との境界は不規則明瞭である。

第4層は50cm内外以下である。褐の斑紋含む、未風化細、小、中の円礫層である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 北海道足寄郡足寄町 試坑No.5

層	厚さ	特徴
第1層	0～20cm	腐植含む、暗褐(10YR $\frac{3}{4}$)のSL、未風化細、小、円礫含む、発達弱度の細粒状、塊状構造あり、細孔あり、ち密度12で疎、 $pH(H_2O)$ 5.1、調査時の湿り半乾、層界判然。
第2層	20～30cm	腐植あり、暗褐(10YR $\frac{3}{4}$)のSL、未風化細、小、円礫含む、発達弱度の細塊状構造あり、細孔あり、ち密度16で疎、 $pH(H_2O)$ 5.2、調査時の湿り半乾～湿、層界判然。
第3層	30～50cm	腐植欠く、暗灰黄(2.5Y $\frac{1}{2}$)のLS、未風化細、小、円礫あり、褐の斑紋あり、単粒状構造あり、孔隙なし、ち密度15で疎、 $pH(H_2O)$ 5.7、調査時の湿り、湿、層界不規則明瞭。
第4層	50cm～	腐植欠く、褐の斑紋含む未風化細、小、中の円礫層。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積%	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～20	3.5	7.4	36.0	39.6	10.0	14.4	SL	—	—	11.31	0.17	7	19.5
2	20～30	3.6	7.4	35.1	41.9	11.0	12.0	SL	—	—	1.06	0.10	11	1.8
3	30～50	3.2	5.0	26.6	61.8	7.5	4.2	LS	—	—	—	—	—	—

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.12	4.10	2.35	25.8	13.0	4.6	0.93	50.3	1,080	32.0
2	5.15	4.07	2.43	24.8	13.4	4.0	0.67	54.0	780	20.4
3	5.72	4.53	0.42	19.4	13.0	4.2	0.25	67.0	630	20.0

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としてはラワン統があるが地下水位の高低が異なるので本統と区分される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積

B 地形 緩傾斜

C 気候

年平均気温 5.6℃ 年降水量 837mm

D 植生および利用状況

てん菜、豆類、馬鈴薯が主として作付けられている。

E 農業上の留意事項

暗渠排水、有機物施用、除礫、酸度矯正

F 分布 北海道足寄郡足寄町

調査および記載責任者 菊地晃二・関谷長昭 (北海道立十勝農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
菅 地	IIw II d g f s

② 土壌区別説明

菅 地 - 菅 地

示性分級式 (畑)

土表有表耕	表表表土透保湿	自 養	障 災 傾 侵
壤 効土	然 層分換	有微酸	有物 增地 自傾人 侵耐耐
生土土	ののの風の	性 態量	害理 冠す 然 斜為 水風
産力の	ののの粘土	の 石苦加磷	害質 害の 害の 傾 傾 蝕蝕
可能厚	の難土着硬	基 灰土里酸要	の 障 危 危 傾 傾 蝕蝕
性等深	含 性性さ	沃 状豊含	有害 險 險 斜向斜 度性性
級ささ	量易 湿	力力態 量 " " 素度 無性	性 性 斜 蝕
tdgp	w f n	i a s e	
II I II I	1 1 1	II 2 3 II 1 2 2	I 1 1 I 1 1 II 2 - - I 1 1
簡略分級式	IIw II d g f s		

A 土壌区の特徴

この土壌区は菅地統に属する。作土の厚さは25cm以上で深い。有効土層は50cm内外でやゝ浅い。表土から礫が出ているので耕起、碎土は困難である。保肥力大、固定力小、土層の塩基状態中である。作土の置換性石灰、苦土、加里多、有効態磷酸多、酸度中である。地形は緩傾斜を呈し水蝕のおそれがある。特殊な障害性はない。

B 植生及び利用状況

てん菜、豆類、馬鈴薯が主として作付けられている。

C 地力保全上の問題点

排水不良であるから暗渠排水が必要である。酸性を呈するからその矯正が必要である。作土の腐植含量が少ないから有機物の施用が望ましい。礫の表土から出ているところもあるからそのような所は除礫が必要である。

D 分布 北海道足寄郡足寄町

記載責任者 菊地 晃 二 (北海道立十勝農業試験場)

日付 昭和44年3月31日

愛 冠 中 央 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外、土性はCLである。腐植含量19.3%、色は7.5YRで明度3、彩度2である。礫なく発達弱度の細粒状、塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.0ですこぶる疎、pH(H₂O)5.0、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ30cm内外、ヨシ、ハンノキからなる低位泥炭である。分解は中程度である。色は7.5YRで明度3、彩度3である。孔隙なし、ち密度1.2で疎、pH(H₂O)4.9、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ40cm内外、未分解のヨシ、ハンノキを主体とする低位泥炭である。色は7.5YRで明度5、彩度3である。孔隙なし、ち密度1.3で疎、pH(H₂O)4.7、下層との境界は明瞭である。

第4層は90cm内外以下である。腐植欠く、色は7.5Yで明度6、彩度1である。礫なく、均質連結状構造、孔隙なし、グライ層である。ち密度1.5で疎である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 北海道足寄郡足寄町 試坑No57

第1層	0～20cm	腐植すこぶる富む、黒褐(7.5YR _{5/2})のCL、礫なく、発達弱度の細粒状、塊状構造あり、細孔あり、ち密度1.0ですこぶる疎、pH(H ₂ O)5.0、調査時の湿り湿、層界明瞭。
第2層	20～52cm	腐植すこぶる富む、暗褐(7.5YR _{5/3})の分解中程度のヨシ、ハンノキから成る低位泥炭、孔隙なし、ち密度1.2で疎、pH(H ₂ O)4.9、調査時の湿り湿、層界判然。

第3層	52~90cm	腐植にすこぶる富む、にぶい褐(7.5 Y R%)の未分解のヨシ、ハンノキからなる低位泥炭、孔隙なし、ち密度13で疎、pH(H ₂ O)4.7、調査時の湿り湿、層界明瞭。
第4層	90cm~	腐植欠く、灰(7.5 Y%)、礫なく均質連結状構造、孔隙なし、グライ層、ち密度15で疎、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	7.5	0	3.4	41.7	33.4	21.5	CL	—	—	11.81	0.85	14	19.3
2	20~52	18.5	0	} 低位泥炭				ヨシ ハンノキ	—	—	3.456	2.29	15	59.6
3	52~90	14.4	0	}				ヨシ ハンノキ	—	—	3.982	2.55	16	68.6

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.02	4.18	3.06	27.4	10.6	2.0	0.29	38.7	1,545	5.2
2	4.88	3.73	6.42	—	15.2	3.2	0.08	—	—	—
3	4.72	3.63	9.17	—	13.8	6.2	0.08	—	—	—

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統として足寄中央統、塩幌統らがあるが、母材、堆積様式がことなるので本統と区分される。

A-3 母材 非固結火成岩/ヨシ、ハンノキ

A-4 堆積様式 風積/集積

B 地形 平坦

C 気候

年平均気温 5.6℃ 年降水量 837 mm

D 植生および利用状況

主として牧草、えん麦らの飼料作物が作付けられている。

E 農業上の留意事項

明渠排水、暗渠排水、酸度矯正

F 分布 北海道足寄郡足寄町

調査および記載責任者

菊地晃二・関谷長昭 (北海道立十勝農業試験場)

年月日

昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
愛冠中央	II wf II tdpna

② 土壤区別説明

愛冠中央 - 愛冠中央

示性分級式 (畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵
壤効土	表表表	透保湿	保固土	置	有微酸	有物	増地
生土	耘土	土地	然	層分換	効	害理	冠す
産土の	の風		の性	態量	物的	水り	斜
力の層	のの乾	の水水潤肥肥定塩の石苦加磷			害質	害の	の蝕
可礫	粘土		基	灰土里酸要	の障	危危	傾傾
能の	土着の乾	沃	状豊含	有害	險		方蝕蝕
性厚含難	硬						
等深	性性さ	性性度	力力態	量	素度	無性	度度
級ささ量易	湿	度	否	性	性	斜	蝕
t d g p	w	f	n	i	ã	s	e
Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	Ⅱ 2 2 2	Ⅱ 1/2	3 3	Ⅱ 1 3 3	Ⅱ 1 1 2 2 2 3	Ⅱ 1 1	Ⅱ 2 1 Ⅱ 1 - - Ⅱ 1 1 1
簡略分級式 Ⅱ w f Ⅱ t d p n a							

A 土壤区の特徴

この土壤区は愛冠中央統に属する。作土の厚さは20cm内外でやゝ深い。有効土層は1m以上で深い。作土の土性は粘質で耕起、碎土はやゝ困難である。

保肥力大、固定力中、土層の塩基状態不良、作土の置換性石灰、苦土多、加里中、有効態磷酸中で酸度強である。特殊な障害性はない。地形は平坦である。

B 植生及び利用状況

牧草、えん麦らの飼料作物が作付けられている。

C 地力保全上の問題点

地下水位高く排水不良であるから明渠排水、暗渠排水が必要である。また酸性を呈するから炭カルの施用が必要である。

D 分布 北海道足寄郡足寄町

記載責任者 菊地 晃 二 (北海道立十勝農業試験場)

日付 昭和44年3月31日

3. 保全対策地区区分及び説明

1) 保全対策地区の設定

地形、土壌断面の特徴により、更に改良対策を考慮して次の保全対策地区を設定した。

保全対策地区名	該当土壌区	面積 (ha)	主な特徴	重要な保全対策
上ラワン	上ラワン	63	1.下層三紀頁岩土壌 2.傾斜地	1.保全耕作 2.緑作帯の設置 3.酸度矯正 4.有機物の施用
植坂山	植坂山 愛冠 ワシツブ	947	1.凝灰質を母材としてい る土壌 2.乾燥地 3.平坦～緩傾斜地	1.有機物の施用 2.深耕 3.塩基の補給
東芽登	東芽登 足寄北 トブシ	562	1.火山灰性土壌 2.乾燥地 3.平坦～緩傾斜地	1.有機物の施用 2.深耕 3.磷酸資材の多施用 4.塩基の補給
足寄太	足寄太 キトウシ 塩幌 足寄太 ラワン中央	2,268	1.洪積土壌 2.適潤 3.平坦～緩傾斜地	1.有機物の施用 2.深耕
上利別	キトウシ 上下 奥白足 別愛寄	1,174	1.傾斜地 2.乾燥地	1.保全耕作 2.緑作帯の設置
上芽登	上芽登 静岡中 中央	848	1.下層堅密土壌 2.排水不良 3.平坦～緩傾斜地	1.明渠、暗渠排水 2.心土破砕 3.酸度矯正
植坂	植坂 長野	329	1.傾斜地 2.過湿過干がある	1.保全耕作 2.緑作帯の設置 3.塩基の補給 4.心土破砕
塩幌	塩幌 中愛冠 菅足 北寄 中央 地寄	1,069	1.排水不良 2.酸性 3.平坦地	1.明渠、暗渠排水 2.酸度矯正
下愛冠	東キトウシ 利別川 柏倉 下愛冠	1,171	1.下層沖積土 2.乾燥地	1.混層耕 2.有機物の施用
西1線	西1線	285	1.沖積土(砂土系) 2.平坦 3.乾燥地	1.有機物の多施用 2.埴質土の客入 3.塩基の補給
稲牛	足寄太中央 稲牛	1,098	1.沖積土(埴土系) 2.土層が不均一 3.乾燥地	1.河川改修 2.保全耕作 3.有機施用
上足寄	上足寄 ラワン	516	1.傾斜地 2.礫層浅い 3.乾燥地	1.保全耕作 2.有機物の施用 3.塩基の補給

2) 保全対策地区別説明

< 上ラワン 保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡 市 町 村 名	面 積 (ha)	該 当 土 壤 区
足 寄 郡 足 寄 町	63	上ラワンー上ラワン

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策地区の特徴は表層は新しい火山灰であるが下層が三紀層頁岩よりなる酸性の強い土壤である。また傾斜を呈するので土の養分の流亡も激しい。

従つて保全耕作、緑作帯の設置により地力の低下を防ぎ、また地力を維持向上するために有機物の多施用と深耕による作土層を深めることが必要になる。しかし心土の酸性が強いのでその矯正は忘れてはならない。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象の面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
水 蝕 防 止 有 機 物 施 用	63	保全耕作、緑作帯の設置 堆厩肥施用	牧草種子の補助、家畜の増加

< 植坂山 保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡 市 町 村 名	面 積 (ha)	該 当 土 壤 区
足 寄 郡 足 寄 町	947	植 坂 山 - 植 坂 山 愛 冠 - 愛 冠 ワ シ ッ プ - ワ シ ッ プ

(2) 地力保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策地区の特徴は下層凝灰岩を母材とした土壤である。地形は平坦～緩傾斜で水蝕の心配は少ない。大なる問題はないが更に地力増強するために有機物を施用しつつ深耕し作土層を深めるべきであろう。また下層壤質のため養分の溶脱が大であるから塩基の補給は忘れてはならない。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象の面積(ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
有 機 物 の 施 用 深 耕 塩 基 の 補 給	947	堆厩肥施用、緑肥導入	家畜の増加

< 東芽登保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	該当土壌区
足寄郡足寄町	562	東芽登一東芽登 足寄北一足寄北 トブシートブシ

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策地区の特徴は下層が火山性土壌である。乾燥地で地形は平坦～緩傾斜地である。土壌としては大なる問題はないが更に積極的に地力を高めるために有機物を施用しつつ漸次深耕することが望ましい。この場合下層火山灰質のため磷酸の固定力が大きいから土壌改良資材としての磷酸の多投入が必要である。また地力も低下し易いから塩基の補給も忘れてはならない。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象の面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
有機物施用 深耕 磷酸の多施用 塩基の補給	562	堆厩肥の施用	家畜の増加

< 足寄太保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	該当土壌区
足寄郡足寄町	2,268	足寄太一足寄太 茂キトウシ一茂キトウシ 塩幌一塩幌 足寄太西一足寄太西 ラワン中央 ラクン中央

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策地区の特徴は下層埴質な洪積土壌をとりまとめたもので、主要農耕地となり大なる問題はみられないが、更に地力を高めより高い生産を上げるために有機物を施用しつつ漸次深耕すべきであろう。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象の面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
有機物の施用 深耕	2,268	堆厩肥、緑肥の導入	家畜の増加

＜上利別保全対策地区＞

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	該当土壌区
足寄郡足寄町	1,174	キトウシ - キトウシ 上利別 - 上利別 下白愛 - 下白愛 奥足寄 - 奥足寄

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策地区の特徴は傾斜を呈することである。従つて水蝕のため作土の流亡のはげしく、礫層の近いところも見受けられる。よつて保全耕作、緑作帯の設置が必要である。また同時に養分の溶脱、流亡も激しいから塩基の補給も大切である。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象の面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
水蝕防止 塩基の補給	1,174	保全耕作、緑作帯設置	牧草種子の補助

＜上芽登保全対策地区＞

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	該当土壌区
足寄郡足寄町	848	上芽登 - 上芽登 静岡中央 - 静岡中央

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策地区の特徴は下層土が堅密のため排水不良となつている。従つて明渠、暗渠と心土破砕の併用が必要である。また酸性を呈するのでその矯正も忘れてはならない。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象の面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
排水 心土破砕 酸度矯正	848	明渠、暗渠排水 パンプレーカの使用 石灰の施用	工事費の補助 土管の補助 炭カル施用 (200Kg/10a)

< 植 坂 保 全 対 策 地 区 >

(1) 分 布 状 況

郡 市 町 村 名	面 積 (h a)	該 当 土 壤 区
足 寄 郡 足 寄 町	3 2 9	植 坂 - 植 坂 長 野 - 長 野

(2) 保 全 対 策 地 区 の 特 徴 と 地 力 保 全 上 の 問 題 点

本対策地区の特徴は下層に堅密層を有するが地形が傾斜を呈するので降雨時に1時的に過湿となるが大した心配はない。地形が傾斜のため水蝕のおそれは大きい。

従つて部分的には暗渠、心破らの実施も必要であろう。水蝕防止のため保全耕作、緑作帯の設置が必要である。また養分の溶脱も大きいから塩基の補給は忘れてはならない。

(3) 地 力 保 全 対 策

対 策 の 種 類	対 象 の 面 積 (h a)	実 施 方 法	対 策 資 材 及 び 機 械 器 具 の 種 類 、 型 式 、 数 量
水 蝕 防 止 一 部 排 水 塩 基 の 補 給	3 2 9	保 全 耕 作 、 緑 作 帯 設 置 暗 渠 排 水 、 心 土 破 碎	工 事 費 の 補 助 、 土 管 の 補 助

< 塩 幌 保 全 対 策 地 区 >

(1) 分 布 状 況

郡 市 町 村 名	面 積 (h a)	該 当 土 壤 区
足 寄 郡 足 寄 町	1, 0 6 9	塩 幌 北 - 塩 幌 北 中 足 寄 - 中 足 寄 愛 冠 - 愛 冠 誉 地 - 誉 地 足 寄 - 足 寄

(2) 保 全 対 策 地 区 の 特 徴 と 地 力 保 全 上 の 問 題 点

本対策地区の特徴は土壌が過湿で排水不良を呈することである。従つて排水の問題が先決である。また酸性を呈するので矯正することが必要である。

(3) 地 力 保 全 対 策

対 策 の 種 類	対 象 の 面 積 (h a)	実 施 方 法	対 策 資 材 及 び 機 械 器 具 の 種 類 、 型 式 、 数 量
排 水 酸 度 矯 正	1, 0 6 9	明 渠 、 暗 渠 排 水 石 灰 施 用	工 事 費 、 土 管 の 補 助 炭 カ ル (300 / 10 a)

＜ 下 愛 冠 保 全 対 策 地 区 ＞

(1) 分 布 状 況

郡 市 町 村 名	面 積 (ha)	該 当 土 壤 区
足 寄 郡 足 寄 町	1, 1 7 1	東キトウシ — 東キトウシ 利 別 川 — 利 別 川 柏 倉 — 柏 倉 下 愛 冠 — 下 愛 冠

(2) 保 全 対 策 地 区 の 特 徴 と 地 力 保 全 上 の 問 題 点

本対策地区の特徴は下層が沖積土壌で本地区での主要農耕地となつているところで生産も高いところである。大なる問題はないので更に生産を高めるために有機物を施用しつつ漸次深耕すべきである。

(3) 地 力 保 全 対 策

対 策 の 種 類	対 象 の 面 積 (ha)	実 施 方 法	対 策 資 材 及 び 機 械 器 具 の 種 類 、 型 式 、 数 量
有 機 物 の 施 用 深	1, 1 7 1	堆 厩 肥 の 施 用	家 畜 の 増 加

＜ 西 1 線 保 全 対 策 地 区 ＞

(1) 分 布 状 況

郡 市 町 村 名	面 積 (ha)	該 当 土 壤 区
足 寄 郡 足 寄 町	2 8 5	西 1 線 — 西 1 線

(2) 保 全 対 策 地 区 の 特 殊 と 地 力 保 全 上 の 問 題 点

本対策地区の特徴は作土が砂質、心土も砂と礫からなる互層のため過干を呈する。また同時に保肥力、保水力も小さい、従つて粘土の客土とか、有機物の施用により保肥力、保水力を高める必要がある。

(3) 地 力 保 全 対 策

対 策 の 種 類	対 象 の 面 積 (ha)	実 施 方 法	対 策 資 材 及 び 機 械 器 具 の 種 類 、 型 式 、 数 量
有 機 物 施 用 客 土	2 8 5	緑 肥 導 入 粘 土 の 客 土	種 子 の 補 助

＜ 稻 牛 保 全 対 策 地 区 ＞

(1) 分 布 状 況

郡市町村名	面積 (ha)	該当土壌区
足寄郡足寄町	1,098	稲 牛 - 稲 牛 足寄太中央 - 足寄太中央

(2) 保対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策地区の特徴は河川の流域に分布する沖積土で土層の状態が乱れているのが特徴である。有効土層の浅い場合が多い。一部地 表から巨大礫の散在するところもある。以上のことから河川改修などにより農地の整理も必要である。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象の面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
有機物の施用 河川改修 保全耕作	1,098		工事費の補助

< 上足寄保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	該当土壌区
足寄郡足寄町	516	上足寄 - 上足寄 ラワン - ラワン

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策地区の特徴は礫層の近い、緩傾斜を呈する乾燥の扇状地をとりまとめたものである。保全耕作により水蝕防止し養分の流亡を防ぐべきである。また地力が減耗し易いから有機物、塩基の補給は忘れてはならない。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象の面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
水蝕防止 有機物の施用 塩基の補給	516	保全耕作 堆厩肥、緑肥の導入	

2) 土壤分析成績

保 全 对 策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さcm	理 学										現 容 積 重 g
					礫 (風 乾 物 中) %	風乾細土中		細土無機物中					土 性		
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %			
上 ラ ワ ン	上 ラ ワ ン	123	1	0~16		6.8	374	042	2248	2290	4637	3073	Si C		
			2	16~30		7.5	—	046	1850	1896	4511	3593	Si C		
			3	30~		87	—	025	1566	1591	2457	5952	H C		
植 坂 山	植 坂 山	186	1	0~16		64	1357	624	4050	4674	3250	2076	CL		
			2	16~28		8.0	6.95	837	4020	4857	3368	1774	CL		
			3	28~45		86	—	895	4565	5460	3285	1256	L		
			4	45~60		7.0	—	1332	4305	5637	3239	1124	L		
			5	60~		53	—	1814	3642	5456	3732	812	L		
坂	愛 冠	56	1	0~18		53	8.63	852	3898	4750	3097	2154	CL		
			2	18~32		74	466	1288	4195	5483	2931	1585	CL		
			3	32~45		7.0	—	1942	4912	6854	2464	682	SL		
			4	45~63		4.2	—	346	4612	4958	4072	971	L		
山	ワ シ ツ ブ	71	1	0~22		40	9.57	1481	3634	5115	3363	1522	CL		
			2	22~40		47	255	3340	2914	6254	1873	1873	SCL		
			3	40~		49	—	2814	4290	7104	2050	845	SL		
東 芽 登	東 芽 登	160	1	0~21		55	1072	600	4222	4822	3440	1738	CL		
			2	21~47		8.6	512	725	5237	5962	3217	820	L		
			3	47~65		9.2	—	655	5963	6618	2697	685	SL		
			4	65~		9.2	—	421	5491	5912	2993	1094	L		

性				化 学 性												
地における理学性 100cc容中				P H		置換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩置換 容 基 量 me/ 100g	置換性塩基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/ 100g
固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %	H ₂ O %	KCl %		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
				612	532	038	217	018	12	—	6617	726	420	—	1020	336
				473	377	2255	—	—	—	288	3701	137.1	240	458	840	88
				460	369	3407	—	—	—	304	4430	726	140	520	1230	12
				562	450	210	787	057	14	282	3477	161	60	440	1440	24
				560	440	551	403	032	13	206	1066	282	40	184	540	08
				572	450	211	—	—	—	156	673	242	40	154	540	—
				571	442	180	—	—	—	100	449	323	40	160	1500	—
				573	417	676	—	—	—	96	785	524	40	292	990	—
316	480	204	684	602	480	070	501	040	13	242	5159	726	300	760	2010	184
300	470	230	700	610	461	112	270	026	10	200	3140	645	320	560	1710	—
256	450	294	744	621	470	081	—	—	—	156	2243	444	340	513	1950	—
—	—	—	—	618	461	066	—	—	—	118	2131	685	240	644	1140	—
295	420	285	705	573	478	100	555	037	15	232	4486	323	140	690	1320	56
353	440	207	647	550	410	536	148	013	11	140	1346	282	80	343	1350	—
295	345	360	705	568	433	288	—	—	—	82	392	121	90	17.1	1410	—
				577	508	063	622	048	13	240	4823	363	140	717	1560	72
				575	500	071	297	028	11	144	1458	282	240	361	1890	04
				595	514	049	—	—	—	96	953	363	140	354	1890	—
				588	512	051	—	—	—	112	729	444	100	232	1620	56

2) 土壤分析成績

保全 対策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学								現 容 積 重 g	
					礫 (風乾物中) %	風乾細土中		細土無機物中						土 性
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %		
東 芽 登	足 寄 北	2	1	0~15		64	1062	8.10	42.29	5039	3250	17.11	CL	
			2	15~28		59	1143	7.89	39.14	4703	3215	2082	CL	
			3	28~40		89	419	8.83	43.71	5254	3875	872	L	
			4	40~55		91	—	12.12	41.48	5360	3709	931	L	
			5	55~		68	—	16.34	39.72	5606	3425	970	L	
	ト ブ シ	22	1	0~15		78	1276	8.90	25.06	3396	3774	2830	LiC	
			2	15~33		107	1269	11.38	21.07	3245	4060	2695	LiC	
			3	33~50		91	886	10.06	35.75	4581	4015	1404	L	
4			50~		106	—	9.95	52.52	6247	3003	749	L		
足 寄 太	茂 キ ト ウ シ	190	1	0~15		59	1086	5.48	35.11	4059	3661	2280	CL	
			2	15~28		7.1	606	5.74	41.45	4719	3540	1741	CL	
			3	28~50		7.2	—	14.89	46.17	6106	2826	10.69	L	
			4	50~		8.0	—	15.13	55.38	7051	2245	7.03	SL	
	足 寄 太	65	1	0~20		5.6	965	4.31	34.51	3882	4097	2021	CL	
			2	20~26		6.7	7.79	4.06	37.71	4177	3793	2035	CL	
			3	26~45		7.7	5.10	4.14	51.77	5591	3279	11.29	L	
			4	45~67		7.4	—	6.83	53.78	6061	3067	8.72	L	
太 塩 幌	61	1	0~13		4.6	988	14.35	39.82	5417	2915	1668	CL		
		2	13~36		4.9	7.45	19.14	43.52	6266	2881	8.54	L		
		3	36~55		3.0	—	25.60	43.59	6919	2265	8.17	SL		

性				化 学 性												
地における理学性 100cc容中				P H		置換 酸度 Y ₁	有 機 物			塩置換 容量 me/100g	置換性塩基 $\frac{mg}{100g}$			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数 $\frac{mg}{100g}$	有効態 磷酸 $\frac{mg}{100g}$
固相容積 cc	水分容積 cc	空気容積 cc	孔隙率 %	H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
				560	453	141	6.16	0.49	13	315	4206	362	400	47.4	1800	44
				555	465	129	6.63	0.53	13	332	4710	403	280	50.6	1620	116
				585	476	096	2.43	0.24	10	208	1480	282	422	25.0	2,190	04
				597	483	078	—	—	—	17.6	1122	403	240	22.7	1980	24
				612	460	092	—	—	—	—	—	—	—	—	1560	04
37.3	455	162	62.7	585	505	053	7.41	0.59	13	35.0	7234	484	260	73.7	1620	132
33.9	440	221	66.1	580	475	102	7.37	0.63	12	38.6	6225	524	140	57.5	1950	—
22.0	38.0	400	78.0	580	470	103	5.14	0.46	11	31.4	3926	323	140	44.5	2070	—
22.5	36.0	415	77.5	582	488	064	—	—	—	18.4	1570	242	120	30.4	2250	—
				569	471	127	6.30	0.43	15	260	3701	363	260	50.8	1260	80
				588	470	157	3.51	0.25	14	17.4	1795	524	280	36.8	1,710	—
				589	460	208	—	—	—	130	897	444	600	24.6	1,650	—
				578	466	147	—	—	—	11.6	336	403	280	10.3	1,680	—
26.3	535	202	73.7	601	480	069	5.60	0.55	10	28.0	3701	645	340	47.1	1500	56
29.3	525	182	70.7	578	442	203	4.52	0.39	12	28.0	3253	403	80	41.4	1950	—
34.5	445	31.0	75.5	564	410	827	2.96	0.21	14	19.6	3140	282	90	57.1	1920	—
—	—	—	—	565	421	498	—	—	—	12.2	1009	202	200	29.5	1740	—
				564	453	179	5.73	0.36	16	21.8	2972	242	40	48.6	1440	44
				593	433	282	4.32	0.15	29	31.8	1122	242	260	12.6	1,380	—
				595	437	241	—	—	—	8.0	561	323	60	25.0	1320	—

2) 土壤分析成績

保 全 对 策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学								現 容 積 重 ♀	
					礫 風 乾 物 中 %	風乾細土中		細土無機物中						土 性
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %		
足 寄 太	足 寄 太 西	115	1	0~15	48	603	1240	3984	5224	3070	1705	CL		
			2	15~23	58		1818	3942	5760	2892	1347	L		
			3	23~40	49	241	1788	37.05	5493	2280	2227	CL		
			4	40~53	44		2311	4555	6866	2027	1107	SL		
			5	53~75	59		1915	4222	6137	2363	1500	CL		
	太	ラ ワ ン 中 央	132	1	0~15	65	733	611	3442	4053	3624	2322		CL
				2	15~27	88		983	3751	4734	3119	2148		CL
				3	27~45	94		1131	3839	4970	3472	1558		CL
4				45~60	7.6		248	3051	3299	4393	2308	CL		
上 利 別	キ ト ウ シ	192	1	0~13	64	1062	923	3003	3926	3856	2218	CL		
			2	13~28	7.1	448	792	4403	51.95	3649	1155	L		
			3	28~35	66		379	4403	4782	3617	1601	CL		
			4	35~	58		351	2612	2963	4641	2396	SiCL		
	利	上 利 別	16	1	0~13	55	788	1507	2526	4033	3056	2911	LiC	
				2	13~25	7.1	239	2234	4269	65.03	2162	1335	SL	
				3	25~48	66		2910	3413	6323	2357	1320	L	
	別	下 白 愛	142	1	0~16	53	740	629	3639	4268	3854	1878	CL	
2				16~30	55	641	640	4268	4908	3375	17.17	CL		
3				30~52	73	402	689	4931	5620	2848	1532	CL		
4				52~65	84		846	5495	6341	2551	1108	L		

性				化 学 性												
地における理化学性 100cc容中				P H		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 置 換 容 量 me/ 100g	置換性塩基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/ 100g
固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %	H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
345	490	165	655	587	498	067	350	032	1.1	214	4486	484	140	748	1140	180
317	415	268	683	538	432	265	—	—	—	—	1718	1492	80	—	1200	—
27.0	345	385	730	530	419	343	140	0.14	10	17.8	157.0	403	320	315	1230	—
355	285	360	645	572	440	110	—	—	—	118	157.0	564	240	475	840	—
				580	446	107	—	—	—	132	1907	806	360	515	1140	—
31.0	355	335	690	615	520	049	426	039	11	330	7290	806	120	788	750	76
29.0	325	385	710	598	450	110	—	—	—	284	572.0	806	60	718	1080	08
				618	439	105	—	—	—	244	527.1	806	80	77.0	1140	—
				612	431	162	—	—	—	—	6393	242	140		1440	—
				533	428	423	616	043	14	204	157.0	1613	160	275	1440	36
				566	437	328	260	021	12	92	393	806	80	152	1620	—
				535	418	646	—	—	—	142	785	242	10.0	197	1500	—
				523	398	1479	—	—	—	144	785	564	80	194	1080	—
				623	546	061	457	035	13	234	4823	202	240	735	1260	—
				604	491	080	138	013	11	—	—	—	—	—	1530	—
				552	460	313	—	—	0.21	130	1514	282	120	415	1560	—
				631	539	077	429	034	13	228	5608	444	120	87.7	1020	104
				644	560	039	372	032	12	242	6281	444	60	926	1140	—
				603	476	130	233	025	9	232	4262	564	160	655	1860	—
				578	448	311	—	—	—	180	1790	564	140	356	1800	—

2) 土壤分析成績

保全 対策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学								現 容 積 重 g	
					礫 (風乾物中) %	風乾細土中		細 土 無 機 物 中						土 性
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ レ ト %	粘 土 %		
	奥 足 寄	92	1	0~2.0		41	443	1515	434.3	5858	2484	1657	CL	
			2	2.0~3.5		42	151	1716	4203	5919	2281	1800	CL	
			3	3.5~4.6		34		2551	4257	6808	2123	1069	SL	
上 茅 登	上 茅 登	170	1	0~1.5		61	1232	630	3815	4445	3140	2415	CL	
			2	1.5~3.0		71	732	864	3472	4336	3629	2035	CL	
			3	3.0~5.0		72		924	4035	4959	3742	1299	L	
			4	5.0~6.5		61		1012	3161	4173	3633	2195	CL	
			5	6.5~		59		1007	3305	4312	3353	2335	CL	
登	静 岡 中 央	12	1	0~2.0		80	846	708	2806	3514	3732	2754	LiC	
			2	2.0~3.3		98	328	925	1908	2833	2516	4651	HC	
			3	3.3~4.0		69		1235	2484	3719	2996	2869	LiC	
			4	4.0~		45		1475	3368	4843	3486	1670	CL	
植 坂	植 坂	184	1	0~1.8		52	963	948	3545	4493	3524	1984	CL	
			2	1.8~2.8		52	539	802	2618	3420	3129	3451	LiC	
			3	2.8~5.0		48		888	2458	3346	3889	2764	LiC	
			4	5.0~6.0		49		854	2417	3271	3840	2889	LiC	
坂	長 野	99	1	0~1.5		41	615	686	3175	3861	4422	1716	CL	
			2	1.5~2.5		42		1831	3663	5494	2657	1849	CL	
			3	2.5~4.0		35		2152	3917	6069	2477	1454	L	
			4	4.0~		32		1792	4420	6212	2706	1081	L	

性				化 学 性												
地における理学性 100cc容中				P H		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 置 換 容 基 量 me/ 100g	置換性塩基 mg/ 100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/ 100g
固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %	H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
				547	430	283	257	020	13	158	2075	282	340	468	990	92
				518	393	875	087	008	11	112	1458	484	120	46.4	1500	
				526	402	433				90	1346	564	460	53.3	1050	
115	605	280	885	530	440	175	715	055	13	234	1907	484	140	29.1	1590	24
185	555	260	815	538	433	466	424	035	12	182	785	323	120	15.4	1560	
160	495	345	840	557	437	387				134	336	403	160	8.9	1500	
				545	422	662				130	561	403	140	15.4	1330	
				565	417	809				136	729	363	160	19.1	1290	
395	530	75	605	568	435	333	491	043	11	266	1458	403	180	19.5	1740	52
443	495	62	55.7	546	403	1123	190	017	11	206	672	403	320	11.6	1950	20
				528	412	989				152	392	403	100	9.2	1320	28
				595	410	375									1020	24
				564	453	199	559	040	14	236	3084	323	100	46.6	1290	328
				585	450	175	313	024	13	202	2804	484	120	49.5	1140	
				570	432	316				142	2075	605	300	52.1	1080	
				553	427	360				132	1907	726	220	51.5	840	
367	445	178	623	563	456	131	357	027	13	196	3140	242	80	57.1	750	108
410	350	240	590	564	418	387				146	2019	645	120	49.3	1200	24
				570	421	259				122	1682	806	180	49.2	690	
				597	430	115					1122	806	240		540	

2) 土壤分析成績

保全 対策区	土 壤 区 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学									
					礫 (風乾物中) %	風乾細土中		細土無機物中					土 性	現 容 積 重 g
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %		
塩 幌	足 寄	95	1	0~17		4.8	6.95	6.24	36.63	42.87	34.77	22.36	CL	
			2	17~24		4.4	1.61	9.76	42.23	51.99	27.30	20.71	CL	
			3	24~33		3.9	—	8.16	43.21	51.37	32.51	16.13	CL	
			4	33~53		7.4	—	3.90	30.52	34.42	3.986	25.72	LiC	
			5	53~		3.9	—	30.38	41.83	7.221	16.15	11.65	SL	
下 愛 冠	東 キ ト ウ シ	182	1	0~18		5.2	10.60	10.51	3.931	4.982	35.35	14.83	CL	
			2	18~36		6.7	7.19	12.05	4.463	5.658	3.149	1.183	L	
			3	36~		6.5	—	10.90	4.377	5.467	3.833	7.00	L	
	利 別 川	24	1	0~16		5.8	8.23	13.36	3.382	4.718	2.613	2.670	LiC	
			2	16~26		5.6	2.27	8.30	5.143	5.973	2.011	2.016	CL	
			3	26~40		4.5	—	22.41	5.142	7.383	1.311	1.306	SL	
	柏 倉	189	1	0~15		6.4	13.63	5.42	3.156	3.698	3.746	2.557	LiC	
			2, 3	15~34		9.6	13.87	4.66	3.509	3.975	3.750	2.275	CL	
			4	34~44		11.6	7.16	7.03	5.464	6.167	2.955	8.78	LiC	
下 愛 冠	58	1	0~14		5.0	9.02	4.76	4.368	4.844	3.207	1.949	CL		
		2	14~22		5.0	9.82	4.39	3.222	3.661	4.321	2.018	CL		
		3	22~30		5.6	4.96	3.81	4.510	4.891	3.008	2.100	CL		
		4	30~38		4.6	—	0.76	5.569	5.645	2.605	1.751	CL		
		5	38~		3.5	—	2.00	6.726	6.926	2.053	1.021	SL		

性				化学性												
地における理学性 cc容中				PH		置換 酸 度 Y ₁	有機物			塩置換 容 基量 me/ 100g	置換性 塩基 mg/100g			石灰飽和 度 %	磷酸吸 収係 数	有効態 磷酸 mg/ 100g
固相 容積 cc	水分 容積 cc	空気 容積 cc	孔 隙 率 %	H ₂ O	Kcl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
37.7	50.5	118	623	5.56	4.32	26.0	40.3	0.31	13	17.4	224.3	32.3	120	46.0	1560	8.4
41.5	38.0	20.5	58.5	5.71	4.20	29.7	0.93	0.13	7	12.2	168.2	46.4	160	49.2	990	—
41.0	28.5	30.5	59.0	5.50	3.93	56.4	—	—	—	—	168.2	72.6	180	—	1290	—
—	—	—	—	5.15	36.7	15.27	—	—	—	—	41.50	14.52	340	—	1140	—
—	—	—	—	5.47	38.9	62.9	—	—	—	13.4	21.31	72.6	260	56.7	630	—
				5.90	4.91	12.0	6.15	0.46	13	23.4	364.5	28.2	340	55.6	1260	10.8
				5.78	4.98	0.89	4.17	0.35	12	1.68	179.5	16.1	200	38.1	1800	—
				5.86	4.92	0.77	—	—	—	1.46	280.4	28.2	80	68.5	1830	—
				5.66	4.68	0.80	4.83	0.43	11	3.18	661.7	48.4	340	74.2	1380	8.4
				5.40	4.08	8.73	1.32	0.13	10	2.36	392.6	64.5	140	59.3	1500	2.4
				5.35	4.04	14.28	—	—	—	1.84	269.2	56.4	140	52.2	1080	3.2
				5.32	4.45	3.11	7.91	0.59	13	28.8	302.8	40.3	520	37.5	1290	23.2
				4.72	4.15	8.68	8.05	0.61	13	33.8	123.4	28.2	420	13.0	1980	—
				4.98	4.48	2.51	4.16	0.37	11	20.2	78.5	24.2	560	13.9	2130	—
				4.95	4.53	2.14	—	—	—	16.8	56.1	12.1	591	11.9	2010	—
				6.02	4.93	0.49	5.23	0.42	13	27.6	605.7	72.6	340	78.3	1290	18.0
				5.92	4.90	0.65	5.70	0.41	14	27.2	594.4	60.5	160	77.9	1350	12.8
				5.75	4.45	1.37	2.88	0.25	12	2.60	448.6	64.5	120	61.5	1350	2.0
				5.78	4.18	2.08	—	—	—	20.0	398.2	88.7	120	71.0	1380	—
				5.94	4.23	11.5	—	—	—	22.0	286.0	88.7	160	46.4	1020	—

2) 土壤分析成績

保全 対策区	土 壤 区 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学								現 容 積 重 %	
					礫 (風 乾 物 中) %	風乾細土中		細土無機物中						土 性
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %		
塩	塩 幌 北	37	1	0~17		72	1022	10.11	31.12	41.23	38.48	20.29	C L	
			2	17~24		39	1.26	25.64	38.02	6.366	23.67	12.67	L	
			3	24~33		40	—	14.91	33.31	48.22	34.74	17.04	C L	
	中 足 寄	97	1	0~20		49	435	1.40	33.32	34.72	40.51	24.77	C L	
			2	20~30		53	1.55	2.24	34.47	36.71	42.36	20.93	C L	
			3	30~45		52	—	3.41	56.51	59.92	24.07	16.01	C L	
	幌 地	5	1	0~20		35	19.49	36.00	39.61	7.561	10.00	14.38	S L	
			2	20~30		36	1.83	35.10	41.93	7.703	10.95	12.02	S L	
			3	30~50		32	—	26.56	61.81	88.37	7.45	4.18	L S	
愛 冠 中 央	57	1	0~20		7.5	19.33	3.42	41.69	45.11	33.35	21.54	C L		
		2	20~52		18.5	59.55	—	泥炭(腐植土)						
		3	52~90		14.4	68.62	—							
西 1 線	西 1 線	51	1	0~23		40	1.18	24.10	58.39	82.49	10.32	7.19	S L	
			2	23~		2.1	—	28.42	61.82	90.24	5.50	4.25	L S	

性 化 学 性																
地(における)理学性 100 cc 容中				PH		置 換 度 Y	有 機 物			塩置 換容 基量 me/ 100 g	置換性 塩基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/ 100 g
固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 氣 容 積 cc	孔 隙 率 %	H ₂ O	Kcl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
				573	452	1.13	593	045	13	262	841	363	180	115	1500	140
				565	417	7.03	073	008	9	100	117.8	524	140	42.0	960	28
				555	383	792	—	—	—	120	201.9	323	120	600	1500	—
				545	431	1.84	252	025	10	246	4599	968	240	667	1290	17.2
				576	400	360	090	006	15	—	487.9	121.0	140	—	1020	—
				597	415	251	—	—	—	60	4599	137.1	20.0	273	810	—
				512	410	2.35	1131	017	7	258	3645	92.7	440	503	1080	320
				515	407	2.43	106	010	11	248	3757	806	320	540	780	204
				572	453	042	—	—	—	1.94	3645	846	12.0	67.0	630	200
				502	418	306	11.81	085	14	27.4	2972	403	140	38.7	1545	52
				488	373	642	3456	229	15	—	426.2	64.5	40	—	—	—
				472	363	917	3982	255	16	—	3870	1048	40	—	—	—
				506	378	522	068	009	8	170	3197	685	280	67.1	780	35.2
				612	440	0.51	—	—	—	102	2580	645	1600	90.1	930	17.2

2) 土壤分析成績

保全対策区	土壌区	地点番号	層位	深さ cm	理 学								現地		
					礫 (風乾物中) %	風乾細土中		細土無機物中						土性	容積重 g
						水分 %	腐植 %	粗砂 %	細砂 %	砂合計 %	シルト %	粘土 %			
稲	足寄太中央	6	1	0~16		43	315	934	5183	611.7	2176	1707	C L		
			2	16~32		4.7		249	6267	65.16	1977	1506	SCL		
			3	32~80		50		164	6553	67.17	1144	2140	S L		
	牛	121	1	0~13		5.1	333	282	3952	4234	32.92	2474	C L		
			2	13~23		5.1	200	615	4956	5571	2471	1958	C L		
			3	23~		48		420	6006	64.26	1953	1621	SCL		
上足寄	ラワン	101	1	0~22		50	411	2459	33.04	5763	2107	2129	C L		
			2	22~35		42		4644	3325	7969	843	1188	S L		
			3	35~55		34		4329	3923	8252	795	953	S L		
	上足寄	140	1	0~14		5.0	556	236	4179	4415	3641	1943	C L		
			2	14~24		84	223	144	4412	4556	3065	2378	C L		
			3	24~		88		132	4863	4995	2991	2014	C L		

性				化 学 性												
100cc容中における物理学性				P H		置換酸度 Y ₁	有機物			塩置換容量 me/100g	置換性塩基 mg/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 me/100g
固相容積 cc	水分容積 cc	空気容積 cc	孔隙率 %	H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
				615	490	049	183	019	10	266	6001	846	280	804	1020	368
				643	491	043				262	5832	1048	280	793	1260	27.6
				653	491	031				290	5608	1290	400	689	1200	220
				550	462	067	1.93	020	10	27.2	5496	80.6	1020	72.1	810	29.6
				615	472	064	1.16	012	10	2.46	5103	80.6	980	740	1230	27.2
				643	461	083				244	4542	141.1	760	66.4	840	228
				600	489	039	2.38	023	10	22.2	4879	1008	460	78.4	750	156
				620	459	078				160	3140	887	240	700	900	3.2
				625	452	067				146	2580	1129	280	630	630	4.4
				582	486	105	322	029	11	210	4823	403	340	819	690	72
				586	445	151	1.29	0.14	9	26.6	5047	80.6	1940	67.7	810	0.8
				554	395	863				256	4262	88.7	1800	594	930	